

2023年度

「学生による授業評価アンケート」

報告書

立教大学

2024年 9月

これまでに発行した『学生による授業評価アンケート報告書』は、大学教育開発・支援センターの Web サイトより閲覧いただけます。下記 URL または QR コードへアクセスし、「刊行物・情報公開」から「学生による授業評価アンケート報告書」を選択してください。

<https://www.rikkyo.ac.jp/about/activities/fd/cdshe.html>



はじめに

総長 西原 廉太

立教大学の「学生による授業評価アンケート」は2004年度から開始され、すでに19年に亘って運用されています。この間、「学生による授業評価アンケート」は進化を重ねていますが、その基本的な目的は変わることはありません。それは、教員が自らの授業改善に資するための基礎的データであり、学生の授業への参与度、姿勢、期待を知るための手がかりであることはもちろん、学生たちがアンケートに回答することを通して、学生に授業履修への積極性と責任意識の醸成を促すこと、また、さらには、学部・学科のカリキュラムの有効性を測定するための資料であり、ひいては、立教大学のあらゆる教学改革方針・施策を決定していくための重要なデータとしての役割が期待されています。

2023年度も、教職員のみなさんのご尽力の結果、年間を通しての授業運営ができました。この場をお借りして、心から感謝申し上げます。

2024年度には、「RIKKYO Learning Style 第2ステージ構想検討」を、「副専攻制度・数理系科目分科会」「履修環境分科会」の2つの分科会を立ち上げ、鋭意検討を進めています。その際に、この「学生による授業評価アンケート」からも多くの重要な論点が抽出されています。

本学の「学生による授業評価アンケート」を特徴づけるものの一つは、その質問項目が、学生自身の授業への取り組み方、学生が授業から得られたものを中心に問うていることです。この質問項目の背景には、大学の授業というものが、教員からの一方的な知識の伝達ではなく、教員と学生のインタラクティブな営みであるという思想があります。私たちの授業とは、教員と学生が、知の礎の上に立ちながら、共に対話し、新たな意味や価値の発見に開かれていくダイナミックな現場です。そこでは教員もまた、「教えられ、変えさせられ、強められる」ことに気づかされます。

本報告書が、教職員のみならず、とりわけ授業の最も重要な当事者である学生のみなさんに読んでいただくことを期待しています。

目次

はじめに

1. 本学における「学生による授業評価アンケート」について	1
1-1 目的	1
1-2 「報告書」作成の基本的な考え方	2
1-3 「所見票」について	3
1-4 実施科目の選定方針	4
1-5 回答結果の全学的な活用に向けて	5
2. 授業評価アンケートの実施概要	7
2-1 実施方式	7
2-2 設問項目	7
2-3 各学部等の科目選定方針	11
2-4 実施科目数	13
2-5 実施期間	13
2-6 回答者数	14
2-7 「所見票」の公開	14
2-8 任意実施科目	14
3. 科目担当者・学部等への集計結果のフィードバック	15
3-1 科目担当者	15
3-2 学部等	15
4. 学部等総評	20
4-1 文学部	21
4-2 経済学部	24
4-3 理学部	27
4-4 社会学部	30
4-5 法学部	33
4-6 経営学部	36
4-7 異文化コミュニケーション学部	39
4-8 グローバル・リベラルアーツ・プログラム運営センター	43
4-9 観光学部	45
4-10 コミュニティ福祉学部	48
4-11 現代心理学部	51
4-12 スポーツウエルネス学部	53
4-13 全学共通カリキュラム運営センター・総合系科目	55
4-14 全学共通カリキュラム運営センター・言語系科目	64
4-15 学校・社会教育講座	72
5. 2023年度のまとめと今後の展望	74
6. 2023年度集計データ（資料編）	76
6-1 回答者数・回答率	76
6-2 学部等別設問項目別平均値・回答割合	77

1. 本学における「学生による授業評価アンケート」について

まず、本項では、本学における「学生による授業評価アンケート」の実施概要について取り上げる。

前半の1-1「目的」、1-2『報告書』作成の基本的な考え方、1-3「所見票について」では、2004年度の「学生による授業評価アンケート」の開始以来、これまで継承している本アンケート実施にあたっての基本的理念および方針について、同年度の「報告書」における当該項目の記載内容を転載することによって確認する。

後半の1-4「実施科目の選定方針」、1-5「回答結果の全学的な活用に向けて」では、これらの基本的理念および方針を受けて、2004年度から当該年度までのアンケート実施の経過や変更点について記載する。

1-1 目的

本学における全学規模の学生による授業評価アンケートは、2002年7月10日に総長に提出された「全学FD検討委員会答申」に始まる。その中で、本学にとっての最重要FD課題として次の3点が挙げられている。第一に「教員における授業力の向上」、第二に「カリキュラム編成の合理化」、第三に「成績評価の厳正化」である。そして、その中でも緊急性がもっともあるとされたのが第一の課題であり、その中で「授業力向上に向けての具体策」のひとつとして挙げられていたのが「学生による授業評価の制度的実施」である。それを受けて、2002年12月18日付け文書「FDについて—学生による教育評価アンケートの2003年度実施に当たって—」の中で総長は、敢えて「教育評価」という言葉を用い、「個々の科目の授業やその担当教員への評価をこえて、広く本学の教育について、学生の評価を参照したい」と述べ、「学生による教育評価アンケート」をできる限り早期に実施したいとの方針を明らかにした。

それを受けて直後の2002年12月21日には早くも全学教務委員会FD専門部会の第1回部会が招集され、年度をまたいで検討が続けられた。その過程で、2003年度実施は見送られ2004年度実施を目標とすること、施設その他の教育条件一般を問うアンケートの前に、授業そのものに目標を絞って問うことなどの合意が形成され、「学生による授業評価アンケート」を行うことが決まった。そして、具体的アンケート項目作成作業が開始され、他大学のものをも参照しつつも、三つの独自案にまとまってゆき、並行して行われていたアンケートの目的や実際の実施方法などの検討結果とも連動しながら、最終的にひとつの案に集約されていった。その結果は部長会に報告され、了承を得て、その後、各学部教授会とのやり取りがあり、2003年の秋に2004年度前期から「学生による授業評価アンケート」を実施することが正式に決定した。そして、2004年度4月から「学生による授業評価アンケート実施委員会」が立ち上げられ、前期と後期に実施された。

その実施の目的は、部会における議論の結果、以下の点にあると考えられるにいたった。

- ① 教員が自らの授業改善を目指す自己研修の資料を得る。
- ② 教員同士が授業に関して相互研修をおこなう機会を提供する。
- ③ 学生の学習姿勢を知るための資料とする。
- ④ 学生の授業への期待のありかを知る資料を得る。

- ⑤ 学生に授業履修への積極性と責任意識を喚起する。
- ⑥ 学部・学科としてカリキュラムの有効性を測定するための資料を得る。
- ⑦ 大学としての教育力向上に必要な方策を立てるための資料を得る。

以上である。

要するに、本学の「学生による授業評価アンケート」は端的に言って、個々の教員による授業を、学生がより充実して学習を進め大学としての教育力が今より一層効果的に機能することを目指して改善し、その結果として学部・学科としての教育力をも増進することを唯一の目的とする、ということである。そうして、学生をも巻き込んで、本学が知的に活発で、創造性に富み、常に先進的に新しい知を発信し、それに基づく生き方を常に提案し続ける力を保持することができるようになることを最終目的とする。

それに対して、場合によっては教員の活力を削ぐことになりかねない教員管理の視点は厳しく排除される。大学は教職員と学生が相互に自己管理することを前提に、自由に精神活動をおこなう場である。特定の目的のために教職員ならびに学生を管理し、特定の方向へ向けるべく力を加えることは、大学本来の知的創造力を失わせ、ひいては大学が本来持っているはずの社会的役割を放棄し、その負託に答えられなくなることを意味する。その意味で、この「学生による授業評価アンケート」結果のデータは特定の意図を持って処理され、一律の基準の下に評価されることはない。それゆえに、集計データの統計的処理はアンケート対象になった個々の教員に任されることになった。それが所見票に表現されるのである。

このアンケートは大学としての教育力向上を目的としておこなわれるので、学生の自覚を促すことも期待されている。そのことは、一朝一夕に実現させることは難しいかもしれないが、学生たちの評価アンケート結果に対して、各教員がそれぞれの学問的見識を持って所見票で答え、実際の授業に反映する努力が積み重ねられることによって、徐々に現実化してゆくであろう。現在の大学では学生の自主的活動が必ずしも本来期待されているほど十分でなく、大学生の学校生徒化が進んでいると一般に言われている。その中で、学生の主体的参加が教員との関係を変えるきっかけになることを直接に経験することで、学生の姿勢が変化することを期待したい。

さらに、アンケート結果、所見票が公表されることにより、教職員相互間、あるいは教員と学生との間で切磋琢磨する風潮が広まれば、大学全体として、個々の学問研究と教育の活動に根ざした種々の改善が期待される。カリキュラムはもちろん、組織の運営体制や施設なども、このアンケートを手がかりにその評価の俎上に載せられることになってゆくであろう。

この「学生による授業評価アンケート」が、大学の知的エネルギーを構成している教職員相互の関係や教職員と学生との関係、あるいは学生相互の関係などを揺り動かし、多様な観点から相互に力を及ぼしあう結果になることを、我々は心から期待したい。そして、そのことがやや動脈硬化が進行してきた大学という組織にも再び熱い血を通わせ、教職員も学生も本学に集うことこそがその熱い血の拍動を生み、学問に触れることが楽しくて仕方がないという状況を生み出すことを心から願う。

1-2 「報告書」作成の基本的な考え方

「学生による授業評価アンケート」は調査である限りその結果がまとめられなければな

らない。我々はそれを報告書という形で世に問う。この報告書はアンケート対象になった個々の授業が1-1で述べられた目的に沿って学生によって評価された結果を総体として、学部・学科ごとに、そして大学全体として、その教育力を評価し、成果の上がっていることに関してはその成果の意味を明らかにし、さらにその成功を維持するための方策を考え、改善が必要なことに関しては、その原因を究明し、その克服のための方法を構築する。そして次のアンケートにその改善努力の成果を問う。

この報告書の構成は以下のとおりになっている。

まず、(1)すでに述べたとおりこのアンケートの目的を明らかにする。その次に、(2)その目的に沿ったアンケート実施の概要を報告する。その上で、(3)統計処理上の技術的方針について、我々の考え方を明示し、データの性格を規定し、将来の調査をも視野に入れた分析方針を提示する。そして、(4)全学的な総評をおこなう。最後に(5)学部やその他の教育組織ごとの総評をまとめる。以上である。

この報告書はあくまで1-1のアンケートの目的に謳われている⑥学部・学科としてのカリキュラムの有効性を測定するための資料、および⑦大学としての教育力向上に必要な方を立てるための資料を提供するためにおこなわれる。したがって、この報告書には個々の授業やその担当者、あるいはある学科の科目として特定できるような記述は記載されない。

それと同時に、この作業は全体としての③学生の学習姿勢を知るための資料、および④学生の授業への期待のありかを知る資料を得ることにつながる。授業に参加する学生たち自身の勉強に対する姿勢もアンケート項目に入っているため、それらについてはこの報告書の中で、各所で触れられることになるだろう。

これらの目的達成を検証することを狙い、我々は報告書を作成する。ちなみに目的の①と②は次に述べられる所見票に示されるだろう。

1-3 「所見票」について

個々の科目のアンケート結果は、同じ科目の将来の開講の際に生かされるはずである。しかし、一方ではアンケートに答えた学生たちには、将来の授業では直接的にフィードバックすることはできない。そこで、個々の科目のアンケート結果についても、何らかの形で少なくとも当該学生たちには公開される必要がある、と我々委員会は考えた。その際には、単純にアンケート項目の集計結果だけを公開する方法と、それに対する教員の所見をも添えて公開する方法が考えられる。

我々は個々の科目担当者に、自分の科目についての自己点検・評価という意味でアンケート結果のデータを読んでもらい、「授業評価に対する担当教員の所見」、「自由記述欄に対する担当教員の所見」、「改善に向けた今後の方針」を書いてもらうこととした。この3つの教員記述にアンケートのすべての項目についてその結果を帯グラフに表したデータを付したものを「所見票」と称した*1。そして、この所見票を学生に公開することにした。

所見票を書くことはアンケート対象教員にとって負担にはなる。しかし、我々は敢えて対象となった教員全員に所見票作成を依頼した。なぜならば、自分の授業についての学生による評価が出たならば、それについての対処を明確に行い、アンケートに協力してくれた学生たちに直接回答することも、授業担当者である教員の義務だと、我々は考えたからである。所見票はそのすべてが、学生に対して学内で公開されることになる。

所見票の狙いは以下の点にある。

- ① 教員がアンケート結果についてそれを直視し、自らの見解を発表する場を与える。
- ② 学内で公表されることによって、学生に直接回答する機会を与える。
- ③ アンケートに含まれる自由記述についてはデータ化できないので、教員の直接的コメントを通してその内容を明らかにすることを求める。
- ④ 改善に向けた明確な決意と工夫を書くことにより、次のアンケートとの比較を行い易くし、具体的授業改善の実現を可能にする。

以上である。

①については、教員側にも、もし学生からいわれのない不評や批判があった場合には、弁明する機会が欲しいとの声もあった。また、所見票を書けば、アンケート結果をつぶさに直視し、それに向き合って、自分に取り入れる契機とすることができる。さらに、データの多様な集計を当該教員に任せ、教員の必要に応じた分析を行い、納得の行く分析結果を出してもらうことにも意を注いだ。所見票はその結果を発表する場でもある。

②については、学生に対する直接回答であることを重視し、教員が自らの見解を自由に率直に表明しやすくするという趣旨で、公開は学内に限り、学生の便宜を考えて図書館に配置することにした*2。

③については、自由記述が単純にデータ化できないため、結果すべてを所見票に載せることはできない。また、記述内容によっては書き手が特定される場合もある。そこで、それを読んだ教員の責任でまとめてもらうことにして、教員所見にそのための欄を設けた。

④については、これを書くことでこのアンケートの目的で指摘された教員の自己研修を促すことになる。また、所見集が学内で公開されることから、学生以外にも同僚教員の目に触れる機会もあり、相互研修にもなることが期待される。

以上、所見票はこのようなことを期待して作られたのである。

*1 教員執筆項目は 2020 年度の教育改革推進会議（2020 年 10 月 1 日）において、「授業評価に対する担当教員の所見」と「改善に向けた今後の方針」の 2 項目に集約された。このこととアンケートの Web 形式実施に伴い、2020 年度からの所見票は、二つの教員記述にアンケートのすべての項目についてその結果のデータを付したものとなっている（p.18 参照）。

*2 現在は Web のみで公開

（以上、2004 年度報告書より抜粋。*は追記）

1-4 実施科目の選定方針

本学における「学生による授業評価アンケート」は 2004 年度にスタートし、2006 年度までの当初 3 年間は「講義科目を対象に 1 教員 1 科目」の原則で実施した。これにより、教員個々人の意識が高まり、授業改善の効果が上がったことは、各項目の数値が有意に上昇したことから明らかである。

2007 年度には、スタート時に確認された目的のうち、「学部・学科としてカリキュラムの有効性を測定するための資料を得る」「大学として教育力向上に必要な方策を立てるための資料を得る」に比重を移し、実施対象科目に一部の演習科目を加えた上で、各学部・学科等の必要性により科目を選定する方式に切りかえた。2008 年度、2009 年度はこの方針を踏襲

して実施した。

一方で、「学生による授業評価アンケート」開始当初から、アンケートは単年度ごとにその目的と実施内容を検討・決定するのではなく、数年度単位の中期的な計画に基づいて展開する必要性が指摘されており、その策定に向けて、継続的に議論を行ってきた。

2006年度には、「1 教員 1 科目の原則による実施は、教員個々人の意識を高め、教員全員が自らの自己研修の資料を得る観点から、少なくとも数年に一度は必要である」との全学的合意がなされた（2007年1月25日、部長会）。その後、他大学の実施状況調査を行うとともに、全学教務委員会および教育改革推進会議での学部等からの意見収集ならびに協議を経て、2009年度の教育改革推進会議（2009年11月19日）において、2010年度以降の基本方針を以下のとおり決定した。

- ① 授業評価アンケートは毎年実施する。
- ② 「1 教員 1 科目」の原則による実施は、3年に一度とする。
- ③ ②以外の年度は、「学部等の必要性に応じた選定」により実施する。

基本方針決定以降の、科目選定方針は以下のとおりである。2010年度は定められた基本方針に拠って実施する初年度となり、上記②の「1 教員 1 科目」の原則により実施した。

・2010、2013、2016、2019、2022年度：「1 教員 1 科目」

・2011、2012、2014、2015、2017、2018、2020、2021、2023年度：「学部等の必要性に応じた選定」

授業評価アンケート実施対象科目は、2019年度まで専門演習、実験、集中講義や実技を伴う科目、全学共通科目の言語系科目を除外してきたが、2020年度秋学期から「立教時間」による Web 方式を採用したことによって、設問項目の改訂が行われたことや、実施上限科目数、教室内でのマークシート用紙の配布等の制約が解消されたため、これらの除外科目についても含めることが可能となった。さらに、学部等が選定した実施科目に加えて、各教員が希望した科目において任意に「学生による授業評価アンケート」を実施可能とすることになった。

なお、2023年度の各学部等における科目選定方針については、「2-3 各学部等の科目選定方針（p.11）」を参照されたい。

また、本アンケートはその性質から無記名で行われ、個人が特定される情報は教員・学部提供しないことを前提としてきた。さらに、2020年度の教育改革推進会議（2020年10月1日）において、履修登録者が4名以下の科目は実施対象外とすることを決定した。

1-5 回答結果の全学的な活用に向けて

本学は、従来、1-1に記載した目的に沿い、「学生による授業評価アンケート」の集計結果を教員個人の授業改善や、学部等によるFDの基礎資料として活用してきた。しかし、回答データを計量分析し、全学的なFDに活用するには至っていなかった。

そこで、2012年度10月に発足した大学教育開発・支援センター教学IR部会では、2015年度に2013年度の回答データを用いた分析を実施し、「教員の授業に対する工夫や努力、たとえば、各回の授業内容を明確に提示するよう意識するなどの取り組みによって、学生の授業や学習に対する意欲は高められる」という知見を得、教育改革推進会議を通じて全学へ

報告し、共有した（詳細は、2015年度報告書に掲載）。

上述の知見を踏まえて、2017年度に行われた第1回「立教大学教育活動特別賞」の選定にあたっては、2016年度授業評価アンケートの一部の項目の集計結果を各学部等へ提供した。各学部等からの候補者の推薦を受けて、34名の方々に賞を授与するとともに、受賞者の教育に関する優れた取り組みを共有するために、全学のFD活動としてシンポジウムを開催した。その後、「立教大学教育活動特別賞」は第2回の2020年度では28名、第3回の2023年度では30名の方々に賞を授与するとともに、全学のFD活動として広く共有する機会としている。

そして、「学生による授業評価アンケート」の運営主体について、2020年度からは、このような全学のFD活動をより推し進めていくために全学教務委員会の下に組織されていた「学生による授業評価アンケート」実施委員会を廃止とし、全学を対象としたFD・調査を担う大学教育開発・支援センターが中心となり、教務部の協力を得ながら進める体制へ移行されることになった。これにより、同センターのTL（Teaching & Learning）部会では、本報告書の作成や回答結果を活用したFDプログラムの企画を、教学IR（Institutional Research）部会では、アンケート実施の企画やデータ集計・分析をそれぞれ担うことになった。

2. 授業評価アンケートの実施概要

本報告書において、「学部等」とは、各学部、グローバル・リベラルアーツ・プログラム運営センター、全学共通カリキュラム運営センター、学校・社会教育講座を示す。また、学部表示は科目開設学部等を示しており、回答者（学生）の所属ではない。

2-1 実施方式

「立教時間」を用いた Web 方式にて実施した。

2-2 設問項目

全科目共通設問は、2022 年度の設問を踏襲し、すべて英語併記とした。

5 段階による評価方式の設問が 4、複数選択回答による設問が 3、数値入力による設問が 1、自由記述による設問が 3 の構成とした (p.8 参照)。設問の中には、必ずしも全科目には該当しないと思われるような設問もあるが、各設問項目の数値は、科目の特徴に照らして各科目担当者の裁量により解釈されるものとしている。

また、学部等によって独自の設問が設定できるよう、1 学部あたり最大で 6 設問を設定できるようにした。2023 年度は、経済学部 (5 設問)、理学部 (4 設問)、現代心理学部 (2 設問)、全学共通カリキュラム運営センター (総合系科目 6 設問・言語系科目 5 設問) が学部等による設問項目を設定した (pp.9-10 参照)。

2023 年度「授業評価アンケート」設問項目（全科目共通設問）

数値入力、複数選択の設問以外の選択肢は 5:大いにそう思う、4:そう思う、3:どちらともいえない、2:あまりそう
 思わない、1:そう思わない、の 5 件法となります。

(英文選択肢) 5. Strongly Agree 4. Agree 3. Neither Agree nor Disagree 2. Somewhat Disagree 1. Disagree

I 学生の学習姿勢 My participation in this course
I 1 この授業に積極的に参加した I actively participated in the lessons.
I 2 この授業に関連して、授業以外に学習した時間（平均して、1 週間に） ⇒数値による入力 Outside of the lessons, I spent an average of ... per week studying for this course. ⇒ Fill in how many hours.
II 教員の授業改善に向けて To improve instructors' teaching
II 1 各回の授業内容は明確だった The content of each lesson was clear.
II 2 教員の伝え方はわかりやすかった The instructor's way of communicating was easy to understand.
II 3 この授業でよいと思った点がありますか【複数選択可】 ①配付資料(授業のレジュメなど)、②板書(電子媒体のものを含む)、③パワーポイント、④動画等の映像視 覚教材(オンライン授業そのものの動画ではありません)、⑤シラバス、⑥上記にあてはまるものがない Is there anything that you thought good about this course?【Multiple answers allowed】 ①Handouts (Worksheets, including digital resources etc.) ②Write on the blackboard (Written communication in class, including use of digital whiteboards) ③PowerPoint ④Video and other visual aids (This is not a video of the online class itself) ⑤Syllabus ⑥N/A not applicable
II 4 II 3 の選択肢を選んだ理由、あるいはそれ以外でこの授業でよいと思った点があれば記入してください【自 由記述】 If there is any reason for the answers for II 3 and other things you thought good about this course, please explain. 【Free writing】
II 5 この授業で改善すべきだと思った点がありますか【複数選択可】 ①配付資料(授業のレジュメなど)、②板書(電子媒体のものを含む)、③パワーポイント、④動画 等の映像視覚教材(オンライン授業そのものの動画ではありません)、⑤シラバス、⑥上記にあては まるものがない Is there anything that can improve this course?【Multiple answers allowed】 ①Handouts (Worksheets, including digital resources etc.) ②Write on the blackboard (Written communication in class, including use of digital whiteboards) ③PowerPoint ④Video and other visual aids (This is not a video of the online class itself) ⑤Syllabus ⑥N/A not applicable
II 6 II 5 の選択肢を選んだ理由、あるいはそれ以外でこの授業で改善すべき点があれば記入してください【自 由記述】 If there is any reason for the answers for II 5 and other things that can be improved, please explain. 【Free writing】
III 学生が授業に期待するもの Student's expectations of this course
III 1 この授業から得ることができたものがありますか【複数選択可】 ①自分にとって新しい考え方・発想、②授業で扱った分野に関する基本的な専門知識 ③自分で調べ考える姿勢、④学問的興味、⑤上記にあてはまるものがない Through this course I learned/acquired the following.【Multiple answers allowed】 ①New concepts and new ways of thinking ②Basic academic knowledge related to the field taught in this course ③A positive attitude towards doing my own research and analysis ④Academic content which was suitably challenging ⑤N/A not applicable
III 2 III 1 以外でこの授業から得ることができたものがあれば記入してください【自由記述】 If you have any other learned/acquired comments and opinions about this course, please explain. 【Free writing】
III 3 この授業を受けて満足した I was satisfied with this course.

2023年度「授業評価アンケート」設問項目（学部等による設問）（1/2）

学部等	「学部等による設問」	
	有無	(6項目まで。1項目は10～30字程度)
文学部	無	
経済学部	有	1) (基礎ゼミナール 1) 経済関連の文献を読む力がついた 2) (基礎ゼミナール 1) レジューメやレポート作成の力がついた 3) (情報処理入門 1) 表計算ソフト(Excel)の応用力が身についた 4) (情報処理入門 1) Power Point でプレゼンテーション資料を作成する力が身についた 5) (情報処理入門 1) WEB 上から経済資料・統計資料を入手する力が身についた 1) (Pro-Seminar 1) I gained the ability to read economic literature. 2) (Pro-Seminar 1) I gained the ability to create resumes and reports. 3) (An Introduction to Information Processing 1) I have acquired the ability to utilize spreadsheet software (Excel). 4) (An Introduction to Information Processing 1) I have acquired the ability to create presentation materials in Power Point. 5) (An Introduction to Information Processing 1) I have acquired the ability to collect economic and statistical data from the web.
理学部	有	1) シラバスに沿って授業が行われた 2) 教員は質問・疑問に対し積極的に答えてくれた 3) (必修科目のみ) 授業で困った際に、練習問題を解き合う等で学生同士が共同して解決策をとった 4) (1年次必修科目のみ) 教員は高校までの授業スタイルとの違いを考慮して授業展開をしてくれた 1) The instructor conducted lessons based on the syllabus. 2) The instructor was willing to answer my questions/inquiries. 3) (This question is for the compulsory subjects only.) We solved problems through group works (i.e., working out exercises together, etc.) during the lessons. 4) (This question is for the freshman's compulsory subjects only.) The instructor gave us lessons with due consideration of the difference of lesson styles between high school's and university's.
社会学部	無	
法学部	無	
経営学部	無	
異文化コミュニケーション学部	無	
グローバル・リベラルアーツ・プログラム運営センター	無	
観光学部	無	
コミュニティ福祉学部	無	

2023年度「授業評価アンケート」設問項目（学部等による設問）（2/2）

学部等	「学部等による設問」	
	有無	(6項目まで。1項目は10～30字程度)
現代心理学部	有	1)この授業の受講者数は適切だった 2)この授業の設備・環境に満足している 1)The number of the students in this class is appropriate. 2)The facilities and learning environments in this class are satisfactory.
スポーツ ウエルネス学部	無	
全学共通 カリキュラム 運営センター (総合)	有	1)この授業の教室の大きさは適切だった 2)この授業の受講者数は適切だった 3)この授業の行われた教室の環境や設備は十分だった(大きさの観点を除く) 4)【学びの精神のみ対象】この授業を通して高校と大学の学びの違いを感じた 5)【学びの精神のみ対象】この授業を通して大学の授業を受ける心構えができた 6)【F科目のみ対象】この授業を通して英語に対する抵抗感が和らいだ 1)The size of the classrooms was appropriate. 2)The number of students in this class was appropriate. 3)The environment and facilities in the classroom where this class was held were adequate(except in terms of size). 4)[For Introduction to Academic Studies] Through this class, I felt the difference between high school and university learning. 5)[For Introduction to Academic Studies] This class helped to acquire proactive attitude towards university learning. 6)[For Comprehensive Courses conducted in foreign languages] This class has helped me reduce my resistance to English.
全学共通 カリキュラム 運営センター (言語)	有	1)宿題や課題は授業内容の理解を深めるのに役立った 2)宿題や課題へのフィードバック、質問に対しての対応が十分になされた 3)授業内での既習事項の確認・復習が十分になされた 4)この授業を通して向上した能力はなんですか【複数選択可】 ①読む力、②書く力、③聞く力、④話す力、 ⑤プレゼンテーションをする力、⑥ディスカッションをする力 5)その言語の学習を継続したいと思うようになった 1)The homework and assignments were useful for understanding course content. 2)Feedback about homework and assignments, and responses to questions were sufficient. 3)Content covered in previous lessons was reviewed sufficiently. 4)What abilities did you improve through this course? (Multiple selections possible) ①Reading ability, ②Writing ability, ③Listening ability, ④Speaking ability, ⑤Presentation ability, ⑥Discussion ability 5)I feel like continuing to study this language.
学校・社会 教育講座	無	

2-3 各学部等の科目選定方針

実施対象科目は、学士課程における2023年度開講科目である。

2023年度は、基本方針により「学部等の必要性に応じた選定」により実施した（詳細はp.20参照）。各学部等の選定方針は、下表のとおりである。

学部等	科目選定方針
文学部	(1) 各学科・専修の導入教育（初年次教育）科目 ①1年次必修科目 ②1年次で履修可能な科目 ③2年次必修科目 ④2年次で自動登録となる科目 (2) 文学部基幹科目 (3) 各学科・専修で必要と認める科目
経済学部	(1) 「講義科目1教員1科目」の調査は実施しない (2) 本年度については原則春学期に実施するが、通年科目は秋学期に実施する。ただし過年度通年科目であった経済学1・2は、春・秋学期で担当教員が異なるため春・秋学期に実施。また簿記1・2は同一教員のため秋学期のみに実施する (3) 共通シラバスを用い、授業の目的及び内容にある程度の共通性があり、複数コマ開講されている科目及び積み上げ方式の1年次科目についてアンケートを実施する
理学部	(1) 数学科では新カリキュラム（2021年度より移行）の有効性を検証するために、新カリキュラムにおける新規に設計した必修科目・選択必修科目について、定点観測（毎年、同じ科目で調査）を行う (2) 物理学科では原則として複数担当科目以外の全ての講義科目を選定する。経年変化を見るために、なるべく毎年同じ科目について、アンケートを実施する。ただし、講義は受講者が少ない場合が多いので、担当者の希望がある場合のみ実施することにする。また、一部の実験・演習科目でも行う (3) 化学科では原則として、必修講義科目ならびに選択講義科目（複数教員担当科目を除く）の経年変化を調査するために、毎年同じ科目についてアンケートを実施する (4) 生命理学科では授業評価に対する改善策の具体的効果を継続的に検証するために、前年度と同じ科目についてアンケートを実施する。なお、教員の希望により追加する科目もある (5) 共通教育科目では、受講者の少ない科目、ゼミナール科目を除いて実施する
社会学部	(1) 必修科目はすべて実施する (2) 「講義科目」については、科目の種類を問わず、なるべく「年間1教員1科目」となるように選定作業を行う
法学部	(1) 3年に1回全教員（専任・兼任）について、1教員1科目を原則に行う (2) (1)を行わない年度については、本学で初めて授業を開講する教員、およびアンケートの実施を希望する科目を対象に行う ※2023年度は(2)に該当する
経営学部	「演習」を除く全科目で実施する。ただし、科目特性を考慮して、独自にアンケートを実施する科目については、当該アンケートの実施対象に含めない
異文化コミュニケーション学部	学科の導入教育科目 (1) 1年次、2年次必修科目 (2) 1年次、2年次自動登録科目 (3) 基礎科目
グローバル・リベラルアーツ・プログラム運営センター	演習系科目は実施対象外とする
観光学部	(1) 原則として学部方針によって選定する2年間のうちに全教員1回1科目で実施する (2) 演習科目は対象としない (3) 複数教員担当科目は対象としない (4) 集中講義は対象としない

学部等	科目選定方針
コミュニティ福祉学部	(1) 学部専任教員（助教含む）1科目以下の実施を原則とする (2) 資格科目を優先する (3) 演習科目は対象外とする (4) 昨年度実施科目を優先する
現代心理学部	(1) 学部専任教員が担当する「初年次教育科目」 (2) 学部専任教員が担当する「講義科目」及び「共通シラバスにより展開される一部の科目」 なお、「演習科目」「実験科目」及び「複数教員担当科目」は、原則として実施対象としない
スポーツウエルネス学部	(1) 学部専任教員（助教含む）1科目以下の実施を原則とする (2) 資格科目を優先する (3) 演習科目は対象外とする
全学共通カリキュラム運営センター（総合）	(1) 学びの精神、多彩な学び1～6カテゴリの全科目、F科目の全科目、演習系「立教ゼミナール発展編」の全科目を対象とする (2) 学びの精神、多彩な学び1～5カテゴリを担当する1教員（専任・兼任）1科目の実施とする。ただし、F科目（導入）、「立教ゼミナール発展編」を担当する教員はこれに追加して実施する (3) 多彩な学び・6カテゴリで開講するグローバル教育センター提供科目は、本学で開講される全科目で実施をする (4) 1教員につき実施対象候補科目が複数ある場合には、以下の順序で、実施科目を選定する ①学びの精神を優先 ②多彩な学びの企画提案型科目「コラボレーション科目」を優先 ③新座開講科目を優先 ④2時限・3時限を優先 ⑤全体における春学期・秋学期の実施科目数に配慮する
全学共通カリキュラム運営センター（言語）	(1) 必修科目は全クラスで実施する。ただし、連続性のある科目（例：「～語基礎1・2」「上級英語1・2」）を同一教員が春学期・秋学期担当する場合は、秋学期のみ実施する (2) 自由科目は1教員少なくとも1科目実施する 池袋・新座両キャンパスの科目を担当している者については、以下の順序で実施科目を選定する ①履修者8名以上 ②新座開講科目 (3) 新カリ先行実施科目は全クラスで実施する
学校・社会教育講座	(1) 履修者5名以下が予想される科目は対象外とする (2) 教職課程は「講義科目1教員1科目」を原則として実施する (3) 他課程は、今年度、特に授業評価を要する重点的科目に限って、アンケートを実施する

2-4 実施科目数

最少回答人数（5名以上）の条件を満たした科目数を実施科目数とする。
 （最少回答人数に満たなかった科目については、学部提供データをはじめとした各種統計データには含めないこととする。）

実施科目数は、春学期 1,269 科目、秋学期 1,132 科目、合計 2,401 科目であった。
 所見票提出率は 85.21%（2,046/2,401）となった。

科目開設学部等	実施 予定 科目数	実施学期内訳		実施 科目数 (回答者 5名以上)	実施学期内訳		所見票 提出数	実施学期内訳	
		春学期	秋学期		春学期	秋学期		春学期	秋学期
文 学 部	145	67	78	119	58	61	90	47	43
経 済 学 部	66	53	13	59	48	11	54	44	10
理 学 部	119	60	59	100	56	44	84	48	36
社 会 学 部	123	58	65	101	49	52	83	41	42
法 学 部	15	8	7	11	6	5	10	5	5
経 営 学 部	93	46	47	54	30	24	38	19	19
異文化コミュニケーション学部	75	44	31	65	38	27	52	35	17
グローバル・リベラル・アーツ・プログラム運営センター	36	20	16	17	11	6	10	7	3
観 光 学 部	45	19	26	37	19	18	31	18	13
コミュニティ福祉学部	27	19	8	25	18	7	21	15	6
現 代 心 理 学 部	19	6	13	14	4	10	8	1	7
スポーツウエルネス学部	12	6	6	11	6	5	10	6	4
全学共通カリキュラム運営センター ・総合系科目	429	224	205	355	199	156	275	149	126
全学共通カリキュラム運営センター ・言語系科目	1763	847	916	1391	700	691	1244	651	593
学校・社会教育講座	59	36	23	42	27	15	36	22	14
合 計	3,026	1,513	1,513	2,401	1,269	1,132	2,046	1,108	938

2-5 実施期間

原則として 13 回目の授業時に実施し、休講等で実施できなかった場合は 14 回目（最終授業）の授業時もしくは、実施期間終了時までには実施することとした。

春学期：2023年7月6日（木）～7月12日（水）

- ・（予備週）7月13日（木）～7月19日（水）
- ・学生が回答可能な期間は7月6日（木）～7月19日（水）

秋学期：2024年1月5日（金）～1月15日（月）

- ・（予備週）1月16日（火）～1月22日（月）
- ・学生が回答可能な期間は1月5日（金）～1月22日（月）

なお、四半期科目については原則として 7 回目の授業時に実施し、学生が回答可能な期間はこの実施期間に加えて期間終了後の 1 週間延長することとした。

春学期 1：2023年5月25日（木）～5月31日（水）

- ・学生が回答可能な期間は5月25日（木）～6月7日（水）

秋学期 1：2023年11月10日（金）～11月16日（木）

- ・学生が回答可能な期間は11月10日（金）～11月23日（木）

2-6 回答者数

アンケート実施科目の延べ回答者数を、科目の開設学部等別に下表にまとめた。参考のために、延べ履修者数も表に載せた。

アンケートの回答率（※）は、40.0%（〈B〉 55,751 / 〈A〉 139,398）であった。

※ 〈B〉 集計対象科目回答者数（回答者 5 名以上） / 〈A〉 集計対象科目履修者数（回答者 5 名以上）

科目開設学部等	春学期		秋学期		合 計	
	履修者数	回答者数	履修者数	回答者数	履修者数	回答者数
文 学 部	5,900	2,277	5,382	1,616	11,282	3,893
経 済 学 部	2,735	1,509	1,215	505	3,950	2,014
理 学 部	4,120	1,509	3,047	1,148	7,167	2,657
社 会 学 部	8,806	2,741	8,364	1,636	17,170	4,377
法 学 部	1,169	250	581	223	1,750	473
経 営 学 部	6,775	1,095	5,129	912	11,904	2,007
異文化コミュニケーション学部	1,530	1,019	1,112	548	2,642	1,567
グローバル・リベラル・アーツ・プログラム運営センター	226	159	107	55	333	214
観 光 学 部	2,468	611	2,440	855	4,908	1,466
コミュニティ福祉学部	2,010	966	630	309	2,640	1,275
現 代 心 理 学 部	345	89	1,072	371	1,417	460
スポーツウエルネス学部	467	364	393	184	860	548
全学共通カリキュラム運営センター・ 総合系科目	22,987	7,477	19,236	5,129	42,223	12,606
全学共通カリキュラム運営センター・ 言語系科目	14,230	10,910	15,300	10,413	29,530	21,323
学校・社会教育講座	1,078	597	544	274	1,622	871
合 計	74,846	31,573	64,552	24,178	139,398	55,751

2-7 「所見票」の公開

所見票（科目別の集計結果および科目担当者による所見）は、Web 上で学生・教職員（兼任講師含む）に対し閲覧に供している。

※閲覧にあたっては V-Campus ID / パスワードが必要

<立教時間：所見票検索>（2020 年度以降の所見票）

教職員：<https://portfolio.rikkyo.ac.jp/tcr/ces/feedback/search/index>

学 生：<https://portfolio.rikkyo.ac.jp/stu/ces/feedback/search/index>

※2019 年度以前の所見票の閲覧を希望する場合は、大学教育開発・支援センターにて個別に対応する

2-8 任意実施科目

大学教育開発・支援センターより「立教時間（SPIRIT メール）」を通じて、任意実施について案内を行い、春学期は 22 科目、秋学期は 8 科目実施した。

3. 科目担当者・学部等への集計結果のフィードバック

3-1 科目担当者

担当科目の以下の集計結果をアンケート実施1~2ヶ月後に「立教時間」上に掲載し、これらを基に、科目担当者に所見票の執筆を依頼した（p.16にサンプル画面を掲載）。

- ・回答情報（自由記述回答含む）
- ・回答統計情報

3-2 学部等

以下により集計し、2)の結果と科目担当者が執筆した所見票を送付の上、学部等総評の執筆を依頼した。

1) 集計の方針

集計の方針は、以下のとおりとした。

- ①学部等別・学科等別に集計する。
- ②科目選定方針が「学部等の必要性に応じた選定」である本年度は、全学集計は行わない。また、全学部等の設問項目別平均値・回答割合（学部等間比較）の一覧表は作成しない。

2) 集計内容

①回答者数・回答率

アンケート回答者数を学部等別、学年別に集計した（合計も記載）。また、アンケート実施科目について学部等別の回答率（回答者数/履修者数）を算出した（p.76参照）。

②平均値・回答割合に関する集計

平均値・回答割合に関する集計は、下表のとおり行った。

提供した集計データ \ 集計単位	学部等別 *1	学科等別 *1
設問項目別	● *2 (pp.77-91 参照)	●
授業規模別	●	—
学年別	●	—

*1 学部等には、当該学部の結果を提供

*2 学部等には、該当項目別に回答割合を示した帯グラフも提供

サンプル <授業評価アンケート結果確認・所見入力画面> (1/2)

立教時間

Home ※科目名が入る / 授業評価アンケート選択 / 授業評価アンケート入力・確認

立教太郎

📄

授業評価アンケート結果確認・所見入力

戻る

ダウンロード

2023年度秋学期 | 学生による授業評価アンケート

スタータス 未着手

教室情報

所属課/出日

アンケート入力期間

シラバスの参照

説明

このアンケートは、立教大学の授業を改善し、さらに充実させることを目的に行われます。調査は無記名で行われ、回答の内容が成績評価に影響することはありません。本学を構成する重要な一員である学生として、みなさん自身が大卒教育をより良いものにするという意識のもとに、率直かつ責任をもって回答してください。

The aim of this Class Evaluation is to improve the content of the courses and the curriculum in order to enhance the quality of education at Rikkyo University. Please keep in mind that the evaluation is conducted anonymously and in no way will your evaluation affect your grade in this course. As an important member of Rikkyo University, your feedback is indispensable to improve the quality of our education. Please provide your candid and constructive opinions below.

1 学生の学習姿勢

1 My participation in this course

1-1 この授業に積極的に参画した

1-1 I actively participated in the lessons.

5 大いにそう思う / Strongly Agree
 4 そう思う / Agree
 3 どちらともいえない / Neither Agree nor Disagree
 2 あまりそう思わない / Somewhat Disagree
 1 そう思わない / Disagree

5 大いにそう思う / Strongly Agree: 20% (1)

4 そう思う / Agree: 20% (1)

3 どちらともいえない / Neither Agree nor Disagree: 20% (1)

2 あまりそう思わない / Somewhat Disagree: 20% (1)

1 そう思わない / Disagree: 20% (1)

1-2 この授業に關して、授業以外に学習した時間 (平均して、1週間に)

1-2 Outside of the lessons, I spent an average of ... per week studying for this course.

⇒平均 : 2.6 (5)

2 教員の授業改善に向けて

2-1 この授業内容が明確だった

2-1 The content of each lesson was clear.

5 大いにそう思う / Strongly Agree
 4 そう思う / Agree
 3 どちらともいえない / Neither Agree nor Disagree
 2 あまりそう思わない / Somewhat Disagree
 1 そう思わない / Disagree

5 大いにそう思う / Strongly Agree: 20% (1)

4 そう思う / Agree: 20% (1)

3 どちらともいえない / Neither Agree nor Disagree: 20% (1)

2 あまりそう思わない / Somewhat Disagree: 20% (1)

1 そう思わない / Disagree: 20% (1)

2-2 教員の伝え方はわかりやすかった

2-2 The instructor's way of communicating was easy to understand.

5 大いにそう思う / Strongly Agree
 4 そう思う / Agree
 3 どちらともいえない / Neither Agree nor Disagree
 2 あまりそう思わない / Somewhat Disagree
 1 そう思わない / Disagree

5 大いにそう思う / Strongly Agree: 0% (0)

4 そう思う / Agree: 40% (2)

3 どちらともいえない / Neither Agree nor Disagree: 20% (1)

2 あまりそう思わない / Somewhat Disagree: 20% (1)

1 そう思わない / Disagree: 20% (1)

2-3 この授業でよいと思った点がありますか [複数選択可]

2-3 Is there anything that you thought good about this course? [Multiple answers allowed]

配付資料 (授業のレジュメなど) / Handouts (Worksheets, including digital resources etc.)
 板書 (電子媒体のものを含む) / Write on the blackboard (Written communication in class, including use of digital whiteboards)
 パワーポイント / PowerPoint
 動画等の映像授業教材 (オンライン授業そのものの動画ではありません) / Video and other visual aids (This is not a video of the online class itself)
 シラバス / Syllabus
 上記にあてはまるものがない / N/A not applicable

配付資料 (授業のレジュメなど) / Handouts (Worksheets, including digital resources etc.) (4)

板書 (電子媒体のものを含む) / Write on the blackboard (Written communication in class, including use of digital whiteboards) (3)

パワーポイント / PowerPoint (4)

動画等の映像授業教材 (オンライン授業そのものの動画ではありません) / Video and other visual aids (This is not a video of the online class itself) (3)

シラバス / Syllabus (2)

上記にあてはまるものがない / N/A not applicable (1)

サンプル <授業評価アンケート結果確認・所見入力画面> (2/2)

<p>2-4 上記2-3の選択肢を選んだ理由、あるいはそれ以外での授業をよいと思った点があれば記入してください【自由記述】 2-4 If there is any reason for the answers for 2-3 and other things you thought good about this course, please explain. [Free writing]</p> <p>自由記述サンプル回答 1 自由記述サンプル回答 2 自由記述サンプル回答 3</p> <p>さらに表示... (残2件)</p>	<p>2-5 この授業で改善すべき点と優れた点がありますか【複数選択可】 2-5 Is there anything that can improve this course? [Multiple answers allowed]</p> <p><input type="checkbox"/> 配付資料 (授業のレジюмеなど) / Handouts (Worksheets, including digital resources etc.)</p> <p><input type="checkbox"/> 板書 (電子媒体のものを含む) / Write on the blackboard (Written communication in class, including use of digital whiteboards)</p> <p><input type="checkbox"/> パワーポイント / PowerPoint</p> <p><input type="checkbox"/> 動画等の映像視覚教材 (オンライン授業そのものの動画ではありません) / Video and other visual aids (This is not a video of the online class itself)</p> <p><input type="checkbox"/> シラバス / Syllabus</p> <p><input type="checkbox"/> 上記にあてはまるものがない / N/A not applicable</p>	<p>2-6 上記2-5の選択肢を選んだ理由、あるいはそれ以外での授業を改善すべき点があれば記入してください【自由記述】 2-6 If there is any reason for the answers for 2-5 and other things that can be improved, please explain. [Free writing]</p> <p>自由記述サンプル回答 1 自由記述サンプル回答 2 自由記述サンプル回答 3</p> <p>さらに表示... (残2件)</p>	<p>3 学生が授業に期待するもの 3 Student's expectations of this course</p> <p>3-1 この授業から得ることのできたものはありますか【複数選択可】 3-1 Through this course I learned/acquired the following. [Multiple answers allowed]</p> <p><input type="checkbox"/> 自分にとって新しい考え方・発想 / New concepts and new ways of thinking (2)</p> <p><input type="checkbox"/> 授業で扱った分野に関する基本的な専門知識 / Basic academic knowledge related to the field taught in this course (4)</p> <p><input type="checkbox"/> 自分で調べ考える姿勢 / A positive attitude towards doing my own research and analysis (4)</p> <p><input type="checkbox"/> 学問的興味 / Academic content which was suitably challenging (1)</p> <p>上記にあてはまるものがない / N/A not applicable (1)</p>
<p>3-2 上記以外での授業から得ることのできたものがあれば記入してください【自由記述】 3-2 If you have any other learned/acquired comments and opinions about this course, please explain. [Free writing]</p> <p>自由記述サンプル回答 1 自由記述サンプル回答 2 自由記述サンプル回答 3</p> <p>さらに表示... (残1件)</p>	<p>3-3 この授業を挙げて満足した 3-3 I was satisfied with this course.</p> <p><input type="radio"/> 5 大いにそう思う / Strongly Agree</p> <p><input type="radio"/> 4 そう思う / Agree</p> <p><input type="radio"/> 3 どちらともいえない / Neither Agree nor Disagree</p> <p><input type="radio"/> 2 あまりそう思わない / Somewhat Disagree</p> <p><input type="radio"/> 1 そう思わない / Disagree</p>	<p>5 大いにそう思う / Strongly Agree: 20% (1)</p> <p>4 そう思う / Agree: 20% (1)</p> <p>3 どちらともいえない / Neither Agree nor Disagree: 20% (1)</p> <p>2 あまりそう思わない / Somewhat Disagree: 20% (1)</p> <p>1 そう思わない / Disagree: 20% (1)</p>	<p>担当教員の所見: 立教太郎 授業評価に対する担当教員の所見 Feedback from instructor on class evaluation survey</p> <p>改善に向けた今後の方針 Plans for improvements in the future</p>

サンプル <所見票> (1/2)

立教時間

Home / 所見票検索 / 授業評価アンケート選択 / 所見票確認

立教太郎

※科目名が入る

授業評価入力・確認

2023年度秋学期「学生による授業評価アンケート」
確定

ステータス

教室情報

提出日

アンケート入力期間

シラバスの参照

説明
このアンケートは、立教大学の授業を改善し、さらに充実させることを目的に行われます。調査は匿名で行われ、回答の内容が成績評価に影響することはありません。大学を構成する重要な一員である学生として、みなさん自身が大学教育をより良いものにするという意識のもとに、率直かつ責任をもって回答してください。

The aim of this Class Evaluation is to improve the content of the courses and the curriculum in order to enhance the quality of education at Rikkyo University. Please keep in mind that the evaluation is conducted anonymously and in no way will your evaluation affect your grade in this course. As an important member of Rikkyo University, your feedback is indispensable to improve the quality of our education. Please provide your candid and constructive opinions below.

回答数:5件

1 学生の学習姿勢

1 My participation in this course

1-1 この授業に積極的に参加した

1-1 I actively participated in the lessons.

5 大いにそう思う / Strongly Agree: 0%

4 そう思う / Agree: 20%

3 どちらともいえない / Neither Agree nor Disagree: 20%

2 あまりそう思わない / Somewhat Disagree: 20%

1 そう思わない / Disagree: 20%

1-2 この授業に満足して、授業以外に学習した時間（平均して、1週間に）

1-2 Outside of the lessons, I spent an average of ... per week studying for this course.

⇒Fill in how many hours.

平均: 2.6 (5)

2 教員の授業改善に向けて

2 To improve instructors' teaching

みなさんの回答は教員が学び、授業の改善にします。悪質な誹謗や中傷は避け、具体的な提言で回答してください。
The instructor will read every comment to make improvements in their course design and management in the future. Please focus on providing constructive feedback and suggestions (as opposed to defamatory comments or personal attacks).

2-1 各回の授業内容は明確だった

2-1 The content of each lesson was clear.

5 大いにそう思う / Strongly Agree: 20%

4 そう思う / Agree: 20%

3 どちらともいえない / Neither Agree nor Disagree: 20%

2 あまりそう思わない / Somewhat Disagree: 20%

1 そう思わない / Disagree: 20%

2-2 教員の伝え方はわかりやすかった

2-2 The instructor's way of communicating was easy to understand.

5 大いにそう思う / Strongly Agree: 0%

4 そう思う / Agree: 40%

3 どちらともいえない / Neither Agree nor Disagree: 20%

2 あまりそう思わない / Somewhat Disagree: 20%

1 そう思わない / Disagree: 20%

2-3 この授業でよいと思った点はありますか（複数選択可）

2-3 Is there anything that you thought good about this course? [Multiple answers allowed]

配付資料（授業のレジュメなど） / Handouts (Worksheets, including digital resources etc.)

板書（電子媒体のものを含む） / Write on the blackboard (Written communication in class, including use of digital whiteboards)

パワーポイント / PowerPoint

動画等の映像視覚教材（オンライン授業そのものの動画ではありません） / Video and other visual aids (This is not a video of the online class itself)

シラバス / Syllabus

上記にあてはまるものがない / N/A not applicable

配付資料（授業のレジュメなど） / Handouts (Worksheets, including digital resources etc.) (4)

板書（電子媒体のものを含む） / Write on the blackboard (Written communication in class, including use of digital whiteboards) (3)

パワーポイント / PowerPoint (4)

動画等の映像視覚教材（オンライン授業そのものの動画ではありません） / Video and other visual aids (This is not a video of the online class itself) (5)

シラバス / Syllabus (2)

上記にあてはまるものがない / N/A not applicable (1)

サンプル <所見票> (2/2)

<p>2-4 上記2-3の選択肢を選んだ理由、あるいはそれ以外での授業でよいと思った点があれば記入してください【自由記述】</p> <p>2-4 if there is any reason for the answers for 2-3 and other things you thought good about this course, please explain. [Free writing]</p>	<p>3-2 If you have any other learned/acquired comments and opinions about this course, please explain. [Free writing]</p>
<p>2-5 この授業で受講すべきだと感じた点はありませんか【複数選択可】</p> <p>2-5 Is there anything that can improve this course? [Multiple answers allowed]</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 配付資料（授業のレジュメなど）/Handouts (Worksheets, including digital resources etc.) <input type="checkbox"/> 板書（電子媒体のものを含む）/Write on the blackboard (Written communication in class, including use of digital whiteboards) <input type="checkbox"/> パワーポイント/PowerPoint <input type="checkbox"/> 動画等の映像視聴教材（オンライン授業そのものの動画ではありません）/Video and other visual aids (This is not a video of the online class itself.) <input type="checkbox"/> シラバス/Syllabus <input type="checkbox"/> 上記にあてはまるものがない/NA not applicable 	<p>3-3 この授業を受けて満足した</p> <p>3-3 I was satisfied with this course.</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="radio"/> 5 大いにそう思う/Strongly Agree <input type="radio"/> 4 そう思う/Agree <input type="radio"/> 3 どちらともいえない/Neither Agree nor Disagree <input type="radio"/> 2 あまりそう思わない/Somewhat Disagree <input type="radio"/> 1 そう思わない/Disagree
<p>配付資料（授業のレジュメなど）/Handouts (Worksheets, including digital resources etc.) (2)</p> <p>板書（電子媒体のものを含む）/Write on the blackboard (Written communication in class, including use of digital whiteboards) (2)</p> <p>パワーポイント/PowerPoint (2)</p> <p>動画等の映像視聴教材（オンライン授業そのものの動画ではありません）/Video and other visual aids (This is not a video of the online class itself.) (3)</p> <p>シラバス/Syllabus (1)</p> <p>上記にあてはまるものがない/NA not applicable (2)</p>	<p>5 大いにそう思う/Strongly Agree:20%</p> <p>4 そう思う/Agree:20%</p> <p>3 どちらともいえない/Neither Agree nor Disagree:20%</p> <p>2 あまりそう思わない/Somewhat Disagree:20%</p> <p>1 そう思わない/Disagree:20%</p>
<p>2-6 上記2-5の選択肢を選んだ理由、あるいはそれ以外での授業で改善すべき点があれば記入してください【自由記述】</p> <p>2-6 if there is any reason for the answers for 2-5 and other things that can be improved, please explain. [Free writing]</p>	<p>担当教員の所見：立教太郎</p> <p>授業評価に対する担当教員の所見 Feedback from instructor on class evaluation survey</p> <p>※所見が表示されます</p>
<p>3 学生が授業に期待するもの</p> <p>3 Student's expectations of this course</p> <p>3-1 この授業から得ることができたものはありますか【複数選択可】</p> <p>3-1 Through this course I learned/acquired the following. [Multiple answers allowed]</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 自分にとって新しい考え方や発想/New concepts and new ways of thinking <input type="checkbox"/> 授業で扱った分野に関する基本的な専門知識/Basic academic knowledge related to the field taught in this course <input type="checkbox"/> 自分で調べ考える姿勢/A positive attitude towards doing my own research and analysis <input type="checkbox"/> 学問的興味/Academic content which was suitably challenging <input type="checkbox"/> 上記にあてはまるものがない/NA not applicable <p>自分にとって新しい考え方や発想/New concepts and new ways of thinking (2)</p> <p>授業で扱った分野に関する基本的な専門知識/Basic academic knowledge related to the field taught in this course (4)</p> <p>自分で調べ考える姿勢/A positive attitude towards doing my own research and analysis (4)</p> <p>学問的興味/Academic content which was suitably challenging (1)</p> <p>上記にあてはまるものがない/NA not applicable (1)</p>	<p>改善に向けた今後の方針 Plans for improvements in the future</p> <p>※所見が表示されます</p>
<p>3-2 上記以外での授業から得ることのできたものがあれば記入してください【自由記述】</p>	<p>戻る</p>

4. 学部等総評

学部等総評は、科目ごとの集計結果、各教員の執筆した所見および学部全体の集計結果をもとに、下記を基本形として、各学部等が執筆した。

<構成の基本形>

1. 科目選定方針とねらい
2. 集計データにみられる結果のまとめ
3. 担当教員の所見に対するまとめ（学生の意見に関する内容を含む）
4. 今後の改善に向けて

4-1 文学部

1. 科目選定方針とねらい

2023年度は、全学の科目選定方針である「学部等の必要性に応じた選定」の原則に基づき、導入ならびに基礎科目を中心として調査を行うことが学部の方針となっており、次の三つの基準で科目を選定した。

- (1) 各学科・専修の導入教育（初年次教育）科目
- (2) 文学部基幹科目
- (3) 各学科・専修で必要と認める科目

2022年度と同じく学部による設問項目については特に設定せず、全科目共通設問に拠ってアンケートを行った。

2. 集計データにみられる結果のまとめ

対象科目数は全 145 科目（春学期：67、秋学期：78）、実施科目数は全 119 科目（春学期：58、秋学期 61）であった。対象科目の履修者数は 11,282 人、回答者数は 3,893 人で、回答率は 34.5%であった。回答率の全体平均 40.0%を下回っているものの、昨年度の回答率（31.3%）から微増している。近年の回答率の推移を見ると、2020年度：44.7%、2021年度：31.8%、2022年度：31.3%となっており、2020年度以降、アンケート実施方法が Web 化されて以降、回答率が低下傾向にあったが、今年度の微増を回復の予兆とみておきたい。

とはいえ、回答率 3 割程度というのは数値として低いと評価せざるを得ないが、学部全体でみると、文学部同様に履修者数が一万を超え、且つ回答者数が数千名に上る学部は概して回答率が低い（およそ例外と言えるのは全カリ言語系科目のみ）。Web 上では講義担当者が直接にアンケートを回収・確認ができないため、演習科目以外の、特に大教室での講義科目などは、学生にとって回答の拘束力が弱くなることが考えられる。

学年別の回答者数を見ると、1年生 1,561 名、2年生 1,277 名、3年生 698 名、4年生 339 名、その他が 18 名であった。初年次教育科目、基幹科目を中心にアンケート対象科目を選定し、学生における科目の受け止めを把握するというねらいに対応した回答者分布になっている。

なお、前年度は 2、3 年生の回答者が 1 年生の回答数を上回っていたが、今年度は 1 年生および 2 年生に回答者が集中するという、2020 年度、2021 年度と同じ傾向となった。

I 「学生の学習姿勢」

文学部の平均値は、「I1 この授業に積極的に参加した」が 4.31、「I2 この授業に関連して、授業以外に学習した時間」が 1.29 となった。いずれも昨年度の数値（「I1」=4.28、「I2」=1.25）から微増している。前者は 2020 年度、2021 年度ともに 4.25 であり、対面授業の常態化の効果かと思われる。後者については 2020 年度：1.67、2021 年度：1.44 には及ばないものの、ここ数年の低下傾向に歯止めがかかっている。

II 「教員の授業改善に向けて」

文学部の平均値は、「II1 各回の授業内容は明確だった」が 4.36%、「II2 教員の伝え方はわかりやすいものだった」が 4.27%となった。いずれも昨年度の数値（「II1」=4.41、

「Ⅱ2」=4.30) から数値的には低下している。授業内容や方法に関する評価点を「Ⅱ3 この授業でよいと思った点がありますか」(複数回答可)で見ると、「配付資料(授業のレジュメなど)」が55.4%、「パワーポイント」が33.1%、「動画等の映像視覚教材」が21.0%となっており、ここ数年の傾向と変わるところはない。履修者の手元に配付する資料に対する評価が投影資料を大きく上回っていることは留意しておくべきだろう。

なお前年同様、「シラバス」の数値は選択肢中、最も低い(7.3%)が、「Ⅱ5 この授業で改善すべきだと思った点がありますか」(複数回答可)でも「シラバス」の数値は3.0%と最も低い。シラバスがそもそも学生から意識を向けられていないと受け取ることもできる。

Ⅲ「学生が授業に期待するもの」

「Ⅲ1 この授業から得ることができたものがありますか」(複数回答可)に関しては、例年通り「①自分にとって新しい考え方・発想」および「②授業で扱った分野に関する基本的な専門知識」の数値が高い。導入教育科目や基幹科目のねらいには沿っていると言えるが、「自分で調べ考える姿勢」は31.6%(2020年度)、27.9%(2021年度)、25.1%(2022年度)、26.5%(本年度)となっており、21年度以来の落ち込みが回復していない。「学問的興味」については43.6%(2020年度)、46.8%(2021年度)、49.2%(2022年度)、45.7%(本年度)と傾向の如きものは読み取ることができない。

授業の満足度は全体が4.36で、昨年(4.37)と同水準であった。学年別でみても昨年同様に全学年で4.3を超え、満足度の高い講義・演習の提供が実現しているといえる。

3. 担当教員の所見に対するまとめ

3-1 「授業評価に対する担当教員の所見」のまとめ

学生からの肯定的な評価・意見として多く取り上げられているのは、レジュメや配付資料、パワーポイント、動画資料の充実度であった。これらはCanvas LMS等で共有可能であり、かつ講義終了後も閲覧、ダウンロードが可能であることから、講義内容を復習できることが高い評価につながっていると見受けられる。

またリアクションペーパーの内容の共有、回答に対する学生の高い評価が多く見られる。演習系の授業はもとより、多人数の講義でも他の履修者の考え方に触れることができたこと、自分のコメントに対するフィードバックに対する肯定的評価は多い。

学生からの否定的な評価・意見として目に付くのは、レジュメやパワーポイントが見にくいこと、教員の声が聞きづらいというものであった。また、教員の入室時間、シラバス通りでない講義進行や評価方法についても厳しめの意見が見られた。

3-2 「改善に向けた今後の方針」のまとめ

回答をしたいずれの教員も、アンケートの内容を真摯に受け止めて、改善の方針を示している。ただし履修者数や教室環境(広さ、スクリーンの投影環境、マイクの音声状況、空調の具合など)、教員でも如何ともしがたいこともある。また授業方法に対する受講者のリクエストに対し、講義期間中に対応できなかった、また対応しなかった理由を明確にしている例もあった。評価やリクエストに一方的に応じることを良しとするだけでなく、指摘された事柄の背景や理由を明確に説明する(できる)ことも、根本的な授業改善に至る要素となると思われる。

4. 今後の改善に向けて

回答率、学生における授業への積極的参加が微増したことは、前年度からの改善といえるし、昨年同様に学生の授業に対する満足度が高いことは、学生にとって魅力的な講義を提供していることを読み取ることができる。このことを踏まえて、今後は学生の主体的に学ぶ姿勢を引き出す授業づくりを目指した、各教員の授業改善を期待したい。

30%台に止まっている回答率をどう引き上げるかということは、引き続き検討が必要である。回答率を上げるためのアンケート実施方法のサンプルについては情報提供がされているし、個々の教員も工夫をしている。しかしながら履修者数が100名を超える科目は回答率が低くなる傾向が全体から読み取ることができる（もちろん例外もある）。著しい例は履修者数783（資料によっては770）名、回答者数40名、履修者数638（資料によっては639）名、回答者数168名という科目である。大人数の講義で回答率をどう上げるかということが、今後の中心的な課題になると思われる。

なお、2022年度の授業評価アンケートの実施状況については、2023年5月31日の文学部教授会部長会報告にて、教育改革推進会議資料に基づき回答状況、所見執筆状況、回答率が高い教員を対象としたアンケート実施上の工夫に関するヒアリング結果が共有された。本年度の回答状況や教員の所見執筆状況については、本総括の内容を文学部教授会で報告する際に共有する。

4-2 経済学部

1. 科目選定方針とねらい

2023年度の選定方針は概ね以下の通りである。

- (1) 「講義科目 1 教員 1 科目」の調査は実施しない。
- (2) 本年度については原則春学期に実施するが、通年科目は秋学期に実施する。ただし過年度通年科目であった経済学 1・2 は、春・秋学期で担当教員が異なるため春・秋学期に実施。また簿記 1・2 は同一教員のため秋学期のみに実施する。
- (3) 共通シラバスを用い、授業の目的及び内容にある程度の共通性があり、複数コマ開講されている科目及び積み上げ方式の 1 年次科目についてアンケートを実施する。

アンケートのねらいは、学生側からの授業評価を通じて、今後における授業改善のための課題を各々の授業担当教員が認識することにある。

2. 集計データにみられる結果のまとめ

2023年度のアンケート実施科目数は 59 科目（実施対象科目 66 科目）、回答者は延べ 2,014 名となった。履修者数と比した回答率は 51.0%と全学平均（40.0%）を大きく上回った。回答率が高かった要因として、アンケートの実施対象科目の大部分を 1 年次向けの、必修あるいは自動登録科目としていることが挙げられる。これは、「学部等別学年別の回答者数」のデータからも明らかであり、経済学部の回答者の 96.7%が 1 年次であった（1 年次 1,947 名、2 年次 43 名、3 年次 16 名、4 年次 7 名、その他 1 名）。必修科目や自動登録科目では、学部執行部から担当専任教員に対して、基礎ゼミナールでは各学期前に行っている「基礎ゼミナール担当者連絡会議」を通じて、それぞれアンケート実施に関する事前のアナウンスを徹底してきたが、そうした地道な努力が、今回の高い回答率につながったと考えられる。

まず、設問項目別平均値についてまとめる。「Ⅰ 学生の学習姿勢」、「Ⅱ 教員の授業改善に向けて」、「Ⅲ 学生が授業に期待するもの」においては、「Ⅰ2 この授業に関連して、授業以外に学習した時間（平均して、1 週間に）」の平均値が 1.79 時間であったことを除いて、全ての項目で 4.15~4.35 という高い数値となっている。「Ⅳ 学部等による設問」においても、5 項目のうち 3 項目が 4.30 以上という非常に高い数値となっている。5 項目すべてにおいて 4.0 以上ではあるものの、「Ⅳ1（基礎ゼミナール 1）経済関連の文献を読む力がついた」については 4.04、「Ⅳ4（情報処理入門 1）Power Point でプレゼンテーション資料を作成する力が身についた」については 4.10 と、相対的に低い数値となっており、ここには改善の余地があると思われる。この点については、4. で後述する。

次に、設問項目別回答割合についてまとめる。「Ⅱ3 この授業でよいと思った点がありますか（複数選択可）」では、「配付資料（授業のレジュメなど）」が 61.1%と突出しており、「パワーポイント」が 30.8%と続いている。注目すべきは、「Ⅱ5 この授業で改善すべきだと思った点がありますか（複数選択可）」においても、「配付資料（授業のレジュメなど）」が 16.0%と最も高い数値になっていることである（最上位は「上記にあてはまるものがない」の 57.3%）。授業を受ける学生にとってレジュメを含む配付資料がとても重要であることが、昨年度に引き続き今年度も示されており、配付資料を学生が重視していることに担当教員は留意する必要がある。

「Ⅲ1 この授業から得ることができたものはありますか（複数選択可）」においては、「授業で扱った分野に関する基本的な専門知識」が 60.8%と高い一方で、「自分にとって新しい考え方・発想」、「自分で調べ考える姿勢」、「学問的興味」は、昨年度と同様に、いずれも 27.2～35.2%と相対的に低くなっている。ここにも改善の余地があると思われ、この点についても 4. で後述する。

3. 担当教員の所見に対するまとめ

3-1 「授業評価に対する担当教員の所見」のまとめ

所見内容は各教員によって差異があるものの、概ね学生からの評価は高く、教員自身も手応えを感じていることが伺える。昨年度に散見された、「声が聞き取りにくい」、「板書や授業進行が速過ぎる」、といった意見は減りつつある。その意味では、コロナ前の授業感覚を取り戻すことは、ほぼ出来ていると考えられる。こうした対面授業の運営における安定性の回復が、受講する学生側の安心感にもつながり、総じて高い評価を得たと自己分析するケースも確認された。しかしながら、依然として学生からの授業に対する要望は存在しており、引き続き改善への取り組みが必要とされている。

3-2 「改善に向けた今後の方針」のまとめ

コロナ禍の影響により、各教員はこれまでの対面授業に加えて急遽、オンライン授業およびミックス型授業にも取り組まざるを得なくなり、そのためのスキルを急ごしらえで身に付けてきた。コロナ前の対面授業への復帰が、ほとんどの経済学部開講科目において実現された現在、しかしながら一部科目では、引き続きオンライン授業も実施されている。対面授業者に対してもオンライン受講者に対しても丁寧な対応を可能とするスキルを各教員が修得し、どの授業形態においても学生の学びに対するモチベーションが低下しない体制の構築を目指すべく、FD 研修会を実施するなどの対策を引き続き講じていきたい。

4. 今後の改善に向けて

基本的には学生より高い評価を得ることができたといえるが、改善の余地はある。まず、2. の第 2 段落で指摘した、「IV1（基礎ゼミナール 1）経済関連の文献を読む力がついた」、「IV4（情報処理入門 1）Power Point でプレゼンテーション資料を作成する力が身についた」が相対的に低い数値となっていることについてである。これに関連して、「IV 学部等による設問」において相対的に平均値が高い項目について見ると、「IV3（情報処理入門 1）表計算ソフト（Excel）の応用力が身についた」が 4.37、「IV2（基礎ゼミナール 1）レジュメやレポート作成の力がついた」が 4.33、「IV5（情報処理入門 1）WEB 上から経済資料・統計資料を入手する力が身についた」が 4.32 となっている。

これらの高い数値は、演習科目である「基礎ゼミナール」および実習系科目である「情報処理入門」において、教員によるきめ細かい指導が行われていることを反映しており、今後はそこに、いかに「経済文献を読む力」をつけるための仕掛けを組み込んでいくのか、という点に絞って、引き続き取り組みを行いたい。

次に、2. の第 3 段落で指摘した、「授業で扱った分野に関する基本的な専門知識」の数値が相対的に高い一方で、「自分にとって新しい考え方・発想」、「自分で調べ考える姿勢」、

「学問的興味」の数值はいずれも相対的に低くなっていることについてである。この点は過年度からの改善すべき課題として認識されてきたが、引き続き学生（とりわけ1年次生）に対して時事問題に対する意識や経済学そのものへの関心を高める継続的試みが必要と考えられる。講義内容に関係する現在進行形の社会問題や政治経済問題をタイムリーに提供し、学生の「学問的興味」を掻き立て、発展的な学習につなげる環境の構築が不可欠である。

4-3 理学部

1. 科目選定方針とねらい

「学部等の必要性に応じた選定」という全学の科目選定方針、および経年変化を調査するため同じ科目を選定するという理学部の方針に沿って、数学科は必修科目・選択必修科目、物理学科は原則すべての講義科目（複数教員担当科目を除く）、化学科は必修講義科目と選択講義科目（原則、複数教員担当科目を除く）、生命理学科は前年度と同じ科目を選定した。複数の科目が教員一人の担当とならないよう重複は避けた。共通教育科目は履修者数の少ない科目、ゼミナール科目を除いた科目について実施した。理学部独自の設問についても例年通り行った。

2. 集計データにみられる結果のまとめ

理学部の回答率は37.1%で、全学平均の40.0%と同レベルで、また昨年度の回答率33.1%から微増であった。数年前から現れた減少傾向は回復しつつあるようである。一方で、学年ごとにおける回答者数（延べ人数）は、1年生1,360名（2022年度1,149名、2021年度912名）、2年生738名（2022年度636名、2021年度761名）、3年生461名（2022年度657名、2021年度404名）、4年生93名（2022年度127名、2021年度50名）、その他5名と低学年において増加、高学年において減少する傾向が見られた。

設問項目別平均値を見ていくと、「(I2) この授業に関連して、授業以外に学習した時間（平均して、1週間に）」は1.85時間で、昨年度1.93時間から微減している。他の項目は、総じて前年度と比べ大きな変化は見られなかった。設問項目別回答割合について、「(II3) この授業でよいと思った点はありますか」、「(II5) この授業で改善すべきだと思った点はありますか」、「(III1) この授業から得ることができたものはありますか」の項目についても、前年度から大きな変動はない。

学科間の比較では「(I1) この授業に積極的に参加した」、「(II1) 各回の授業内容は明確だった」、「(II2) 教員の伝え方はわかりやすかった」、「(III3) この授業を受けて満足した」、「(IV4) (1年次必修科目のみ) 教員は高校までの授業スタイルとの違いを考慮して授業展開をしてくれた」で数学科のポイントが高い。「(I2) この授業に関連して、授業以外に学習した時間（平均して、1週間に）」は物理学科が他学科よりも1時間程度長い。これは前年度にも見られた特徴である。「教員は質問・疑問に対し積極的に答えてくれた」「(1年次必修科目のみ) 教員は高校までの授業スタイルとの違いを考慮して授業展開をしてくれた」で化学科のポイントがやや低い。

3. 担当教員の所見に対するまとめ

3-1 「授業評価に対する担当教員の所見」のまとめ

(数学科)

アンケート回答数が少ないため、すべての受講者の評価が分からないが、アンケートに回答した学生の意見から、授業内容や質問対応について比較的高い評価を得ている。授業の良い点として、授業のレジュメなどの配付資料が評価されている一方、板書内容を自分の手で写すことによる教育効果が薄くなることを懸念する教員がいた。また、授業の録画配信を行った科目については、動画資料を評価する声がある一方、対面講義の出席率が下がることに

なり、録画配信と出席率の両立に悩む教員がいた。

(物理学科)

講義と演習の進行状況の調整に工夫をしているが、まだ必ずしもずれが解消できていない状況を伺うことが出来る。

(化学科)

全体的に肯定的な意見が多く、特に、動画などの補助資料や問題演習などについては、肯定的な意見が多く寄せられた。一方で、板書の速さや読みやすさについては、否定的な意見もあった。また、スライドや配付資料については、同一科目内においても肯定的な意見と否定的な意見の両方がみられた。出席率の低さや講義時間外での学習時間の短さに対する言及もあった。肯定的な意見の多かった工夫について、よりよいものを目指しながら継続していく。

(生命理学科)

アンケート回答率の低さから必ずしも全体を反映してないとしつつも、コロナ禍からの回復による良い効果や、オンデマンド併用の試みへの高評価、などが見られた。担当教員の所見を記入していない科目もいくつかあった点は要改善である。多くの教員は講義に対して肯定的な評価をする学生が多いと感じているが、前述のように回答率が低い中、それを真実と捉えてよいか疑問を感じている。講義を録画して配信している教員は少ないが、学生からは好評のようである。

3-2 「改善に向けた今後の方針」のまとめ

(数学科)

配付資料・動画資料などの活用はメリット・デメリットがあるが、受講者のレベルや出席率などを見ながら、これらの教材を総合的かつ効果的に活用していく。

(物理学科)

演習科目と講義科目の進行状況の調整は引き続き科目担当者間で綿密な協議を行う。

(化学科)

板書の文字が小さい等、改善できるものは積極的に改善していく。スライドや配付資料については、よりよいものを準備していく一方で、授業への積極的な参加や教科書での自主学習が前提となる補助資料という位置付けの場合もある。各講義内で学生へアナウンスをする。

(生命理学科)

高い評価を得ている試みは継続しつつも、回答率の低さからして、必ずしも全履修者の評価を反映してない点を踏まえると、アンケート回答率を高める工夫が必要である。

4. 今後の改善に向けて

前年度に挙げた改善点は「アンケート回答率を向上させるために、講義時間内に時間をとるなど、確実に回答してもらおう」であり、その効果もあってか回答率の微増が認められた。しかしながら、必ずしも高い回答率ではないため、アンケート回答率の向上が前年に引き続き課題である。高い回答率が得られている科目に注目して調べてみると、実際に「講義時間内に時間をとるなど、確実に回答してもらおう」ことを実施しており、この徹底が全体の回答

率の改善につながるものとする。

肯定的にも否定的にも、スライドや配付資料についてのコメントが多い。各科目でのそれらの位置付けを明確にしながら、工夫をしていく。問題演習を織り交ぜることには肯定的な意見が多く、積極的に活用できる科目が多い。学生のアンケート結果を振り返ることで、教員の講義準備・改善の材料になっていることは間違いない。

なお、今年度より、この総評は4学科がそれぞれで執筆したものを取りまとめることとした。それにより、各学科での改善方針の継続などの、よりきめ細かな対応を図っている。

最後に、「学生による授業評価アンケート」の実施状況（回答率等）に関する各学部等における共有依頼（2023年5月25日、教育改革推進会議）を受け、理学部では2023年度第5回理学部教授会（2023年5月31日）の部長報告でこれらの情報について共有を行った。

4-4 社会学部

1. 科目選定方針とねらい

対象科目の選定方針は前年度を踏襲し、以下のとおりとした。

①必修科目はすべて実施する

②講義科目については、科目の種類を問わず、なるべく「年間1教員1科目」となるように選定作業を行う

2012年度導入の現行カリキュラムでは、従来学科別に行われていた初年次、2年次の必修科目を学部共通の必修科目と位置づけ、これまで以上に学部として基礎教育の充実を目指すことになった。これらの科目に対する学生の評価は、今後の基礎教育のさらなる充実を考慮すると、重要なものとなる。①については、2011年度まで「必修・選択必修の講義科目は、原則としてすべて実施する」というやや緩やかな方針をとっていたが、基礎教育を重視するカリキュラム改訂の実施を踏まえて、2012年度から必修科目は全て実施するという変更を行った。2022年度は「1教員1科目」の原則による実施が全学の科目選定方針であるが、社会学部においては②を2007年度以降選定方針としており、2023年度についてもこれに準拠した。現在、社会学部ではカリキュラムの改訂を計画しているが、その際にも、この授業評価アンケートの結果は参考となるものであるだろう。

2. 集計データにみられる結果のまとめ

2-1 授業規模別

50名以下を「S」、51~100名を「M」、101~150名を「L」、151名以上を「LL」として、社会学部101科目の結果を見てみたい。このとき、授業規模が大きくなるほど対象授業数が減るため、特に対象授業数の少ないLやLLクラスの平均値は、特定の授業の回答傾向に影響を受けている可能性も考慮する必要がある。近年、授業規模と評価の関係は、 $S > M > L > LL$ という単純な関係でないことが多いが、本年もこのような状況が続いている。

IIの「教員の授業改善に向けて」の二つの設問「各回の授業内容は明確だった」と「教員の伝え方はわかりやすかった」も、例年は $S > M > L > LL$ のように授業規模が小さいほど評価が上がる傾向を見せているというが、本年度に関してはこのような傾向を示していない。I「学生の学習姿勢」のI1「この授業に積極的に参加した」については、 $LL > M > S > L$ の順で、I2の「授業以外に学習した時間」については $L > LL > S > M$ の順であり、クラスの規模との関連はほとんどない。

IIの「教員の授業改善に向けて」についてII3「この授業でよいと思った点」とII5「この授業で改善すべきだと思った点」の両項目とも授業規模との関連はほとんどない。II3において多く選択されたのは、「①配付資料（授業のレジュメなど）」と、「③パワーポイント」であり、それに「④動画等の映像視覚教材」が続く。II5については、授業規模に関わらず約6割の学生は「⑥上記にあてはまるものがない」を選択しているが、相対的に選択したものが多かったのは「①配付資料」であった。Lの授業において、やや配付資料の改善の要求が多くはある。

またIII1「この授業から得ることができたものはありますか」は概ね高得点を示している。

過去2年の総評と比べてみると、授業規模と回答内容の関係はさらに関連性が薄くなっているものと感じられる。コロナ禍下におけるオンライン授業を経験した後の学生の受講態度の変化とともに考察をすすめてみる時期かもしれない。

2-2 学年別

学年別の延べ回答者数は、学年が上がるにつれて回答者数が明白に減る傾向にある。興味深いことにⅠ1の「この授業に積極的に参加した」の項目では4年生の評価が低い、これは卒業のために単位をとらざるをえないという受講理由が関係したものであるだろう。Ⅰ2の授業以外の学習時間に関しては、2年生と3年生が1時間未満であり、1年生が1.45時間と突出した値を示している。しかし、Ⅱ「教員の授業改善に向けて」のⅡ1「授業内容が明確だった」とⅡ2「教員の伝え方はわかりやすかった」の項目、そしてⅢ3「この授業を受けて満足した」のいずれの項目も1年生の評価はもっとも低い。また、Ⅱ2「教員の伝え方はわかりやすかった」の項目、そしてⅢ3「この授業を受けて満足した」の項目は学年が上がるほど満足度や理解度が高まる傾向である。

授業の改善点については、Ⅱ3の「この授業でよいと思った点」では1年生の回答の中で多く選択されたのは「①配付資料」、「③パワーポイント」、「④動画等の映像視覚教材」の順であるが、他学年と比べて視覚教材の満足度は低い。Ⅱ5の「この授業で改善すべきだと思った点」は「⑥上記にあてはまるものがない」が1~3年では6割弱だが、4年生は55.4%とやや低く、その中でも配付資料への評価が低い傾向を持つ。

2-3 学科別

学科別のデータでみると、Ⅲ3「この授業を受けて満足した」の項目ではメディア社会学科のスコアが最も高く、それに続いて社会学科、現代文化学科の順であった。現代文化学科もメディア社会学科もⅠ2の授業外学習時間は週に1時間を下回る水準である。過去2年の総評と比べてみると、この順序は固定化されておらず、経年的な判断の上では特定の学科が問題を抱えていると考えなくとも良いことがわかる。

Ⅱ「教員の授業改善に向けて」のⅡ3「この授業でよいと思った点」ではメディア社会学科の「①配付資料」、「②板書」、「③パワーポイント」への満足度がかなり低いが、他方で「④動画等の映像視覚教材」への満足度は社会学科の4倍以上の水準になっており、この点については学科の特徴によって異なる結果が出たといえよう。

3. 担当教員の所見に対するまとめ

3-1 「授業評価に対する担当教員の所見」のまとめ

全体として回答者数が少ないという指摘があり、履修学生全員を代表できない意見として受け止められた様子だった。授業に対しては肯定的な評価が多く、学生の履修満足度が高く、受講態度も良好であったという意見が多かった。

学生から肯定的な意見として、リアクションペーパーのフィードバック、映像・データ資料の使用、配付資料の読みやすさ、そして授業をきっかけに「将来についてちゃんと考えるようになった」という、授業目標そのものの記述もあった。学生からの否定的な意見として、教室の私語が多い、内職をする学生がいる、配付資料の中身に関する指摘（毎週配付して欲しい、内容が難しすぎ、字が小さすぎ）、教員の話し方への改善のリクエストなど、授業内容に直結する意見よりは教学環境に関する意見が多い。

また履修者数の多さに関する記述も多く、そこに時間割の流動性や教室逼迫問題による履修者数の不安定化が問題状況を生じさせていることも感じもする。

3-2 「改善に向けた今後の方針」のまとめ

概ね、学生からの意見を受け、積極的な授業改善の姿勢を示すものが多かった。その中でも、授業内の情報量が多すぎるという意見を受け、内容の整理を行うという方針が示される回答が一定数存在している。

ネットの活用について授業形態の問題としてではなく、資料配布の方法として活用したいという所見が多く存在した。コロナ禍下におけるオンライン授業での経験から新たに生じた問題意識であると感じる部分もあった。

4. 今後の改善に向けて

コロナ禍下のオンライン前提の状況もある程度過去のものになり、対面授業が前提となった現在、授業形態に関するコメントはあまり多いとは感じられない。しかし、そうした状況だからこそ、過去の経験を踏まえたかたちでのより良い授業形態を模索する試みは続けられるべきであるかもしれない。対面授業とオンライン授業の併用や活用の仕方については、今後も継続した課題となるだろう。

社会学部では、授業期間中はほぼ月1回のペースで、必修授業や実習、演習などの授業形態のテーマを立ててFDを実施しており、授業で生じた（生じうる）様々な問題点の共有をはかっている。アンケートの結果は、全体として良好だと評価できるが、その中でも指摘された問題点については、FDなどを通じて情報共有に努め、改善をはかっていきたい。

なお、授業によるが、アンケートの回答率の低さも問題であろう。回答率が低いということは、回答の代表性に疑念を生じさせる原因となる。2023年5月25日、教育改革推進会議にて提示された「学生による授業評価アンケート」の実施状況について、教授会内で報告がなされており、各教員なりの対応は模索されているが、その対応の成果が上がっているとは言いがたい。アンケートの信頼性を高めるためにも、個々の教員の通知に頼るだけではなく、Canvas LMSを通じて学生に一斉アナウンスするなど、回答率を高める工夫が必要とされているように思われる。

また、根本的な問題として、時間割の流動性や教室逼迫問題による履修者数の不安定化や増加の問題がある。この点については、各教員や学部内の努力のみで解決できる問題ではなく、全学的な対応を期待したい。

4-5 法学部

1. 科目選定方針とねらい

法学部では、2011年度より、全教員（専任・兼任）について授業評価アンケートを行うのは3年に1回とし、それ以外の年度は、本学で初めて授業を開講する教員および実施を希望する科目を対象にアンケートを行うことにした。

2023年度は、学部等の必要性に応じた選定を科目選定方針とする年度に該当する。すなわち、①本学で初めて授業を開講する教員、およびアンケートの実施を希望する科目を対象に行う、②演習科目は対象としない、との選定方針にもとづき、合計11科目につき授業評価アンケートを行った。大人数科目が多い法学部においては、講義科目における教育が容易ではないことに鑑み、これらの授業の改善を重視している一方、演習科目においては少人数を対象としており、アンケート調査が行いにくいという事情があるためである。

なお、毎年度の全教員についての授業評価アンケートの実施をとりやめたのは、授業評価アンケートも回を重ねるにつれて、アンケート結果に対して授業改善に取り組むという姿勢が浸透しているため、3年に1回のアンケートで、学生からの意見のフィードバックとしては十分であると考えられるためである。

2. 集計データにみられる結果のまとめ

集計データを参照し、回答率、設問項目別平均値、授業規模別平均値、学年別平均値の結果についてまとめる。

2023年度のデータの前提として、①昨年度（2022年度）は、3年に1度の「1教員1科目」の原則で実施する年度であったことから、授業評価アンケートを実施した科目数が減少したこと、②授業実施については、2022年度までのコロナ対応にかかる非常措置がほぼ終了し、コロナ禍前の状況に戻ったことなどが挙げられる。また、今回も学部独自の設問は特に設定しなかった。

回答率は、27.0%であり、昨年度の25.4%から微増しているものの（2021年度は25.9%）、ほぼ昨年度と同水準であった。他学部の回答率と比較しても低い部類に属するが、ここ近年、回答率の高い学部と低い学部と二極化する現象がみられるところ、いずれにせよ、3割にも満たない学生からの回答であることは、このアンケート結果の分析において念頭におく必要がある。

設問項目別平均値については、対象科目の範囲の違いやコロナ対応の終了など前提が異なるため、近年との比較は困難である。そのような比較の限界はあるものの、各項目の平均値は、全体的な評価傾向に大きな違いはない。すなわち、Ⅱ1「各回の授業内容は明確だった」（4.46）は、昨年度（4.30）より向上し、依然として高い値を示している。Ⅱ2「教員の伝え方はわかりやすかった」（4.43）も同様に、数値的に向上し（前年度4.17）、引き続き高い水準にある。Ⅱ3「この授業でよいと思った点（複数選択可）」としては、①「配付資料（授業のレジュメなど）」を挙げる者が多く（39.3%）、③「パワーポイント」（30.7%）、②「板書（電子媒体のものを含む）」（26.6%）などが続いている。これら授業で使用する資料、媒体の違いは、当該授業の進め方や内容にもよるところも大きいと思われ、また、改善を望む意見は一定程度あるものの（Ⅱ5参照）、授業における配付資料等の媒体の使用については、肯定的な評価がなされていると思われる。

Ⅲ1「この授業から得ることができたもの（複数選択可）」としては、②「授業で扱った分野に関する基本的な専門知識」を選択した者が昨年度同様、60.5%と最も多く、次いで①「自分にとって新しい考え方・発想」（53.7%）、④「学問的興味」（45.5%）が多かった。今年度の講義も、学生の自主的な学習を促すという長年の課題に応じていると評価できる。それと併せて、昨年度との比較では、④「学問的興味」（昨年度 43.4%）と①「自分にとって新しい考え方・発想」（昨年度 38.8%）が順位において逆転している。これは、直ちに有意な変化であるとはいえないが、学生が授業に何を期待しているかにつき、学生の授業に対する取り組みや姿勢などとともに、注視する必要がある。

Ⅲ3「この授業を受けて満足した」については、今回実施科目数が少なかったこともあり、個別的には該当科目の特性に左右された可能性があるが、概ね 4 台の評価となっており、昨年度（4.26）と同水準とみてよいであろう。ただし、I 2「この授業に関連して、授業以外に学習した時間（平均して、1 週間に）」という設問への回答は平均 1.15 時間（回答者 228 名）と昨年度（1.17 時間、回答者 1,642 名）とほぼ横ばいである。I 1「この授業に積極的に参加した」は 4.29（昨年度 4.18）と比較的数値が高いにもかかわらず、授業外の学習時間が短い点は、学生の受講態度について懸念を感じさせるものである。授業規模別平均値についても、対象科目数が限られていることから、全体として授業規模と各項目の回答傾向に顕著な関連があるかは不明である（I 2「授業以外に学修した時間」が、50 名以下のクラスでは 1.44 であるところ、51～100 名では 0.95 となる。ただし、51～100 名は 3 科目以下であるため、該当科目の特性が強く出ている可能性がある）。学年別平均値については、2023 年度は、I 2「授業以外に学修した時間」については、1 年、3 年が多く、2 年、4 年が少ない結果が出ている。傾向的にみると、1 年と 3 年において、授業への積極さの程度（I 1）と満足度（Ⅲ3）がやや高めである。1 年については、初年次教育への配慮が一定の効果を上げているとみることができる。

3. 担当教員の所見に対するまとめ

3-1 「授業評価に対する担当教員の所見」のまとめ

担当教員の所見では、各教員が、学生の率直な評価を真摯に受け止め、相対的に評価の低い項目については、学生が主体的に学ぶことができるよう、刺激のある授業を展開したいといった形で、次年度以降に改善を試みる姿勢を明らかにしている。講義資料の在り方等については、大人数のクラスにおいて、教師と学生との間のコミュニケーションの取り方の問題ともいえるが、改善すべき点は改善するとして、きめ細かく自身の授業方法の見直しに役立てようとする姿勢がみられた。

また、学生に対して予習、復習の指示をより具体的に示したいという意見もあった。これは、授業以外の学習時間が少ないという年来の課題とも関連しており、今後、継続的に検討、努力が必要であろう。

3-2 「改善に向けた今後の方針」のまとめ

パワーポ、レジュメ、さらに板書という授業の補助手段が複数ある場合、それを効果的に用いることの難しさをうかがわせるコメントが複数見られた。また、英語で展開される授業については、科目の特性固有の難しさがうかがえるが、担当教員において改善に向けてさまざま

まな検討を試みており、試行錯誤の状況にあることが認識された。この点は、今後のFDの課題として、情報共有、意見交換などが必要であると考えられる。

4. 今後の改善に向けて

2022年度の学生の回答率や教員の所見執筆等の状況については、2023年度第6回教授会議事録(2023年6月20日開催)において、①回答率は、低下していた前回よりも若干ではあるがさらに低下したこと(2021年度25.9%→25.4%)、②設問項目別平均値では、対象科目の範囲が大きく異なることから2021年度との単純な比較はできず、また、設問の変更があったことや、コロナ禍におけるオンライン授業を中心とした時期を挟んでいることから、2020年度以前との比較も困難であること、③そのような比較の限界はあるものの、全体的な評価傾向に大きな違いはないといえること、④授業規模別平均値では、全体として授業規模と各項目の回答傾向に顕著な関連は見出されないが、授業規模が大きいものほど、若干ではあるが回答の平均値が高めに出ていることから、これらの大規模授業においては、その運営の困難さに比して、学生の理解や満足を高めるための教員の努力が一定程度の効果をあげているといえること、⑤一方、2021年度までは、コロナ禍におけるオンライン及びミックス型授業への対応が重点的に対応すべき課題であったが、2022年度からは原則対面式で授業が行われていることから、空調や音響・板書等に関する、コロナ以前に頻出した不満が「復活」しているように見える部分もあったことなどが報告され、共有された。

2023年度の授業評価アンケートの結果においては、「教員の授業改善に向けて」(Ⅱ)に関する項目や、「学生が授業に期待するもの」(Ⅲ)について、学生が全体的に高く評価しており、このことは、この過去1、2年大きな変化はない。他方で、このような高い評価が、学生の積極的、能動的な学習と結びついているかということ、疑問の余地がないではない。例年指摘されていることであるが、学生の授業以外での学習時間が十分ではなく、低下傾向にあるように見えることは残された課題である。今回、対象科目数、回答数が少なかったということはあるものの、概ね全体の状況を反映しているといえるであろう。

2023年度は、授業実施においてほぼコロナ前と同様の状況に戻った。またCanvas LMSの本格導入もあり、授業において用いる補助手段も多様化している。とりわけ、Canvas LMSの有効利用は、教員の習熟や学生への周知も含め、引き続き今後の課題である。さらに、学部専門科目における成績評価方法の多様化も今後想定されることから、授業内外での学習のあり方も含め、学生の履修行動、学習状況についても、注視する必要がある。

4-6 経営学部

1. 科目選定方針とねらい

「立教時間」を用いた Web 方式による「学生による授業評価アンケート」において、経営学部はこれまで通り 2~4 年次演習および BLP・BBL 関連科目を除いて、原則として全科目を対象に、春学期 46 科目、秋学期 47 科目で実施した。全科目を指定している理由は、「学生による授業評価アンケート」の結果は、授業を担当する教員に対して重要なフィードバック効果をもたらし、授業の質を高めるのに寄与するものと考えているからである。なお、BLP および BBL 関連科目について実施しない理由は、これらの科目が独自性の強い演習系の科目であることから、学部で独自に詳細なアンケートを実施しているためである。

2. 集計データにみられる結果のまとめ

まず、回答者数について、履修者数11,904名に対し回答者数2,007名で、回答率（回答者数/履修者数）は16.9%だった。2022年度の回答率は14.5%であり改善はみられたものの、他学部と比較して回答率が最も低いことから、2023年度においてもWeb方式による実施の周知や実施の徹底が十分ではなかったと推測する。

次に、学生側の授業に対する取り組みについて、2022年度と比較して、「この授業に積極的に参加した（I1）」は4.28（2022年度は4.25）で、対面が定着した2023年度においても積極的に授業に取り組んでいたことがうかがえる。ただし、アンケート実施科目の回答率が前述の通り16.9%ととても低いことを考慮すれば、アンケートに回答するような積極的に参加する学生と、そうでない学生の取り組み方に差が生じている可能性が懸念される。

それ以外の授業に対する取り組みとして、「授業以外に学習した時間（I2）」について、平均値は1.54時間（2022年は1.36時間）で、平均では、回答者は昨年度と比べて多い学習時間を取ったことになる。具体的には、約15.8%の学生が0時間、約57.7%の学生が1時間、約16%の学生が2時間、約10.3%の学生が3時間以上と回答している。また、授業規模別（回答者数別）にみると、50名以下が1.87時間、51名~100名が1.24時間となっている。なお、101名~150名ならびに151名以上については該当科目が1科目のため結果は表示されていない。2022年度では規模が大きいほど時間が少ない傾向となっていたが、2023年度は、50名以下の授業で授業以外の学習時間が増加した一方、51名~100名の授業では授業以外の学習時間がやや減少した。学年別にみると、1年1.84時間、2年1.41時間、3年1.03時間、4年1.50時間となっており、3年を除いて授業以外の学習時間が増加した。2023年度においては、多くの授業が対面実施される中で、適切な量の予習・復習につながる課題の工夫などが進んだ一方で、3年生ではゼミ活動やインターンシップなどの課外活動が通常通り行えるようになったことが授業以外の学習時間の減少に影響していると考えられる。

授業の進め方について、「各回の授業内容は明確だった（II1）」に関しては、2022年度と2023年度ともに4.36であった。規模別には、50名以下では4.29（2022年度4.36）、51名~100名が4.43（2022年度4.35）となっており、50名以下でやや悪化した一方で51名~100名でやや改善した。なお、101名~150名ならびに151名以上は該当科目が1科目のため結果は表示されていない。「教員の伝え方はわかりやすかった（II2）」に関しては全体の平均が4.26（2022年度4.25）、規模別には、50名以下では4.18（2022年度4.23）、51名~100名が4.37（2022年度4.26）となっており、50名以下の授業がやや悪化した一方、51名~100名

は改善した。なお、101名～150名ならびに151名以上は該当科目が1科目のため結果は表示されていない。

教員の授業改善に向けて、「この授業でよいと思った点はありますか（Ⅱ3）」において①配付資料は53.8%、③パワーポイントは43.4%が評価しており、授業の中で教員が工夫したことが推測される。また、「この授業で改善すべきだと思った点はありますか（Ⅱ5）」において56.8%が⑥上記にあてはまるものがないと回答しており、半数以上が評価していると推測できる。

学生が授業に期待するものに関して、「この授業から得ることができたものはありますか（Ⅲ1）」に関して、評価の多い順に②授業で扱った分野に関する基本的な専門知識（67.6%）、①自分にとって新しい考え方・発想（51.3%）、④学問的興味（33.2%）、③自分で調べ考える姿勢（22.6%）となっており、いずれの規模でも同様の傾向がみられた。学年別では、2年～4年は同様の傾向だったが、1年では評価の多い順に②授業で扱った分野に関する基本的な専門知識（74.2%）、①自分にとって新しい考え方・発想（36.9%）、④学問的興味（31.6%）、③自分で調べ考える姿勢（18.4%）だった。「③自分で調べ考える姿勢」を選択する学生が比較的少ない状況が続いていることから、次年度以降も改善の必要があると考える。

「この授業を受けて満足した（Ⅲ3）」は2022年度の4.35から4.34となったが、対面形態が定着した中で学生から高い評価を得られたといえる。規模別には、50名以下では4.27、51名～100名が4.42となっており、それぞれの差が広がった。一方、学年別にみると、1年4.18、2年4.49、3年4.32、4年4.48となっている。昨年度は1年生の満足度が他の学年に近づく傾向にあったが、2023年度は1年生の満足度が他の学年と開きが大きくなった。この傾向を改善するため、1年生の学生を対象とした授業や50名以下の少人数の授業に対する何らかの対応を引き続き検討していく必要があると思われる。

3. 担当教員の所見に対するまとめ

3-1 「授業評価に対する担当教員の所見」のまとめ

「授業評価に対する担当教員の所見」では、対面が定着する中で、評価項目への教員自身の分析が多くみられた。

肯定的な評価・意見としては、講義内容・レジュメの量の調整、小テストなどを活用した学生の学びの確認、学生とのインタラクションの確保、ゲストスピーカーの招請や、講師自身の経験の共有などに関して、取り組みの効果への言及がみられた。

否定的な評価・意見としては、使用する教材や配付資料の改善、オンライン授業で効果的にグループディスカッションや課題・テストを行う方法、動画などの効果的な活用による効率的な授業運営、リアルタイムでの学生とのインタラクションの確保などの改善、などへの言及がみられた。

なお、科目によって所見における記述の有無や詳細度にも差がみられたため、今後の検討課題としたい。

3-2 「改善に向けた今後の方針」のまとめ

「改善に向けた今後の方針」においては、対面形態が定着する中で、講義資料・課題の改

善や講義内容の説明の工夫、課題提出時間の調整、評価の公平性の確保が挙げられた。

オンライン形態の科目についてはオンラインの利点をより活用する工夫（チャットやブレイクアウトルームの活用）などについて言及がみられた。また、課題を適切な量やレベルにすること、学生の理解を確認する方法の工夫、講義資料の改善など、学生の学びの質を確保するための教員側の前向きな姿勢が示されている。今後の FD 活動でもフォローしていきたいと考える。

4. 今後の改善に向けて

2022 年度の評価結果に関して、対面形態への再適応とオンライン形態の活用を改善点として挙げた。2023 年 6 月の FD・委員会/点検・評価委員会にて総評ならびに学生の回答率と教員の所見執筆の状況を教員に共有し、意見交換をしたうえで、各教員（複数担当科目については教員間）で改善を図ってきた。

2023 年度の評価結果と学生の回答率、教員の所見執筆の状況については、2024 年 7 月 9 日に開催された FD・委員会/点検・評価委員会で共有した。

今後の改善点は以下の通りである。オンライン形態から対面形態が定着した場合においても、授業の質の改善が着実に進んでいることがうかがえるものの、対面形態に関しては、「静粛性の確保」など対面で授業を行う際の規律づくりと学生の講義へのエンゲージメントを高める工夫が求められる。加えて、配慮が必要な学生へのミックス形態の授業運営についても理解を高めていく必要がある。特に大人数の講義科目について、各教員の創意工夫や情報・知識を共有してベスト・プラクティスを学び合うなどの対応が有効であろう。加えて、大人数の講義科目については、対面よりもオンラインの方が教育効果が高いということも場合によっては考えられることから、そうした講義に関してはオンラインへの切り替えも検討することも有効と考えられる。

オンライン形態に関しては、オンラインならではの講義運営や講義資料の一層の工夫が求められる。2024 年度も引き続き 1 年次の必修科目系、履修者数が多い大規模な科目、パソコンを使う演習が多い科目などにのみ認めることとした。新型コロナウイルス感染症の 5 類感染症移行後、対面形態が定着する中で、学生は対面形態と比較してオンライン形態の良し悪しを感じているように思える。オンライン講義に関しては講義へのエンゲージメントを高める工夫に加え、対面形態と遜色ない満足度や理解度を得るための工夫について、各教員で継続して検討・改善していくことが有効であるといえる。

また、学生自身から寄せられたコメント（記述による評価部分）にもしっかりと耳を傾け、講義を継続的に改善していく必要がある。学生による評価は、教員に講義の問題点を気付かせ、改善・発展を促すきっかけとなる。学生の評価は高いので、次年度もその傾向が途切れず続くことを期待したい。

4-7 異文化コミュニケーション学部

1. 科目選定方針とねらい

異文化コミュニケーション学部では、2004年～2006年度は「講義科目を対象に1教員1科目」、2007年～2009年度は「実施科目の対象と選定に柔軟性を持たせ、学部などの必要性に応じて選定」、2010年度以降はほぼ隔年で上記2つの選定方針で科目選定を行っている。2023年度は「学部等の必要性」によって科目が選定された。具体的には新カリキュラムや入学定員増といった変化を早いタイミングでとらえるために、学科の導入教育科目の教育効果を確認しておくことを目的とし、以下の科目を選定した。

- (1) 1年次・2年次の必修科目
- (2) 1年次・2年次の自動登録科目
- (3) 本学部において指導されている諸領域の概論系科目等の基礎科目

2. 集計データに見られる結果のまとめ

2023年度対象となった75科目（春学期44、秋学期31）のうち、実施科目（回答者5名以上の科目）は65科目（春学期38、秋学期27）であった。履修者数は2,642名でそのうち回答者数は1,567名、回答率は59.3%で、全学部の平均回答率（40.0%）を約20%上回る回答率であった。

回答者の内訳は、1年生が1,181名、2年生が265名、3年生が65名、4年生が33名、その他が23名で、1年生が圧倒的に多いが、これは1.で述べた今年度の科目選定方針の当然の帰結である。

異文化コミュニケーション学部のアンケートの設問項目は以下の通りである：

I 学生の学習姿勢

- I1 この授業に積極的に参加した
- I2 この授業に関連して、授業以外に学習した時間（平均して、1週間に）

II 教員の授業改善に向けて

- II1 各回の授業内容は明確だった
- II2 教員の伝え方はわかりやすかった
- II3* この授業でよいと思った点がありますか（複数選択可）
- II4* II3の選択肢を選んだ理由、あるいはそれ以外でこの授業でよいと思った点があれば記入してください（自由記述）
- II5* この授業で改善すべきだと思った点がありますか（複数選択可）
- II6* II5の選択肢を選んだ理由、あるいはそれ以外でこの授業で改善すべき点があれば記入して下さい（自由記述）

III 学生が授業に期待するもの

- III1* この授業から得ることができたものがありますか（複数選択可）
- III2* III1以外でこの授業で得ることができたものがあれば記入してください（自由記述）
- III3 この授業を受けて満足した

回答者は、アステリスク（*）のついていない設問については5：大いにそう思う、4：そう思う、3：どちらともいえない、2：あまりそう思わない、1：そう思わない、という5つの選択肢から1つを選んで回答する（I2は授業以外の学習時間/週）。これらの設問への

回答結果を見ると、Ⅰ1の平均値が4.45、Ⅱ1が4.43、Ⅱ2が4.35、Ⅲ3が4.43となり、Ⅰ2については1.85（時間／週）となっている。

アスタリスク（*）のついた設問については、それぞれ①～⑥（Ⅲ1は①～⑤）の選択肢から選択し（複数選択可）、その理由やその他の良い点・改善点についてのコメントが求められている。Ⅱ3（よかった点）への回答（回答者1,533名）では、選択肢「①配付資料」・「③パワーポイント」を選択した学生が多く、それぞれ648名（41.4%）・724名（46.2%）であった。Ⅱ5（改善点）への回答（回答者1,355名）では、選択肢「⑥上記にあてはまるものがない」を選択した学生が最も多く（回答者1,335名中875名（55.8%））、それ以外では「①配付資料」を選択した学生が190名（12.1%）と多かった。Ⅲ1（得ることができたもの）への回答（回答者1,552名）では、「①自分にとって新しい考え方・発想」を選択した学生が1,026名（65.5%）と最も多く、「②授業で扱った分野に関する基本的な専門知識」・「④学問的興味」を選択した学生がそれに続き、それぞれ788名（50.3%）、651名（41.5%）であった。混沌とした世の中を生きていく上で重要と思われる選択肢「③自分で調べ考える姿勢」を選択した学生は521名で、Ⅲ1の全回答者の33.2%にとどまった。昨年の率（27.3%）に比べると若干増えたと言えるが、決して多い率とは言えない（ただし、今回選定された授業の多くが入門的・基礎的な科目であるために、「自分で調べ考える姿勢」を養うことよりも、基礎的な知識を学ぶことを重視しているためとも言えるだろう）。

履修者数（回答者数）との関係を見ると、すべての設問について、履修者が少ないクラスの方が、大きな差ではないにせよ、平均値が高い傾向が読み取れる。アスタリスク以外の設問で差が最も顕著なのがⅡ2「教員の伝え方は分かりやすかった」で、50名以下のクラスでは4.42、51～100名のクラスでは4.27、101～150名のクラスでは4.23という平均値になっている。

アスタリスクの設問では、Ⅱ3（よかった点）・Ⅱ5（改善点）・Ⅲ1（得ることができたもの）それぞれにおいて、選ばれた選択肢の順位に、履修者数による大きな差異はないが、Ⅲ1については、「①自分にとって新しい考え方・発想」が最も多く選ばれ、それに「②授業で扱った分野に関する基本的な専門知識」・「④学問的興味」・「③自分で調べ考える姿勢」・「⑤上記以外」が続く点は共通だが、50名以下のクラスと51名以上のクラスで、回答率に大きな差があるように思われる。例えば50名以下のクラスでは①を選択した回答者は58.9%であったのに対し、51～100名では76.4%、101～150名では75.1%であり、「③自分で調べ考える姿勢」は、50名以下のクラスが36.9%、51～100名クラスが37.7%、しかし101～150名クラスでは18.4%であった。

学年別の回答割合においては、選ばれた選択肢の順位に学年によって多少の差はあるが、Ⅱ3（よかった点）において「①配付資料」・「③パワーポイント」、Ⅱ5（改善点）において「①配付資料」・「⑥上記にあてはまるものがない」、Ⅲ1（得ることができたもの）において「①自分にとって新しい考え方・発想」・「②授業で扱った分野に関する基本的な専門知識」の回答率が高い点は共通している。

履修者（回答者）数・学年に関係なく、Ⅱ5（改善点）では「⑥上記にあてはまるものがない」の回答率が非常に高く（約55%～72%）、授業における配付資料・板書・パワーポイント・映像視覚教材・シラバス以外の要素で改善を望む学生が多いことを示している。Ⅱ6の自由記述には以下のようなものが含まれていた：

- 授業の速度が速すぎる
- 復習のためにもパワーポイントなどデジタル資料が欲しい、または事前に欲しい
(この要望が多い)
- (輪講科目) 教員によって授業内容・授業の質が異なる
- 教員だけが長時間話していると退屈・眠くなるのでグループワークやディスカッションを入れてほしい
- 資料配布や宿題提示の遅れ
- 学生がうるさくて集中できない
- ただスライドを読み上げているだけのような授業
- 外国人の学生は日本語でリアクションペーパーを書くのが難しい
- (基礎演習) 短時間でレポートやプレゼンを仕上げるのは難しい・準備時間の確保が難しい
- 明確な評価基準
- 授業の目的が分からない
- わかりやすく説明してほしい

3. 担当教員の所見に対するまとめ

今回アンケートが実施された 65 科目中、8 割の担当教員がアンケート結果に対して所見と、改善に向けた今後の方針を記入している (65 科目中、13 科目・20%が未記入)。

3-1 「授業評価に対する担当教員の所見」のまとめ

全般的に見て、授業に対して肯定的・好意的な評価が多く、そうした評価は教員の自信や励みになると思う。

しかし「各回の授業内容は明確だった」、「わかりやすかった」、「満足した」などの設問に、「③どちらともいえない」・「④あまりそう思わない」・「⑤そう思わない」を選択した学生のすべてがその理由を具体的に明記しているわけではないため、担当教員は彼らがなぜそのように思うのか、推測する以外に方法がない。そのため肯定的・好意的ではない評価で特に理由が明記されていないものについては、担当教員が所見でそうした評価に対する自身の考えを記述するのは難しいように思われる。

また、アンケートの自由記述のうち、輪講科目のように毎週担当教員が変わる科目や、「基礎演習」のように同じ名称の科目を同一シラバスに従って複数教員が担当するケースなどについて、学生からは教員によって授業の内容や質が異なることを不満に思う声があったが、こうしたコースについては教員側も難しさを感じている様子が見られる。

さらに、同一の担当者による同一の授業でも、履修する学生によって、あることに割く時間が「十分だった」という学生もあれば「不十分だった」という学生もおり、学生の声だけをもとに改善を考えようとすると、相反する要望にどのように対応すればよいのか分からず困惑する結果となる可能性もあるのではないかと思われる。

3-2 「改善に向けた今後の方針」のまとめ

上記の通り、アンケート実施科目の 8 割の担当教員が学生の評価や声に対応し、「改善に

向けた今後の方針」欄に対応策が記載されている。しかし学生の改善を求める声に具体性が欠けるために具体的にどのような対応を求められているのかがよく分からないケースや、学生によって相反する意見もあるため、一方の学生の要望に応えることが他方の学生の不満につながりかねないケースも見受けられる。

4. 今後の改善に向けて

2021年度、2022年度と、過去2年分の総評を改めて読んだところ、2021年度は設問Ⅲ1で「④学問的興味」を得られたという回答がやや低かったことから、異文化コミュニケーション学部の特徴の一つである「学際的な科目展開の強みをいかに発揮するか」という点、2022年度は「④学問的興味」の回答率は上昇したものの「③自分で調べ考える姿勢」の回答率が前年度に比べて13.8ポイントも下がっているため、「学生の主体性を重んじる学部教育を目指す異文化コミュニケーション学部としては、学生自身が自分で調べる力を育む機会をさらに設け、改善をしていく必要がある」という点が指摘され、両年度の総評共に、2024年度のカリキュラム改編・実施方針に活かしたいと結ばれている。

しかし、今回のアンケート対象科目の多くが入門科目・基礎科目であったため、本学部で学ぶ学生たちの「学問的興味」や「自分で調べ考える姿勢」の向上の如何は、反映されない状態となっている。今後、専門科目を対象としたアンケートを通して検証したい。

2023年度のアンケート結果が今後の改善にどのように役立つかは、選定された科目の担当教員にかかっていると思われるが、上記の通り、評価の理由を明記しない学生も多く（アンケートを記入する学生に、自由記述欄を積極的に活用し、良かった点・改善を求める点をより率直に、より具体的に書いてもらうことが、学生－教員間のより良いコミュニケーションにつながるのではないだろうか）、また、学生によって何を良い・悪いと評価するかが割れることもあるため、学生の評価や要望に一つ一つ対応して彼らの満足度を上げることを目指すことだけが「改善」のカギであるとも言えないだろう。学生の声に耳を傾ける一方で、教員自身が自分の授業を可能な限り他者の視線で顧みて、より良いものにしていこうとする姿勢も大切であろう。

また、些末なことではあるが、学生も、教員も、ウェブ上で入力することになったためか、タイポや変換ミスらしきものが見受けられる。特に教員の所見はそのまま冊子として印刷されてしまうため、入力・提出時に注意が必要かと思われる。

最後に、2022年度の授業評価アンケートの実施状況（回答率等）については、2023年5月25日の「『学生による授業評価アンケート』の実施状況（回答率等）に関する各学部等における共有依頼」を受け、2023年6月6日の第4回教授会において「回答率の低下に加えて教員による所見の執筆率も低い。所見の執筆と回答率のアップに関するグッド・プラクティスを参考に、今後協力いただきたい」旨が共有された。

4-8 グローバル・リベラルアーツ・プログラム運営センター

1. 科目選定方針とねらい

グローバル・リベラルアーツ・プログラム（以下、GLAP）では、演習系科目・夏季集中科目を除く GLAP の科目のほとんどについて授業評価アンケートの対象としている。今年度は 36 科目が対象であったが、GLAP はその規模の小ささから回答者数が 4 名以下の科目が多く、データ集計の対象となったのは 17 科目、延べ回答者数は 214 名となった。2022 年度の 12 科目、120 名に比べると科目数、回答者数ともに改善しており、2021 年度とほぼ同水準である。2022 年度にはコロナ禍により通常より遅れて留学をした学生が多く、また、1 年次の入学者数がやや少なかったことからクラスサイズがより小さくなった影響があると考えられたが、この事情が解消されたため従来水準に戻ったと思われる。

2. 集計データにみられる結果のまとめ

設問項目別の平均値では、各項目で学年によらず 4.3 前後という高い水準を前年までに引き続き維持しており、授業満足度が高く、学生が授業のねらいを概ね実現できていることを示している。授業以外に学習した時間は 2.17 時間と高い値を保っているが、2・3 年次で相対的に低くなっている点はやや気がかりである。

設問項目別回答割合をみると、全体としては教員の授業運営、特に教員と学生間のコミュニケーションは肯定的に受け止められており、授業に対する満足度も高いと考えられる。対面の授業に戻ったこともあり、パワーポイント、配付資料に関する評価が高い。

3. 担当教員の所見に対するまとめ

2022 年度には科目担当者から所見の記入をいただけなかったケースが半数あったが、2023 年度では集計対象となった 17 科目のうち 10 科目で所見を記入いただいた。記入いただけなかった科目は回答者数が少なく所見を付けることが困難であったものや、特に問題点等を見いだせなかったものと思われる。

3-1 「授業評価に対する担当教員の所見」のまとめ

提出いただいた所見では、多くの学生から寄せられた肯定的な意見や積極的な授業参加に感謝するコメントが多かった。授業内容をさらに明確にしていきたいとの所信も複数あった。

3-2 「改善に向けた今後の方針」のまとめ

これまでの努力を継続していきたいとする意見が多かったが、学生数が増えたことに対応して、group activity、discussion への参加により注力していきたいとの意見が複数あった。

4. 今後の改善に向けて

回答者数が 4 名以下となった科目が依然多いのは残念である。そもそも履修者数が少ない数科目についてはやむを得ないが、平均回答率は 64.3% と高めであることを考慮すれば履修人数が 10 名を超える科目では十分な回答人数を得るべく授業時間内での実施を促すリマインドを行う等の工夫が必要かもしれない。

Humanities、Citizenship、Business という 3 つの専攻分野ごとに科目履修のあり方に違いがみられるかという点が課題であったが、分野別の科目は実施 23 科目中集計対象となったのが 8 科目であり、分析にはいたらなかった。更に回答数を増やす努力が必要であると思われる。

学生の回答率や教員の所見執筆等の状況については 2022 年度分については 2023 年 5 月 22 日の GLAP 執行部会議で共有し、2023 年度分は 2024 年 6 月の GLAP の実務委員会において共有の上、改善方法について議論した。

4-9 観光学部

1. 科目選定方針とねらい

観光学部授業評価アンケート科目選定ルールと実際の選定手順を2023年4月25日開催の観光学部教授会において協議の上決定し、授業評価アンケート科目選定作業を実施した。
(選定ルール)

- (1) 原則として学部方針によって選定する2年間のうちに全教員1回1科目で実施する
- (2) 演習科目は対象としない
- (3) 複数教員担当科目は対象としない
- (4) 集中講義は対象としない

(選定手順)

- ①2022年度が3年に1回の1教員1科目実施年だったため、2021年度にアンケートを実施していない1科目を選定
- ②複数科目を担当している教員は、原則として過去2年間に実施していない科目を対象(ただし教員の希望により変更可とする)
- ③選定ルール上、演習系、実習系、集中科目、複数担当科目は実施対象外だが、希望があれば実施は可能

この選定ルールに基づき、授業評価アンケートを実施する科目の選定を行った結果、37科目(春学期19、秋学期18)で授業評価アンケートを実施した。

2. 集計データにみられる結果のまとめ

授業評価アンケートの回答率が観光学部は29.9%と全学平均(40.0%)に比べて低いものの、昨年度の23.7%よりは上昇した。全学(65.7%)または他学部と比べて、1年生の回答者割合(回答者総数の12.5%)が低いのは、1年生向けの学部科目が少ないこと、そして調査対象科目が2年生以上を対象とした科目を中心に選定されたことによるものであり、授業評価アンケートに対する学生の関心の低さを示すものではないと考えられる。なお、4年生回答者の割合が13.1%で全学の4.8%より高く、4年生も積極的に授業に参加していることが分かる。

設問項目別平均値において、「Ⅰ 学生の学習姿勢」と「Ⅱ 教員の授業改善に向けて」、「Ⅲ 学生が授業に期待するもの」の平均値はいずれも4.25を上回り、学生が自ら学ぶ姿勢を示し、授業内容が明確で分かりやすく、授業を受けて満足していることが反映されている。ただし、授業以外に学習した時間は平均値で1.29時間程度と少なかった。

「配付資料」や「パワーポイント」など授業を理解し復習するための教材に対する評価が高かった一方、「配付資料」に対する改善要望が他の項目に比べて依然高かった(14.9%)ことから、「配付資料」に対する学生からの期待は一定程度あることが分かる。授業改善要望が最も高いのは「上記にあてはまるものがない」の60.6%であるため、詳細が分かるようにアンケートの設問に工夫が求められている。授業から得られたものについて、「基本的な専門知識」と「新しい考え方・発想」がそれぞれ65.3%と54.0%と高い割合を占め、学生のニーズが読み取れる。特に、観光学科は「基本的な専門知識」(69.3%)、交流文化学科は「新しい考え方・発想」(59.1%)が最高値であり、学科によって学生の意識とニーズが異なることも把握できた。

授業規模で見た場合、50名以下の小規模授業と51～100名の間に、授業の分かりやすさや満足度には僅差が存在するものの、規模による大きな違いは確認できなかった。

授業内容の明確さと満足度について、大学での学びに慣れていない1年生の平均値が最も高いことから、教員の努力が見えている一方、2年生と3年生の回答者数が多いため、評価が分散していると理解できる。授業の評価ポイントについて、2年生と3年生は「配付資料」が最も高いが、1年生は「パワーポイント」が最高値であり、大学の学びに馴染み始める1年生には「映像視覚教材」が有効であることが分かった。

3. 担当教員の所見に対するまとめ

3-1 「授業評価に対する担当教員の所見」のまとめ

学生の肯定的な評価・意見に対する教員の所見としては、概ね教員が意図した授業展開ができたことで、学生の満足度を高められたというコメントが多かった。また、教員が意図していなかった科目で、授業を通じて発表などのスキルを学ぶことができたという感想があり、今後の授業実施方法検討の検討材料にしたいというコメントもあった。一方、学生の否定的な評価・意見に対する教員の所見としては、小レポートへの反応には差異が存在することや、学生の自主学習が不足していること、配付資料・映像資料への期待が強いこと、回答者が少ないこと、学生の関心点、具体例の充足化、リアクションペーパーの役割、などの点に気づくことができたというコメントが多く、今後の改善策に役立つと考えられる。また、自らノートを取り、授業内容を整理する受講姿勢を見せてほしいと、学生に期待する声もあった。

3-2 「改善に向けた今後の方針」のまとめ

配付資料に関する意見が多かったことについて、資料の内容とボリュームについて検討するというコメントが複数あった。関連分野の研究の最新動向や海外事例の紹介を通して、授業内容と資料を改善するというコメントもいくつかあった。また、シラバスは学生の履修選択に影響を与え授業評価にも関わるため、より正確に書くことが意識されている。

履修者数の多い授業では、学生間の交流を促し双方向の授業を展開することが課題となる。スライドの明るさやマイクの音量、板書の文字など教室の授業環境も学生の履修効果に関係するため、意識して改善するというコメントがあった。資料（スライド）のボリュームが多いという指摘については、適切に検討するという考えもあった。

履修者の基礎知識が均一ではないため学生全員のニーズに対応することは難しいが、一定の基準に基づいてより分かりやすく示すように心がけるといったコメントもあった。授業内課題の提出方法やフィードバックの方法について改善点が指摘され、今後可能な範囲で学生の要望に応じていきたいという意見があった。

大人数の授業では、配付資料の印刷に時間が掛かるため、準備時間が必要である。一部の授業では、履修者数の制限も必要ではないかとの提案もあった。

履修者に求めている授業時間外の予習・復習に関するコメントもいくつかあり、授業への参加意欲を上げるために、講義内容を補足する参考文献の講読をより充実させる等のアイデアも記載されていた。

法律に関する科目等では、専門分野に慣れていない履修者が多いため、適宜ゲストスピーカーを招いて実務とリンクさせながら、講義を進めるという提案もあった。

4. 今後の改善に向けて

授業評価アンケートに記載された評価や意見を参考に、授業内容のみならず授業方法や配付資料、教室環境の工夫まで見直すことを検討する教員の意見と意向が多く存在し、授業評価アンケートが授業改善に役立つと考えられる。とくに、履修者のレベルとニーズに合わせて内容を調整することが要点になる。配付資料については、印刷物とオンラインツールの使い分けが必要とされる。なお、授業改善要望では「上記にあてはまるものがない」を選択した学生が多いため、アンケート票作成にも工夫が求められている。依然として学生が自ら学ぶ姿勢の不十分さが窺えるコメントもあった。なお、回答率、所見執筆件数改善のため、2023年6月13日(火)の学部教授会で、授業評価アンケートの実施状況について共有した。

4-10 コミュニティ福祉学部

1. 科目選定方針とねらい

2023年度における科目選定方針は、以下の通りである。

- (1) 学部専任教員（助教含む）1科目以下の実施を原則とする
- (2) 資格科目を優先する
- (3) 演習科目は対象外とする
- (4) 昨年度実施科目を優先する

以上の結果、専任教員分27科目が授業評価アンケートの対象科目となり、最小回答人数（5人以上）を満たした25科目（春学期18科目、秋学期7科目）で実施された。

2. 集計データにみられる結果のまとめ

2-1 全体を通じて

回答率は48.3%であった。COVID-19の影響によりオンライン授業あるいはオンデマンド授業が取り入れられた2020年度より年々回答率が低下していた。2022年度に授業のほとんどが対面授業に戻ったにもかかわらず回答率は全学平均も下回る29.3%まで低下した。

この事態に対して危機感を感じ、授業評価アンケート結果をFDの中で共有するとともに、回答率が高くなるアンケート方法、実施時間等について案内した。さらに、授業評価アンケートが実施される1週間前にそうした取り組みを促すメールを配信し、教員側の努力を促した。その結果2023年度には48.3%と回答率が大幅に上昇した。

表1 年度別回答率

	2019	2020	2021	2022	2023
コミュニティ福祉学部	69.4%	53.5%	46.1%	29.3%	48.3%
全学平均	61.4%	45.8%	37.9%	34.2%	40.0%

さらに、履修者数と回答率についてまとめたところ、以下のようであった。

表2 専任教員担当授業回答率

履修者数	7	156	131	83	131	157	199	156	140	16	147	150
回答者数	5	110	95	36	14	124	127	11	99	10	13	18
%	71	71	73	43	11	79	64	7	71	63	9	12

履修者数	223	32	34	125	90	28	59	124	100	46	111	102	80
回答者数	111	23	15	63	71	21	28	48	62	23	73	29	46
%	50	72	44	50	79	75	47	39	62	50	66	28	58

履修者数が多い科目で回答率が低いという傾向もみられず、回答率が7%、9%、11%、12%と極端に回答率が低かった科目があり、全体の比率を大幅に下げていることが判明した。

今年度も引き続き、授業評価アンケート直前に教員の意識を高める働き掛けを実施したい。

2-2 項目別

I 学生の学習姿勢 II 教員の授業改善に向けて III 学生が授業に期待するものについては、学部全体として以下のことがいえる。

A. (I1)「I 学生の学習姿勢」のうち「この授業に積極的に参加した」は、4.36（前年 4.28）であり高い。

B. (I2)「この授業に関連して、授業以外に学習した時間（平均して、1週間に）」は 1.56 時間であった。長くこの項目では 1 時間を切る状況が続き、他学部と比較しても低位であったが、2020 年度以降オンライン授業になってから、教員の多くが授業外での課題を課したりしたこと、自宅等での学習時間が大幅に増加していたと考えられる。2023 年度に大幅に時間が増加したが原因は不明である。

表3 年度別・授業外学習時間

年度	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023
時間数	0.91	0.86	0.83	0.89	1.41	1.20	1.12	1.56

C. 「II 教員の授業改善に向けて」 () 内は前年度数値

(II2)「教員の伝え方はわかりやすかった」【4.26 (4.23)】

「III 学生が授業に期待するもの」(III3)「この授業を受けて満足した」【4.34 (4.32)】

については、前年度より微増ではあるが、高い数値を示し好評価を得ていた。

2-3 設問項目別回答割合 II 教員の授業改善に向けて

授業改善に向けての意見は、学科により差が出るものが多かった。

表4 II3 この授業でよいと思った点がありますか

	配付資料	板書	パワーポイント	視覚教材	シラバス
福祉	54.2	14.9	46.7	30.9	6.3
政策	73.3	12.0	27.8	22.5	5.7

表5 II5 この授業で改善すべきだと思った点がありますか

	配付資料	板書	パワーポイント	視覚教材	シラバス
福祉	12.1	6.6	5.5	3.3	1.3
政策	16.0	8.2	4.6	4.0	1.5

改善すべき点があると学生が考える点については、学科別にみても大きな差はなく、また低位であった。

表6 III1 この授業から得ることができたものはありますか

	新しい考え	基本的専門 知識	自分で調べ 考える姿勢	学問的興味
福祉	58.8	66.9	15.6	34.3
政策	59.2	62.3	18.7	35.6

3. 担当教員の所見に対するまとめ

教員の所見は、アンケートの内容を熟読し、真摯に受け止めている様子が伝わってくる内容が多かった。学生に対して回答への感謝を記したメッセージも多く、学生からの意見一つ一つに対して回答を書いている教員もいた。

改善点を指摘している評価や意見についても、自身の授業を振り返り指摘事項を真摯に受け止め、具体的に改善点を書いている教員も少なくなかった。

しかし一方で、担当教員の所見を書かない専任教員が25人中4人居たことは残念である。学生にアンケートの回答を書くことを求めるのであれば、教員側もその回答に対してコメントすることが求められる。長期的視点に立てば、毎年の授業評価アンケートを通じてその教員の授業への姿勢を公表することになっており、学生との相互作用の中で信頼関係を築いていくツールともいえるこのアンケートの意味を再度確認しておきたい。

4. 今後の改善に向けて

昨年度総評において、「『授業評価アンケート』の時期に、本総評の内容を改めて教授会等で確認する事により、各教員が学生の声を聴きたいという姿勢を学生に見せることによって回答率の上昇を目指したい。」とし、春学期および秋学期に実施される授業評価アンケート直前に、アンケート実施時間を授業内で設けて頂きたいなど具体的な依頼をした。その結果、回答率は上昇し、多くの科目で70%近くの学生がアンケートに回答してくれた。

一概に回答率が高いことのみを評価するわけではないが、提供する授業に対して率直な意見を聴く貴重な機会であることを鑑みて、今後も回答率を高めるよう学部として努力することは重要であろう。

4-1-1 現代心理学部

1. 科目選定方針とねらい

学部の専任教員が担当する「初年次教育科目」、「講義科目」及び「共通シラバスにより展開される一部の科目」を選定方針とし、19科目をその対象科目としたが、そのうち回答者が5名以上にならなかった科目が5科目あったため、実施したのは14科目であった（春学期4科目、秋学期10科目）。なお、原則として「演習科目」「実験科目」及び「複数教員担当科目」は実施対象外とした。

2. 集計データにみられる結果のまとめ

回答率

本学部の2023年度の回答率は32.5%であり、前年度の31.0%から僅かではあるが増加した。一方で、2023年度の全学の平均回答率が40.0%（22年度は34.2%）であったことを考慮すれば、依然低い水準であり、むしろ全学平均との差は広がった。各授業の担当教員から履修者へ向けて、アンケートへの回答を積極的に呼びかけるなど、回答率の改善に向けたさらなる取り組みが必要であるだろう。

I：学生の学習姿勢

「I1：この授業に積極的に参加した」の平均値は4.10であり、履修者の積極的な学習姿勢が反映されていると思われる。「I2：この授業に関連して、授業以外に学習した時間」は平均で1.12時間となっており前年度の値（1.01時間）からわずかに持ち直した。しかし、授業以外の学習時間が0という回答が全体の約三分の一を占めており、授業時間内での積極的な参加が必ずしも十分な学習時間の確保に結びついていない点が問題である。

II：教員の授業改善に向けて

「II1：各回の授業内容は明確だった」の回答平均値が4.22、「II2：教員の伝え方はわかりやすかった」の平均値が3.98と、ここ数年に得ていたいずれも4以上の評価からわずかに下がっている。ただし、2023年度アンケート実施科目数が比較的少なかったため、一科目のポイントの影響が大きく現れるので、これを学部の授業全体の傾向として理解してよいかは疑問である。各科目の評価を見るならば、現代心理学部の開講科目の担当教員が、学生の学習意欲を高める、質の高い授業を提供していることが理解できる。

III：学生が授業に期待するもの

「III3：この授業を受けて満足した」の回答平均値は4.12であり、前年度から引き続き、4を超える値となった。現代心理学部の開講科目が学生から比較的高い評価を得ていることの表れであると言える。概ね、学生たちは当該授業が目指すところを理解し、その目標を達成すべく取り組んでいるものと評価できる。

IV：学部等による設問

2023年度は、例年通り「IV1：この授業の受講者数は適切だった」と「IV2：この授業の設備・環境に満足している」の2つの問を設けた。いずれも平均で4を超える回答値（それぞれ4.40と4.37）であったことから、授業における学習環境についても学生のニーズを相応に充足しているものと考えられる。

学科別データ、学年別データ、授業規模別データ

学科別データでは、「Ⅲ1 この授業から得ることができたものがありますか」という設問に対して、心理学科では「授業で扱った分野に関する基本的な専門知識」が 82.8%で一位である一方、映像身体学科では「自分にとって新しい考え方・発想」が 70.8%で一位であることが目を引く。その他においては特筆すべき差はないように思われる。

3. 担当教員の所見に対するまとめ

3-1 「授業評価に対する担当教員の所見」のまとめ

学生からの評価は基本的には肯定的なものが多かったこともあり、担当教員も各自の授業が所期の目的を達成していることを実感している様子がうかがわれた。さらにそこに満足するのではなく、一層の努力への意思の表明も見られた。いずれにせよ、現代心理学部教員が、各自担当授業に関して創意工夫と熱意を持って取り組んでいることが理解できる。

3-2 「改善に向けた今後の方針」のまとめ

前項と関連して、授業運営上の取り組みにおける具体的な振り返りや、それを踏まえての改善案の提示がなされるケースが見られた。パワーポイント、板書等の改善の余地の検討や、授業内容の分割の仕方を改善し、より学生に伝わりやすくするなど、具体的な改善案が提案されている。また、授業評価アンケート回答率の低さに対する反省なども述べられていた。本学部の授業科目は概ね学生からの評価も高く、一定以上の水準を満たしていると思われるが、多くの教員がそうした現状に甘んじることなく、さらに質の高い授業の実現を目指しており、それぞれの担当教員がこうした姿勢を維持しつつ、充実した授業内容の提供を続けることが重要であると考えられる。

4. 今後の改善に向けて

本学部科目への学生の評価が総じて高いこと、担当教員の日頃の創意工夫や授業内容の改善についての高い意識が、そうした評価に繋がっているであろうことはすでに述べた通りである。そのような良好な状況を今後も維持することが重要である。

昨年度は 2023 年度に改善すべき点として、授業形態の多様性について検討する必要性を指摘していた。2023 年度は全学的に原則対面での授業実施となり、この点での対応はあまり進められなかったが、しょうがい学生支援の充実という意味でも、多様な学生の参加を促す授業形態の採用は喫緊の課題であるだろう。対面以外の形式による科目の設置を積極的に検討することで、多様な個性やキャリア志向を持つ学生に、柔軟性の高い授業履修の機会を提供することが可能になる。

担当教員それぞれの努力に加えて、多様な授業のあり方を模索し、また、それを可能にする人員（TA など）や設備を拡充することで、多様な学生の修学とキャリア形成に資する方法を検討していく必要があるだろう。

また、「学生による授業評価アンケート」の実施状況（回答率等）に関する各学部等における共有依頼（2023 年 5 月 25 日、教育改革推進会議）を受け、学生の回答率や教員の所見執筆等の状況については各学科に持ち帰り、学科会議にて各教員に共有された。

4-12 スポーツウエルネス学部

1. 科目選定方針とねらい

2023年度は、スポーツウエルネス学部の開設初年度であった。そのため、開講科目自体が少ない。

そのような中で、科目選定方針としては、以下の3項目が挙げられる。

1. 学部専任教員（助教含む）1科目以下の実施を原則とする。
2. 資格科目を優先する。
3. 演習科目は対象外とする。

上記の選定をした結果、本年度の「学生による授業評価アンケート」の対象科目数は12科目となっている。さらに、「最少回答人数（5名以上）の条件を満たした科目数を実施科目とする。」との全学の集計方針に照らし合わせると、本アンケートの実施科目数は11科目となる。

ねらいとしては、年次進行で選定科目が増加していく背景を前に、初年度における本学部の特徴を掴むことにある。昨年度のデータがないために、2022年度の「全学②」（全学共通カリキュラム運営センター・言語系科目を除く）のデータと比較する。その過程において、年度が異なるデータ同士を比較することから一定の制限が生じる恐れはあるものの、本学部の現状をある程度把握することができると思う。

2. 集計データにみられる結果のまとめ

まず、特記すべきことは、2023年度集計データにおける回答率の高さである（この項目のみ、2023年度のデータ同士を比較する）。全体で40.0%との回答率であるところ、63.7%という数字を挙げており、他学部等と比較しても、グローバル・リベラルアーツ・プログラムセンターの64.3%に次いで、2位の順位となっている。初年度であることから、ほんの僅かな上級学年生を除き、回答者のほとんどは1年生であるための結果であることも起因しているのではなからうか。来年度に向けて、この回答率の高さを保持できるように学部として検討していきたい。

次に、各質問項目への回答割合を5件法で整理した昨年度の「全学②」の結果と比較する。「Ⅱ3 この授業でよいと思った点がありますか」の回答のうち、「全学②」より数値が低いものは、「配付資料（授業のレジュメなど）（以下、配付資料）」（本学部41.8%、「全学②」57.3%）と「シラバス」（本学部6.4%、「全学②」6.6%）である。「シラバス」は僅差であるため、「配付資料」の本学部での低さに言及する。関連する質問項目としては、「パワーポイント」（本学部58.9%、「全学②」36.1%）と「動画等の映像視覚教材（オンライン授業そのものの動画ではありません）（以下、動画等）」（本学部42.3%、「全学②」26.0%）がある。このギャップとしては、優れた「パワーポイント」や「動画等」を授業内で使用することには肯定的な回答を得られた一方で、「配付資料」についての需要は依然として高いことがうかがえる。

また、「Ⅱ5 この授業で改善すべきだと思った点がありますか」の回答をみると、「シラバス」が「全学②」より数値が低いが、（本学部3.3%、全学②3.0%）、僅差のため、言及は控えることとする。

さらに、「Ⅲ1 この授業から得ることができたものはありますか」の中で、「全学②」より

得点が低いものは、「授業で扱った分野に関する基本的な専門知識」（本学部 48.2%、「全学②」 62.1%）、「学問的興味」（本学部 38.0%、「全学②」 41.0%）が挙げられる。特に、「授業で扱った分野に関する基本的な専門知識」の得点が低いことには、主たる回答者が 1 年生であるために、授業の内容が専門性の低い概論に近いものが多かったためとも読み取れる。しかし、1 年次の授業から専門知識を織り交ぜながら授業を進めることは可能であると考えられ、学部内でこの状況を共有し、初年次教育の在り方に関する議論も必要であろう。

3. 担当教員の所見票に対するまとめ

3-1 「授業評価に対する担当教員の所見」のまとめ

「満足」、「学生の興味関心が薄れず」、「大きな問題はない」といった記述がみられ、納得いく授業を展開できたことの証と捉えることができる。また、高評価が多い中でも、さらに授業内容をブラッシュアップさせ、各質問に対する言葉として「そう思う」ではなく「大いにそう思う」への回答が増えるようにしたい、との記述が多くみられる。さらに、「授業以外に学習した時間（平均して、1 週間に）」について「6.0」時間との応答を得た授業がある。担当者による工夫として、授業で取り扱った内容についての課題を履修者に与えたことが授業時間外の学習につながったのではないかと推測している。また、今後の課題に関する所見としては、授業中になされた SNS の活用についての記述が見られた。

3-2 「改善に向けた今後の方針」のまとめ

これまで論述してきた通り、各アンケート項目について良好な回答が得られている。そのため、大きな改善点などへの言及はないが、「改善すべき点は改善していきたい」、「毎回出している簡単な課題をもう少しだけ充実させる」といった記述が多数みられ、より具体的には、「今後は可動式机のあるような教室の選択」などといった、より一歩踏み込んだ応答もある。

4. 今後の改善に向けて

繰り返しとなるが、本年度が初年度となり、2022 年度のアンケート総評はない。また、授業が年次進行で選定科目が増加していくため、2023 年度の本アンケートの実施科目数は 11 科目に限られている。学生からは、おおむね良好な回答や応答が得られているが、選定科目が増加する来年度も、引き続き良い回答や応答が得られるよう FD 等を利用して、全教員でよりよい回答や応答を学生から得られるような工夫をする必要がある。そして、本年度の「学生による授業評価アンケート」でみられた回答率の高さは、是非とも来年度も引継げるようにしたい。

4-13 全学共通カリキュラム運営センター・総合系科目

1. 科目選定方針とねらい

2023年度の「全学共通カリキュラム運営センター・総合系科目」では、

- (1) 総合系科目「学びの精神」(FH)
- (2) 総合系科目「多彩な学び」の以下6カテゴリ
(①人間の探究 (FA)、②社会への視点 (FB)、③芸術・文化への招待 (FC)、
④心身への着目 (FD)、⑤自然の理解 (FE)、⑥知識の現場 (FV))
を対象に1教員1科目の実施とする。
また、これらに追加して
- (3) 「立教ゼミナール発展編」の全科目
- (4) F科目(導入)の全科目
- (5) 総合系科目「多彩な学び：⑥知識の現場 (FV)」におけるグローバル教育センターが
提供する全科目
を対象に、授業評価アンケートを実施した。実施合計は355科目であった。

2. 集計データにみられる結果のまとめ

全学共通科目・総合系科目の2021年度⇒2022年度⇒2023年度のアンケート実施科目の延べ履修者数の推移は、40,972名⇒41,044名⇒42,223名であり、回答者数の推移は、11,883名⇒12,307名⇒12,606名(1年次：6,433名、2年次：3,211名、3年次：1,719名、4年次：968名、その他：275名)であり、回答率の推移は、29.0%⇒30.0%⇒29.9%となっている。過去3年間、延べ履修者数及び回答者数には微増がみられるものの、回答率としてはほとんど変化がみられず約3割という状態が継続している。本アンケートに関しては、2020年度を境に回答者数の低迷、回答率の激減の傾向が継続してきたが、この傾向は、2023年度においても変化することなく依然として継続している状態にある。全学共通科目内の総合系科目と言語系科目を比較した場合に認められる履修者数と回答者数の関係(総合系にみられる履修者数の多さに比した回答者数の少なさ)および回答率の大きな差異(総合系にみられる回答率の低さ)は2023年度も認められる傾向となっている。Web方式によるアンケート実施が与える回答率への影響は、2020年度以降回答率低迷が継続し、2023年度も大きな変化がみられない状況を勘案すると依然として少なくないと推測される。

「学生の学習姿勢(I)」について、「この授業に積極的に参加した(I1)」に関しては、2021年度⇒2022年度⇒2023年度の平均値が4.24⇒4.28⇒4.31とわずかずつではあるが上昇の傾向を示しているが、「この授業に関連して、授業以外に学習した時間(平均して、1週間に)(I2)」に関しては、その平均値が1.32⇒1.14⇒1.20と2023年度は前年度からわずかな上昇にとどまり、一昨年度の水準にも回復していない。設問I2への回答者数(延べ5,925名)は、設問I1の回答者数(延べ12,546名)の約半数となっており、設問I2への非回答者が多く存在することは、明確に授業時間以外の学習時間数を「0」と回答した者(延べ2,198名)の他に授業時間以外の学習をほとんど行わない者が多く存在する可能性も示唆するため、授業時間及び授業時間以外の学習時間の適切なバランスによる授業運営に引き続き留意することは大切であろう。

「教員の授業改善に向けて(II)」について、「各回の授業内容は明確だった(II1)」の平

均値の 2021 年度⇒2022 年度⇒2023 年度の推移は、4.33⇒4.34⇒4.37 となっており、「教員の伝え方はわかりやすかった (Ⅱ2)」の平均値の推移は、4.24⇒4.24⇒4.26 となっており、好意的な評価の水準はわずかではあるが上向きに維持されている。「この授業でよいと思った点がありますか【複数回答可】(Ⅱ3)」について、上位から「①配付資料(授業のレジュメなど)」(53.3%)、「③パワーポイント」(41.7%)、「④動画等の映像視覚教材(オンライン授業そのものの動画ではありません)」(32.3%)の順となっており、この順位は 2022 年度と同様であり、回答割合もほとんど変わっていない。「この授業で改善すべきだと思った点がありますか【複数回答可】(Ⅱ5)」について、「①配付資料(授業のレジュメなど)」(15.3%)が最も多く、次いで「②板書(電子媒体のものを含む)」(6.9%)、「③パワーポイント」(6.7%)であった。配付資料(授業のレジュメなど)は「よいと思った点」でありながら「改善すべきだと思った点」ともなっており、学生にとっての授業の評価ポイントとなっていることが窺われる。他方で、動画等の映像視覚教材については、「よいと思った点」として好意的評価を得ている(32.3%)とともに「改善すべきだと思った点」としては具体例として示されている選択肢の中では最も少ない割合(3.4%)となっており、教材としての有効性が示唆されている。

「学生が授業に期待するもの(Ⅲ)」について、「この授業から得ることができたものがありますか【複数回答可】(Ⅲ1)」の回答において「⑤上記にあてはまるものがない」の割合は 2.4%にとどまっており、ほとんどの学生は「①自分にとって新しい考え方・発想」(64.1%)、「②授業で扱った分野に関する基本的な専門知識」(50.2%)、「④学問的興味」(43.1%)を得ることができたと回答している。他方、「③自分で調べる姿勢」の割合は、上記に比べると低い割合にとどまっている(19.4%)。これらの傾向は 2022 年度と変わっていない。これらを踏まえた上で「この授業を受けて満足した(Ⅲ3)」の平均値の 2021 年度⇒2022 年度⇒2023 年度の推移は、4.29⇒4.29⇒4.30 であり、過年度とほとんど変化のない満足度となっている。

「学部等による設問(Ⅳ)」について、「この授業の教室の大きさは適切だった(Ⅳ1)」「この授業の受講者数は適切だった(Ⅳ2)」「この授業の行われた教室の環境や設備は十分だった(大きさの観点を除く)(Ⅳ3)」の設問は、2021 年度のオンライン授業環境下において授業評価アンケートの設問項目から外されていたため、過去 3 年間の推移を踏まえた比較はできない。2022 年度と単純に比較した場合、「この授業の教室の大きさは適切だった(Ⅳ1)」4.14⇒4.21、「この授業の受講者数は適切だった(Ⅳ2)」4.18⇒4.24、「この授業の行われた教室の環境や設備は十分だった(大きさの観点を除く)(Ⅳ3)」4.24⇒4.32、といずれの設問についても若干のポイントの増加がみられた。参考まで、これらの設問について授業評価アンケートの設問項目から外される前の 2019 年度の平均値は、「この授業の教室の大きさは適切だった(Ⅳ1)」4.24、「この授業の受講者数は適切だった(Ⅳ2)」4.25、「この授業の行われた教室の環境や設備は十分だった(大きさの観点を除く)(Ⅳ3)」4.28 であった。この間の微妙な数値の変化には、2020 年度及び 2021 年度のオンライン授業環境を経た上で対面授業の再開とその定着という授業環境の様々な変化や近年の全学的課題としての教室逼迫問題など、教室等授業環境に関する様々な要因が複合的に影響を与えているものと推察される。総合系科目のうち「学びの精神」科目のみを対象として設けられた 2 つの項目については、「この授業を通して高校と大学の学びの違いを感じた(Ⅳ4)」の平均値の 2021 年

度⇒2022年度⇒2023年度の推移は、4.32⇒4.29⇒4.38となっており、また、「この授業を通して大学の授業を受ける心構えができた(IV5)」の平均値の推移は、4.04⇒4.06⇒4.15となっている。「この授業を通して高校と大学の学びの違いを感じた(IV4)」については、2022年度にそれまでに見られた数値の上昇傾向からわずかな後退が見られたが、2023年度には回復し、過年度の上昇傾向が維持された。「この授業を通して大学の授業を受ける心構えができた(IV5)」については、着実な上昇が見られた。これらの傾向からは、「学びの精神」科目の目標に向けた各授業の効果の現れが窺われる。また、2023年度から「F科目」のみを対象としてとして設けられた項目「この授業を通して英語に対する抵抗感が和らいだ(IV6)」の平均値は4.02であった。この項目の今後の推移を見ていきたい。

「学科等別」の分類集計結果については、全学共通科目・総合系科目に設定されている7つのカテゴリのうち「多彩な学び6(知識の現場)」が全ての設問項目においてそれぞれ最も高い平均値を示している。このような傾向はすでに例年通りの傾向として定着しているが、2023年度も同様の結果となった。「多彩な学び6(知識の現場)」に関しては、特に「この授業に関連して、授業以外に学習した時間(平均して、1週間に)(I2)」の平均値(平均時間数)が、他のカテゴリの平均値を大幅に上回っていることが注目される。他の6カテゴリではいずれも1時間前後であるのに対し、「多彩な学び6(知識の現場)」では4.27時間となっている。このような傾向は2022年度にも見られたが、2023年度は平均時間数がさらに伸び、2022年度の3.86時間から0.41時間増加している。この他「多彩な学び6(知識の現場)」については、「この授業に積極的に参加した(I1)」「教員の伝え方はわかりやすかった(II2)」「この授業の教室の大きさは適切だった(IV1)」「この授業の受講者数は適切だった(IV2)」の各設問において他のカテゴリの平均値よりも高めの平均値が現れている。「多彩な学び6(知識の現場)」以外のカテゴリに関しては、「多彩な学び2(社会への視点)」の設問I1およびI2、「多彩な学び4(心身への着目)」の設問II1、II2、III3、IV1、IV2、IV3において若干の平均値の高さが認められる。

「授業規模別」の分類集計結果について、2023年度の授業評価アンケートにおいて、対象科目のうち「151名以上」に該当する科目は1科目のみであったことから、集計結果からは除外されている。その上で「50名以下」「51～100名」「101～150名」それぞれの授業規模で見ると、規模別での著しい差は見られないものの、「50名以下」の科目が全ての設問項目において最も高い平均値を示している。数値上、授業規模と授業に対する好意的な評価の関連性を示す結果とはなっているが、授業規模に応じた授業の工夫は各授業担当者が柔軟に様々な努力を重ねているところである。このことは、「この授業でよいと思った点がありますか【複数選択可】(II3)」において、「50名以下」の科目では「①配付資料(授業のレジュメなど)」「②板書」の平均値が高めである一方、「101～150名」の科目では「③パワーポイント」「④動画等の映像視覚教材(オンライン授業そのものの動画ではありません)」の平均値が高めであること、反対に「この授業で改善すべきだと思った点がありますか【複数回答可】(II5)」において、「50名以下」の科目では「③パワーポイント」の平均値が高めである一方、「101～150名」の科目では「①配付資料(授業のレジュメなど)」「②板書」の平均値が高めであることなどから、授業規模に応じた教材使用のあり方が一定の効果と受講生からの期待を生んでいる状況を理解することができる。

「学年別」の分類集計結果に関しては、学年別の著しい差は認められないものの、「4年」

の「各回の授業内容は明確だった（Ⅱ1）」「教員の伝え方はわかりやすかった（Ⅱ2）」「この授業を受けて満足した（Ⅲ3）」の平均値はいずれも他学年をわずかではあるが上回っており、学年進行に伴って授業の理解度が深まり、満足度も高まっている傾向が示唆される。授業の満足度に関しては、「この授業から得ることができたものはありますか【複数回答可】（Ⅲ1）」の「②授業で扱った分野に関する基本的な専門知識」「③自分で調べ考える姿勢」「④学問的興味」において、いずれも「4年」の平均値が最も高く、このことを一定程度裏付けている。「4年」と「1年」の対照的な傾向は、「この授業でよいと思った点はありますか【複数選択可】（Ⅱ3）」および「この授業で改善すべきだと思った点はありますか【複数回答可】（Ⅱ5）」にもある程度現れている。Ⅱ3の選択肢「①配付資料」「⑤シラバス」において「4年」の平均値が高いのに対し、「②板書」「④動画等の映像視覚教材（オンライン授業そのものの動画ではありません）」では「1年」の平均値が高くなっている。Ⅱ5では、「①配付資料」「④動画等の映像視覚教材（オンライン授業そのものの動画ではありません）」において「4年」の平均値が高いのに対し、「②板書」「③パワーポイント」では「1年」の平均値が高い。

全学共通科目・総合系科目における2022年度からの「F科目」（外国語による総合系科目）の大幅な増設を受けて、2022年度当該科目の中から「学びの精神」3科目、「多彩な学び1～5」24科目、合計27科目において「学生による授業評価アンケート」が実施された。これを踏まえて2023年度についても「学びの精神」6科目、「多彩な学び1～5」35科目、合計41科目においてアンケートが実施された。「学びの精神」科目に関しては、「学生の学習姿勢（Ⅰ）」のⅠ1およびⅠ2、「教員の授業改善に向けて（Ⅱ）」のⅡ2、「学生が授業に期待するもの（Ⅲ）」のⅢ3、「学部等による設問（Ⅳ）」のⅣ1およびⅣ2の全てにおいて、総合系科目全体および「学びの精神」科目全体それぞれの平均値よりも高い平均値が示されている。また、「F科目・学びの精神」の2022年度の平均値との比較において、ほとんどの設問項目で平均値が上昇傾向を示している。「多彩な学び1～5」科目に関しては、全ての設問項目（Ⅰ1、Ⅰ2、Ⅱ1、Ⅱ2、Ⅲ3、Ⅳ1、Ⅳ2、Ⅳ3）について総合科目全体の平均値より高い平均値が示され、「多彩な科目1～5」科目全体の平均値との比較においてもⅠ1、Ⅰ2、Ⅱ2、Ⅳ1、Ⅳ2、Ⅳ3でより高い平均値が示されている。「多彩な科目1～5」科目全体の平均値を下回った設問項目についてもその差はわずかにとどまっている。一方、2022年度との比較においては、Ⅳ1およびⅣ2以外の設問項目で平均値は若干の減少が見られるが、今後の推移を踏まえた上での分析が必要であろう。「F科目」については、総じて言えば総合系科目全体の中でその平均値を超える好意的な評価が得られており、総合系科目の新たな取り組みとして関係者の努力に支えられながら着実に展開しつつあることが窺える。

3. 各カテゴリの総評

3-1 学びの精神（FH）

8年目を迎えた1年次生対象の「学びの精神（FH）」は、大学での学びのスキルを身に付け、主体的に学ぶ姿勢を養い、立教生として居場所感を醸成することを目的としている。2023年度は2022年度とほぼ同じ99科目で実施することができた。ただし、昨年度と同様に、どの科目においても回答率は総じて低い傾向にあり、全学生の意向を反映できているかどうかはわからない。

「この授業に関連して、授業以外に学習した時間（平均して、1週間に）（Ⅰ2）」は、初年度の2016年度は0.68時間と少なく、学びの精神の趣旨が徹底されていないのではないかと懸念されたが、2017年度の0.75時間、2018年度の0.78時間、2019年度の0.84時間、2020年度の1.32時間と増加。その後2021年度は1.29時間、2022年度は1.11時間と微減を続けたが、2023年度は1.19時間と前年度より増加した。2021年度を上回ることはいできていないが、授業時間外での学習が一定程度は行われたことが確認できる。「授業改善に向けて（Ⅱ）」のうち、「各回の授業内容は明確だった（Ⅱ1）」が4.28、「教員の伝え方はわかりやすかった（Ⅱ2）」が4.16となっており、どちらも「多彩な学び1～5」と比べて低い数値となっているが、2022年度よりはわずかに高い数値となっている。教員は配付資料の字の大きさやグラフ、表を使うなど教材に工夫を凝らしており、またパワーポイント、映像資料や音声の視聴を利用したことなどは、いずれも高い評価を受けている。また各教員が話す速度を調整する必要性を感じて努力し、授業の分量についても模索を続けていることが所見票から伝わってくる。

「学生が授業に期待するもの（Ⅲ）」については、「この授業を受けて満足した（Ⅲ3）」が4.20となっており、2021年度の4.11や2022年度の4.15と比べると高い数値になっている。大学での学びの導入となる科目として一定の評価を受けていると思われる。また「この授業から得ることができたもの（Ⅲ1）」では「①自分にとって新しい考え方・発想」が63.0で、「多彩な学び1～5」の平均62.7とほぼ同じであり、また「③自分で調べ考える姿勢」が18.3と2022年度の17.2よりも高くなっており、「多彩な学び1～5」の数値と比べて遜色はなく、「学びの精神」科目が一定程度は有効に機能していることを感じさせる。

「この授業を通して高校と大学の学びの違いを感じた（Ⅳ4）」については4.38と2022年度の4.29よりも高い評価を受けていて、また「この授業を通して大学の授業を受ける心構えができた（Ⅳ5）」についても4.15と、2022年度の4.06よりも高くなっている。ここからは、例年の傾向と同じように、2023年度も、高校との学びの違いは分かったが、大学で学ぶ心構えができたと言えないと感じている学生が多いことを示している。「学びの精神」を履修した1年次生が、2年次以降に自信をもって大学での学びを実践できるようになることを期待したい。

F科目（導入）を対象とした「この授業を通して英語に対する抵抗感が和らいだ（Ⅳ6）」についてアンケートを初めて集計したところ、3.61となっており、それほど高い結果ではなかった。F科目（導入）は入門科目としての機能は果たしていると考えられるが、英語のみで行われる授業（F科目中級・上級）へのさらなる履修に順調につながっているわけではないことが読み取れる。

3-2 多彩な学び

1) 人間の探究 (FA)

「人間の探究 (FA)」として配置されている54科目のうち、授業評価アンケートの回答率が5割を超えた科目は2割にとどまっており、低い水準であると考えられる。ただし集計結果のまとめからわかるように、回答者に限っては、少なくともその意欲は「この授業に積極的に参加した（Ⅰ1）」にも見られるように高く、各項目とも低くない。「教員の授業改善に向けて（Ⅱ）」の項目に関しても、授業内容の明確さ（Ⅱ1）においては0.06ポイント

と微増ではあるが、前年度よりも上回っており、教員の伝え方（Ⅱ2）に関しても、前年度の水準を維持している。授業の満足度（Ⅲ3）に関しては、前年度から横ばいである。

担当教員の所見が記入されていないケースは28%と昨年度の21%を上回っている。担当者の所見が記入されていないケースのうち8割が、回答率5割未満の科目である。単純集計を通覧してのみの過剰解釈は避けるべきだが、示唆的な結果とは思われる。他方、所見が記入されている科目に関しては、大半の担当教員がアンケート結果を真摯に受け止めており、授業改善への意欲的コメントが占めていることも付記しておきたい。

全コメントのうち5%が講義内容との関連で所見をまとめているが、数字のとおり、全体としては少ない（2022年度は14%であった）。他方、教授技術／方法の問題としてコメントしている報告は全体の22%にのぼっている。

2) 社会への視点 (FB)

「社会への視点 (FB)」は計66科目に対してアンケートが行われ、回答者数も1,594人と他のカテゴリと比べて相対的に多かった。点数評価の結果を見ると、多くの項目が総合系科目の平均値と同等かそれを超える傾向にあり、下回る項目は限られていた。「各回の授業内容は明確だった (Ⅱ1)」「教員の伝え方はわかりやすかった (Ⅱ2)」「この授業を受けて満足した (Ⅲ3)」といずれも高かった。関連項目の「この授業でよいと思った点はありますか (Ⅱ3)」においては、総合系科目の平均値と比べて「③パワーポイント」「⑤シラバス」の評価が高く、これらの点が、授業内容の明確さを担保していると考えられる。ただし、改善すべきものと思ったものでは、「④動画等の映像視覚教材」が相対的に多数指摘されており、授業の内容との関係の精査が必要としても改善が期待される。関連項目の「この授業から得ることができたものはありますか (Ⅲ1)」を見ると、総合系科目の平均値と比べて「①自分にとって新しい考え方・発想」「②授業で扱った分野に関する基本的な専門知識」はやや高く、「③自分で調べ考える姿勢」ではとくに高くなっている。ただし、「④学問的興味」は例年同様低いままであった。「社会への視点」というカテゴリの性格とあわせて、継続して傾向を注視していく必要がある。

所見票については、科目担当者の記述から、これまでの経験の蓄積が十分にいかされ、改善の試みがなされていることが見て取れる。とりわけ、対面に戻った多くの授業において、不慣れな学生の学習意欲を高めるための伝え方の工夫を考えるなど様々な試みが施行されていることが確認された。他方、出席学生数があらかじめの想定に反し工夫を強いられたケースや、Zoom等、多様なメディア機器が増加したことで、授業運営が複雑化しているケースも散見された。こうした問題は、個々の担当者のみならず、学校全体の問題として今後取り組んでいかなければならない課題といえる。

3) 芸術・文化への招待 (FC)

「芸術・文化への招待 (FC)」の全科目44科目のうち、授業評価アンケートの回答率が5割を超えた科目は昨年同様43%であり、さほど低い水準とは言えないだろう。また、集計結果のまとめからわかるように、回答者に限っては少なくともその意欲は「この授業に積極的に参加した (Ⅰ1)」にも見られるように昨年同様4.32と高く、「この授業を受けて満足した (Ⅲ3)」の項目に見られる満足度も4.37と高い。

担当者による所見がないケースについてだが、担当教員の所見が記入されていないケースは16%と昨年の18%から微減している。授業評価アンケートの回答率とは無関係であることも、単純集計の結果からではあるもののほぼ間違いない。担当教員による所見が記入されているケースにおいては、大半の担当教員がアンケート結果を意味あるものとして位置づけており、積極的に授業改善に役立てようとしてくださっていることが伝わってくる点は評価されて良いと思う。とくに所見のうち「改善に向けた今後の方針」を見ていくと、学生からの授業評価が多岐にわたっていることを思い知らされる。ただし、評価の受け止め方は、授業内容と絡めないまま処理するケース、すなわち講義技術論／方法論レベルでの受け止めに終始するケースが36%を占めている（授業内容と絡めた改善に言及するケースは1割にとどまる）。所見から垣間見るレベルでいうと、いわゆるアクティブ・ラーニングないしはワークショップ形式を採用した授業は多くない印象である。

4) 心身への着目 (FD)

「心身への着目 (FD)」は29科目でアンケートが実施され、2023年度の回答者数は1,162名であった。2022年度は科目数が29科目で1,379名の回答者数だったことから、アンケート回答者数は15.74%減少した。

「学生の学習姿勢 (I)」に関しては、他カテゴリと比較して概ね平均的なスコアであった。「教員の授業改善に向けて (II)」、「学生が授業に期待するもの (III)」、「学部等による設問 (IV)」に関しては、「多彩-6」に次いで高い評価を得る結果となり、「この授業を通して英語に対する抵抗感が和らいだ (IV6)」は、全カテゴリ中最も高いスコアであった。

一方、「この授業で改善すべきだと思った点がありますか (II5)」の④「動画等の映像視覚教材」は、他カテゴリが2~3ポイント台であったのに対し、4.0ポイントと、若干高かったため、来年度も注視すべき項目と思われる。

アンケートの自由記述は概ねポジティブな意見が多く、特によく見られたコメントとしては、「イラストや動画を使用したスライドが見やすかった」、「心理テストなどによって自分を知る機会になった」などがあつた。

評価に対する担当教員の所見票を見ると、配付資料の内容、授業の展開スピード、テストの回数などに関する具体的な改善のコメントが多く見受けられ、履修者に対するわかりやすさの向上や、負担軽減に関して、真摯に耳を傾けていることが見受けられた。

5) 自然への理解 (FE)

「自然への理解 (FE)」では32科目でアンケートが実施され、1,331名の回答があつた。

「学生の学習姿勢 (I)」の「この授業に積極的に参加した (I1)」の項目と「この授業に関連して、授業以外に学習した時間 (平均して、1週間に) (I2)」の項目は、それぞれ4.25、0.83時間であり、昨年度の4.22、0.74時間と比較すると微増ではあるが「多彩な学び」の他のカテゴリと比較して少なく、学生の自発的な学習につながっていないと考えられる。加えて「教員の授業改善に向けて (II)」の「各回の授業内容は明確だった (II1)」と「教員の伝え方はわかりやすかった (II2)」および「学生が授業に期待するもの (III)」の「この授業を受けて満足した (III3)」は昨年度と比較して微減であり、これらも他のカテゴリと比較して低水準となっている。さらに「この授業から得ることができたものはありません

か(Ⅲ1)」の項目中「①自分にとって新しい考え方・発想」は51.6%であり、「多彩な学び」のカテゴリ中で最も低い値である。

一方で「この授業でよいと思った点がありますか(Ⅱ3)」の項目は平均値程度であり、その中で「③パワーポイント」が高く、また「この授業から得ることができたものがありますか(Ⅲ1)」項目の「④学問的興味」が「多彩な学び」のカテゴリの中で2番目に高い。

以上のことから教員が講義内で工夫していること、学生の興味自体は高いが、それが学習や理解につながっていないことが読み取れる。これは自然科学科目における授業展開の難しさを示唆しているように思われる。実際、担当教員の所見では「グループ討論や議論の場を設けることで効果」「専門知識がなくても分かるよう工夫」「専門用語ばかり使わず、分かりやすい言葉に直して解説」のように興味を引く努力は学生にも認められている一方、「理系の知識がない学生には難易度が少し高い」「講義内容のレベルを下げる必要があると考えるが、あまり下げ過ぎると本質的なことが伝わらなくなる」「難しい内容については、よい評価と悪い評価に分かれる」等、内容のバランスについては各教員が苦慮している様子が窺える。

なお担当教員の所見が記入されていないケースが25%にのぼっている。そのうち数件は回答率が1割に満たない科目であり、所見が書きづらい状況であったかもしれない。

6) 知識の現場 (FV)

総合系科目の平均値に比べて、各項目の評価は2022年度同様に非常に高い。ほとんどの授業が定員を設けた少人数科目で、学習意欲の高い学生が集まっていることを割り引いても、授業以外での学習時間(I2)は4.27時間、授業満足度(Ⅲ3)は4.73、と極めて良好な結果となっている。また「この授業から得ることができたもの(Ⅲ1)」では、「①自分にとって新しい考え方・発想」が91.5、「③自分で調べ考える姿勢」が56.3と、いずれも「多彩な学び1~5」を大きく上回る数値となっている。

特にGLP科目は、授業以外の学習時間が群を抜いて高いことから、学生負担の大きい科目であることが読み取れる。その一方で、そういった学生たちの努力に対して、科目担当者がしっかり応答していることが所見票から伝わってくる。学生と教員が双方向で積極的にかかわり、良好に運営されていることから、満足度も大変高いことが総合評価から読み取れる。

4. 今後の改善に向けて

集計データから見られる総合系科目の全般的な評価は、少しずつではあるが過年度までの上昇傾向の推移の水準を2023年度も維持し、全体的に受講者からの好意的な評価が引き続き得られている状況と言えよう。全体として見る限り、全ての設問項目(時間数を尋ねるI2を除く)で平均値は「4(そう思う)」を超える数値となっており、肯定的すなわち好意的な評価となっており、一定の水準は達成されている状況にはある。このような状況の下で今後さらなる改善を行って行く場合、個々の授業科目の特性や事情を踏まえつつ、これまですでに各授業担当者が積み重ねてきた努力に加えて、さらなるきめ細やかな対応や工夫の努力が求められてくると思われる。例えば、「動画等の映像視覚教材」は、多くの科目で導入され授業の効果を高め、一定の授業の評価ポイントとなっていると同時に、アンケートで

は授業の改善すべき点としても挙げられており、受講生からの期待も高い教材となっている。その意味では、今後の授業改善へ向けたさらなるきめ細やかな対応や工夫のためにも「授業評価アンケート」の回答率低迷の解決は、今後の授業改善への第一歩としてさらに重要性をもつと言えるだろう。アンケート実施方法の再検討も含め、回答率向上は2023年度においても依然として重要な課題として指摘しておかなければならない。なお、学生の回答率や教員の所見執筆等の状況については2023年6月5日の全学共通カリキュラム運営センターコア会議で報告をしている。

4-14 全学共通カリキュラム運営センター・言語系科目

1. 科目選定方針とねらい

全学共通科目・言語系科目については、必修科目は原則として全科目で実施した。ただし、連続性のある科目（例：「～語基礎 1・2」「上級英語 1・2」）を同一教員が春学期・秋学期担当する場合は、秋学期のみ実施とした。）自由科目は1教員少なくとも1科目実施とし、池袋・新座両キャンパスの科目を担当している者については、①履修者8名以上、②新座開講科目の順序で実施科目を選定した。なお、新カリキュラムの先行実施科目は全クラスで実施した。

2. 集計データにみられる結果のまとめ

2023年度の全学共通科目・言語系科目のアンケート対象科目数は1,763（春学期847、秋学期916）、そのうち回答者5名以上のアンケート実施科目数は1,391（春学期700、秋学期691）であった。アンケート実施科目の延べ履修者は29,530人で、うち回答者数は21,323人、回答率は72.2%であった。前年度よりも「回答率」は増加した。「学生による授業評価アンケート」の実施状況（回答率等）に関する各学部等における共有依頼（2023年5月25日、教育改革推進会議）を受け、各言語教育研究室の担当者連絡会などを通して学生の回答率を共有し、授業内でのアンケート実施を各言語教育研究室から各科目担当者に（大教センターとは別に改めて）依頼することで、言語系科目ではこの数年回答率が上がっている。

「設問項目別平均値」を見ると、全学共通科目・言語系科目の授業や教員の授業運営に対する評価の高さがよくわかる。「I 学生の学習姿勢」は、授業への参加度は高いものの授業外学習時間は、例年同様に低い。「この授業を通して向上した能力」について、言語A（英語）ではインプットよりもアウトプット力が伸びたとの回答が多い傾向が見られる。一方言語B（初習言語）では「読む」「書く」能力の大きな向上に対し、「聞く」「話す」能力の向上は低調である。言語A・Bともに新カリキュラムにおいては、履修者に授業外学習時間をこれまで以上に設けさせるよう促し、その仕組みづくりをすることで、一層の言語能力向上が望めるのではないかと期待される。FD活動を通して、科目担当者の理解をより深めることも期待される。

3. 各研究室総評

<英語教育研究室>

3-1 「授業評価に対する担当教員の所見」のまとめ

学生のコメントの多くが、教員の授業のわかりやすさ、明確な課題の指示、学習のモチベーションが上がる事を高く評価していた。授業のわかりやすさ、課題の明確さという部分においては、視覚教材の効果が大きく、学生が授業の進行についていくための大きな助けになっていることがわかった。モチベーションに関しては、授業におけるクイズ問題や動画の使用、グループワークやペアワークによる学生同士の交流が、学生にとっては楽しくモチベーションが上がったと書かれていた。これらの学生のコメントに対し教員は、今後の授業運営の参考にし、さらに充実した授業を提供したいと述べている。

3-2 「改善に向けた今後の方針」のまとめ

学生のコメントに、課題の量についての記述がいくつか見られた。特にライティング課題の量が教員によって差がある事が指摘されていた。それに対して教員は、課題量に関して見直すとともに、課題を出す時にやり方をもっと丁寧に説明し、学生の課題遂行時の負担を減らしたいと述べている。また学生のコメントには、課題の提示方法についての記述も多く見られた。それに対して教員は、Canvas LMS への課題の掲示は、授業を休んだ学生にとっても大変重要であることから、いつでも学生が課題を確認できるように、Canvas LMS への課題の掲載を徹底したいと述べている。

<ドイツ語教育研究室>

3-1 「授業評価に対する担当教員の所見」のまとめ

必修科目においては研究室が作成した教科書の補助となるパワーポイント資料、担当教員がオリジナルで作成したレジュメなどの配付資料、板書などの評価はおおむね高かった。教員の説明の分かりやすさ、学生からの質問への誠意ある対応など、教員と学生の良好な関係が垣間見られた。

昨年度に比べると必修科目で発音練習、発話を伴うワークなどがコロナ前の状況に戻りつつあり、学生が積極的に参加していた様子がうかがえる。自由科目においてはドイツ語を使ったペアワーク、グループディスカッションなどが好評だったようである。また、視聴覚資料などを上手に活用し、ドイツ語圏の文化、映画、音楽などを授業に取り入れているクラスが多かった。今後も地域事情や歴史・文化的な事柄を折に触れて紹介し、多くの学生にドイツ語とドイツ語圏の持つ魅力を伝える授業を展開していきたい。

3-2 「改善に向けた今後の方針」のまとめ

今年度の結果を全般的に見ると、比較的高い評価で終えることができた。その中でも改善に向けた今後の方針をまとめるにあたり、「試験問題にリスニングが出題されるが、授業中で練習する機会が少ない」という指摘を取り上げたい。研究室としては日々の学習を通して自然にリスニング能力がつくことを見込んでいるが、コロナ禍からの流れもあり、発音練習の頻度が低いクラスの場合、結果として聴解能力も学生自身が思うように向上しなかった可能性も考えられる。なお、リスニングのみにとどまらず、クラス間での指導のばらつきについても指摘されていたため、今後、より担当教員と対話を重ねることによって、授業の質を改善できる策を講じていきたい。教科書だけを扱う、あるいは教科書と同じ内容が投影されるパワーポイント資料をただ解説するという形式の授業は昨年度に比べ減少していると予想される。しかし、教員によっては授業内で使った資料などをどの程度 LMS で学生に共有していいのかという知識が乏しいケースが見られたため、研究室から改めて全体に向けたアナウンスをする必要がある。

最後に必修科目から自由科目への継続学習率の向上も、重要な課題と認識している。特に必修科目の段階で、今の学生にとって魅力的なドイツ語授業の形を模索することが重要であろう。継続して学ぼうという意欲のある学生に対しても、安定して良質の授業を提供するために自由科目の授業内容を精査しながら、学生のニーズに応えられる形を目指す。そのためにも日頃から教員間でのコミュニケーションを深めつつ、気軽に情報交換ができる場を、

担当者連絡会などで設けるよう心がけたい。

<フランス語教育研究室>

3-1 「授業評価に対する担当教員の所見」のまとめ

フランス語による直接教授法に戸惑う履修者が多かったため、事前の説明や質問のプリントを作成し、配付するなどの対策を講じたとの言及がみられた。また、フランス語の筆記体など板書が見づらいたとする履修者からの指摘に対して、パワーポイントの準備だけでなく板書への工夫を心掛け、フィードバックをより丁寧に行っていきたいとする所見が多かった。毎週小テストを実施した担当教員からは「履修者には負担だったと思うが、効果につながったとするアンケート結果から、フランス語力の向上に有効だった」とする所見があった。定着度を適宜確認してゆくようなカリキュラムを今後も続けていきたい。授業進度について、クラスによっては難易度の高い文法事項を扱う課で、予定通りに進まなかったこともあったようなので、来年度の改善につなげたい。2024年度からは研究室で作成した教科書を統一採用するため、進度については改善がみられるものと思われる。

3-2 「改善に向けた今後の方針」のまとめ

2024年度から新カリキュラムを導入し、スピーキングやライティングなどのアウトプット力を培う授業と、リスニングやリーディングなどのインプット力を養う授業を有機的に連動させながら授業運営をしていくため、2023年度は双方の連携について意識しながら科目を担当していただいた。そのため、インプットとアウトプットの両授業をそれぞれ独立させながらも、履修者が4技能をバランスよく、かつ効果的に培うための課題の必要性を指摘する意見が多かった。アウトプット力を伸ばす「表現クラス」は、フランス語の基礎力を担保しなければ有効的に機能しないため、インプット力を養う「基礎クラス」での丁寧なフィードバックが欠かせないことが今回のアンケート結果からみえてきた。また、「聞く力」「話す力」については、履修者自身が実力の定着について実感しづらいという現状を改善するために、現在研究室で開発している教材についてさらに改良に努めていきたい。

<スペイン語教育研究室>

3-1 「授業評価に対する担当教員の所見」のまとめ

1年次必修科目におけるテキストを2022年度から変更し、当初教員・学生ともかなり戸惑いを覚えたようであるが、2023年度でその使用も2年目になり、1年目の反省も踏まえて教案の見直しを行ったことで、戸惑いも減じたように見受けられる。所見から、多くの教員が、テキストだけに留まらず、補助教材を用いて理解を助けようと工夫をこらしている様子うかがえ、Canvas LMSも広く活用されているようである。履修者からもこうした姿勢は評価されていると思われるが、その一方でCanvas LMSのアクセスログからは活用している履修者とさほどでもない学生の間には差があるという指摘もあり、週平均の学習時間も少なめだという意見が見られた。多くのクラスで継続学習への意欲も示されていることについても言及があった。加えて、スペイン語圏の文化や社会に関する言及、具体的には映像資料や音楽を紹介することで、スペイン語が使われる世界への興味関心を深めようと各教員が腐心している様子も示された。自由科目では、履修者からの評価として、文法知

識の定着、背景知識の拡張、実践的な能力の進捗など、肯定的な意見が多く見られ、教員側も履修者の期待に応えられるようさまざまな工夫を試みていると考えられる。

しかしながら、配付資料の情報量の多さ、解説の際の話すスピード、テキストの難易度等、履修者から改善を求める声があり、教員側もさらに細かく気を配る必要がある。

3-2 「改善に向けた今後の方針」のまとめ

細部については、担当教員ごとに異なった問題意識もあるが、いずれも履修者の理解を促進するための改善をしていく意欲が方針として打ち出されている。具体的には、扱う内容を取捨選択して、もう少し余裕のある展開ができるようにすること、Canvas LMS の使用について履修者により頻繁に確認をするよういっそう指示を明確化すること、プレゼンテーションや板書での表示をさらに見やすくすること、ノートテイキングの時間をもう少し取るようにすること、提出課題へのフィードバックの方法、教員と履修者間でのより効果的なコミュニケーションの取り方などについての言及があり、今後の授業内容・展開の改善を目指してさらに工夫を重ねていく意欲が見て取れる。

<中国語教育研究室>

3-1 「授業評価に対する担当教員の所見」のまとめ

授業でスライドを活用することは多くのクラスで定着しているが、それに併せてスライドの展開が速くメモが出来ない、スライドを共有してほしいなどの意見が複数のクラスで寄せられている。教員側から見ると、スライドを共有することにより、授業中に履修者が真剣にメモを取らなくなるなどの懸念があるようだが、スライドは履修者の理解に大いに役立っており、今後も多くのクラスで工夫し、授業で積極的に活用してもらいたい。授業内で実施される課題や小テストに関し、事前アナウンスが不十分なため準備ができないなどの意見もクラスによって複数確認できた。課題や小テストに関しては、成績評価に含まれることが多いので、事前アナウンスはしっかりと行う必要がある。

アンケートの回答率が低いクラスもあり、授業内での実施が徹底していないクラスがあった。またアンケートの結果に対する教員の所見であるが、複数のクラスで同じコメントである、あるいは1行以内の簡単なものとなっている、さらには所見自体が記入されていないといった事例もあり、今後の改善の対象となる。

自由科目に関しては授業の評価できる点の指摘が目立ったが、授業を通じて中国語以外の、中国に関する様々な情報が得られたことへの言及が昨年度同様多かった。授業を通じて、履修者が言語の背景にある文化や社会にも関心を持つようになることは、研究室としても喜ばしいことであり、今後もこのようなコメントが多く寄せられることを望んでいる。

3-2 「改善に向けた今後の方針」のまとめ

担当者の授業進行の速度が速い、声が聞き取りづらいなどは、授業で使用した教材のCanvas LMS へのアップなどで対応していきたい。またアンケート回答率を上げるため、授業内で実施する時間を設けるよう各科目担当者へアナウンスを徹底したい。

必修科目ではこれまで期末試験期間中に全履修者を対象とした統一テストを実施してきたが、統一テストを実施すること自体への疑義や、その問題の難易度が高すぎる点につき、コ

メントが複数確認できた。2024年度より統一テストは「中国語1」と「中国語2」では実施せず、「中国語A」と「中国語B」では履修グループごとに第14週に実施されることに大きく変更することになっている。これに対する履修者の反応がどのようになるか注視したい。

<朝鮮語教育研究室>

3-1 「授業評価に対する担当教員の所見」のまとめ

2023年度の必修科目において使用した教科書は1年間で入門から初級・中級の入り口までしっかり学習できる内容になっているため、学習項目や学習量が多少多い点については否めない。しかしながら、パイロット使用した2年間、試行錯誤する中で授業運営なども考慮し完成させており、教科書に対する学生の満足度は非常に高く、楽しく学習に取り組んでいる様子が伺える。加えて、授業に対する学生の満足度が高い理由として、授業運営を任されている教員側の地道な努力・工夫があつたということだということがアンケート結果からも確認できる。自習用、復習用のプリントの提供、授業内容を分かりやすく要約した資料の配付、学習内容の定着のためのこまめな小テスト、また、100分という授業時間の中で学生の集中力が途切れるタイミングで楽しめるクイズ形式の復習、映像資料を使用した歌（歌詞）、ドラマ（セリフ）、料理番組の視聴など、学生が興味を持って積極的に授業に集中できるような授業運営面での工夫が、学生の多様なニーズに合致し高い満足度につながったようである。必修科目の場合、学部によって多少ばらつきはあるが、学生のモチベーションの高さ、授業態度のよさを高く評価する教員側のコメントも多かった。自由科目は例年通りモチベーションの高い学生が自ら選択して履修しているので、多くの授業で学生の満足度も教員の達成感も高かったが、教員の授業運営や授業内での発言については厳しい指摘もあった。

3-2 「改善に向けた今後の方針」のまとめ

必修科目については、学生からも教員からも「会話練習を充実させたい」旨のコメントが多かった。朝鮮語の必修科目は文字から学習を始めることもあり、一定水準の会話練習を実践することの難しさはあるが、2024年度始動の新カリキュラム（20人のアウトプットクラスの創設）で改善されるよう、教員への意識付けも含め準備していきたい。また、必修科目の場合、教科書で学ぶべき学習項目が多いため、今後、より効率的な授業運営、学習内容の定着のために、補助教材としてリリースされた練習帳などを活用した予習・復習・課題などを通して授業時間外の学習時間をもう少し増やしていく必要がある。

自由科目については、履修学生間のレベルの差異を考慮した授業運営が必要である。また、履修学生間のレベルを考慮した上で、授業の初期の段階で学生の多様なニーズを把握しておく必要がある。自由科目の場合、必修科目に比べ学生と教員間の会話のやり取りなどが授業内で増えてくるので、円滑な授業運営のためには、学習目標や学習内容の確認だけでなく、授業運営のやり方や教員の発言などについても共通認識を持つておく必要がある。

<ロシア語教育研究室>

3-1 「授業評価に対する担当教員の所見」のまとめ

授業の内容や伝え方について、履修者からわかりやすかったとの評価だった。担当教員としては、さらにわかりやすく伝えることができるよう、引き続き工夫していく所存である。

3-2 「改善に向けた今後の方針」のまとめ

ロシア語は文法が細かく、おそらく他言語と比較しても困難で、初めに覚えなくてはならない事項が多い。そのため、まず教員が文法を解説し、その理解を確認し深めるために問題演習を行う形になってしまう。解説と問題演習の時間が長くなってしまい、履修者の自発的・能動的なアクティビティを行う時間があまり取れなかった。次年度以降は、文法を学習後にそれを用いて会話を行う時間を設けることも考えていく。

<諸言語教育研究室>

3-1 「授業評価に対する担当教員の所見」のまとめ

池袋・新座両キャンパスで開講されている「日本手話 2」ならびに「日本手話 4」であるが、共通して言えるのは、学生の授業への能動的参加、履修に対する満足度の高さが突出していることである。特に「日本手話 2」において顕著だったのは、配付資料やパワーポイントの教材、宿題等へのフィードバック、授業内での復習の時間や授業の内容が明確であることなど、担当教員の授業への取り組みに対する高評価である。また、学生が、基本的な専門知識に加え、新しい発想や思考力が養えたと考えていることも特筆すべき点である。お昼休み等を利用し、担当教員と学生が自然なコミュニケーションをする機会を大切にしていることも学習意欲につながったのではないかと。「日本手話 4」ではプレゼンテーション力が向上したと実感する学生も複数おり、「手話で自分の意見を表現する力を身に付ける」という授業の目標がある程度達成されたと考える。

授業外での学習時間が減っているあるいは決して多くないことについては、Canvas LMS の活用の結果、履修者はいつでもどこでも効率よく復習ができるようになったためではないか。さらに「日本手話 4」については、これまで 1~4 と継続学習を続けて来た学生にとっては集大成の授業であることから、履修者一人ひとりに手話がきちんと定着しており、いたずらに長時間の復習をする必要がないのかもしれないと推察する。

担当教員としては、今後も満足度の高い授業を心掛け、履修者が継続学習を望む流れを大切にしていきたいと考えている。

3-2 「改善に向けた今後の方針」のまとめ

ろう者の実際の生活や文化、社会での働き方を知るために、コラムやゲストスピーカーの話が授業内でも大きな役割を担っている認識はこれまでもあったが、今後も有効利用していきたい。

復習用の動画については、今後リニューアルも検討したい。

現在「日本手話」は人気科目となっていることから、学習を開始できない人や継続学習が叶わない人が多く出ている。希望者が履修できないという状況をできる限り改善するのは早急に取り組むべき課題であろう。

<日本語教育研究センター>

3-1 「授業評価に対する担当教員の所見」のまとめ

多くの教員が学生からの意見を真摯に受け止めていることがうかがえた。

学生の出席率、参加度についても、肯定的な所見を書いている教員が多く、大多数の学生

が積極的に授業に取り組んでいたことが読み取れた。しかしながら、正規留学生と特別外国人学生のクラス履修の形が異なることによる課題に触れている教員が見受けられた。特別外国人学生は、一定の日本語力がある場合、正規留学生の「大学生の日本語」科目を履修することができることになっているが、本来、「大学生の日本語」は正規学部生のための科目であるため、正規学部留学生の学びを最大限にし、その上で特別外国人学生も問題なく参加できるような形を考えていく必要があると感じた。

同じように授業をしても、学生からの評価が様々であることから、先生方が戸惑っているところが見受けられた。授業をする際に、授業の進め方等について、しっかりと学生に説明していくことについて、日本語教育センターとしても、FD等を通して周知していきたい。

3-2 「改善に向けた今後の方針」のまとめ

改善に向けた方針としては、大きく2つに分けられる。1つ目は、配付資料に関するものである。配付資料の閲覧時期の問題、配付資料のわかりやすさ、配付資料の量や種類に関するものである。この点については、教員個人の判断を超える部分もあるため、FD等を通して、学生によりわかりやすい形での配付資料を考え、改善を図っていきたい。

2つ目は、授業形態に関するものである。「書く」スキルのように個人での活動が中心となるもの、「聞く、話す」のように他者とのインターアクションを通じた活動が中心となるものがあるが、「個人活動」と「協働」のバランスをどのようにうまく組み合わせて授業を構成していくのか、今後の改善を考えたいという記述があった。こちらについても、教員個人の工夫に任せるところ、センター全体で改善を図っていくべきところをしっかりと把握して授業全体の質を高めていきたい。

今回、学生からの評価に対して、様々な所見が見られたが、どの所見も授業をよくしていく、さらに改善していくという視点に基づくものであり、個々の教員が自分の授業に対してしっかりと向き合っていることが読み取れる内容であった。

4. 今後の改善に向けて

2022年度のアンケート総評としてこの欄には、授業運営が学習者の学習意欲を大きく左右し得るため学習者のモチベーションの確保や維持が大きな課題であることと、また言語新カリキュラムへのスムーズな切り替えを行うためにも研究室内における有意義なFDが繰り返し実施されることは不可欠だと言及した。

2023年度は新カリキュラムの科目がいくつかパイロット実施された年でもあったが、前年度の課題は継続である。2024年度に言語Aの新カリキュラムは完成（自由科目も含めすべてが新しい科目となった）、言語Bは新カリキュラムが始動し、段階的に切り替わっていく。新カリキュラムの授業がこのアンケートに反映する局面になった暁には、その結果を真摯に受け止め、見直し、将来のより良いカリキュラム策定のヒントにしていく。

全学共通科目であることから、新カリキュラムでは言語Aのみならず言語Bでも言語を超えて共通の目標を掲げ、各言語で統一シラバスのもと運営していく。各言語の特徴や担当教員の個性は活かしつつも、すべての学生がどの授業を受けても同じ基礎力と複文化の視座を身につけられるよう、教員一人ひとりの意識改革も行いながら、安定した授業を提供で

きるよう努めていきたい。

なお、教員の所見執筆については、以前から各言語教育研究室の担当者連絡会などを通して科目担当者へお願いはしてきていたが、改善されない部分が大きかった。2023年度からは未執筆者を事務室に教えていただき、各言語教育研究室主任から個別に執筆依頼を行なったところ、大きな改善が見られた。本来であれば自主的に執筆いただきたいところではあるが、引き続き粘り強くこの流れを続けていく。

4-15 学校・社会教育講座

1. 科目選定方針とねらい

毎年度、学校・社会教育講座（以下講座）の授業評価アンケートは、教職課程に関しては原則として講義科目を対象とした1教員1科目、そして学芸員課程、司書課程および社会教育主事課程に関しては各課程で重点を置いている科目を選定し、数年にわたって広い科目を網羅できるように科目選定をおこなっている。また、履修者が5名以下の科目については、実施見送りとしている。よって講座の2023年度授業評価アンケートは科目選定方針に従い59科目を選定し春学期27科目、秋学期15科目の42科目で実施した。

毎年度、継続的に履修者の授業評価を蓄積することは教員の授業の特質を見直し、授業に対する履修者の見方の動向を把握することが可能になると考えられる。そして履修学生の「学び」に対する要望や期待に一層マッチした授業の提供につながるものと考えている。

2. 集計データにみられる結果のまとめ

2023年度の講座における実施科目42科目の履修者総数は1,622名、そのうち回答者数は871名、回答率は53.7%であった。2022年度は48.6%であり、回答率は幾分上がった。また全学の回答率は40.0%であり、例年同様に講座はやや高めの回答率がみられた。

回答者の学年は、1年生314名、2年生294名、3年生215名、4年生37名、その他（科目等履修生）11名で、これまでと同様の学年分布となった。1、2年次には講義を中心とした科目を、3、4年次には実習や演習系の科目を配置しているという特性も表れていると推測できる。

I「学生の学習姿勢」では、「この授業に積極的に参加した」が4.45であり、前回(4.34)とほぼ同じ水準である。履修者が教員免許状や資格取得に向け、モチベーションを上昇、維持させつつ、各々の目標に対して学びを進めている様子が見受けられる。

一方、「この授業に関連して、授業以外に学習した時間」は0.91時間で、前回の1.17時間を下回った。履修者の過度な負担にならぬよう、担当教員は、授業外の学習活動に関して適切な質と量の課題などを設定し、授業をもとにした知識の深化や興味関心の広がりをめざせるよう検討していきたい。

II「教員の授業改善に向けて」では、「各回の授業内容は明確だった」が4.57、「教員の伝え方はわかりやすかった」が4.56で、例年同様、履修者からの高い評価を得ている。担当教員が、各回の授業でねらいや目標を明確に示しつつ、様々なツールを適宜効果的に活用し、授業を進めていることが推察される。具体的に効果的であったと評価されているものは、「配付資料(授業のレジュメなど)」が63.6%、「パワーポイント」が46.8%となっている。同時に、II5の「この授業で改善すべきだと思った点はありますか」では、「上記にあてはまるものがない」と67.9%の履修者が回答していることから、各教員が効果的な教材準備に関わる安定した水準を保ち、授業を進めているものと推察できる。

III1「この授業から得ることができたものはありますか」では、「自分にとって新しい考え方・発想」が64.2%、「授業で扱った分野に関する基本的な専門知識」が70.3%で、高い評価を得られている。ただし、「自分で調べ考える姿勢」は22.0%、「学問的興味」は34.6%で、必ずしも低水準ではないにせよ、主体的学修姿勢の形成については今後検討する余地があると言えよう。

「学年別平均値」に関しては、I1「この授業に積極的に参加した」では1年生4.47、2年

生 4.41、3 年生 4.45、4 年生 4.54 と、微妙な差ながら高い学年の方が積極的参加姿勢がうかがえ、これはⅡの各項目にも同様の傾向が見られる。Ⅲの授業満足度では、1 年生 4.49、2 年生 4.56、3 年生 4.60、4 年生 4.68 と学年進行による漸増傾向が明らかである。

この結果は、学年が上がるにつれ回答者数は少なくなるので、偏りがある可能性もあるが、資格課程という特性上、熱意のある学生が高い学年まで履修を続けているからとも考えられる。

3. 担当教員の所見に対するまとめ

3-1 「授業評価に対する担当教員の所見」のまとめ

2024 年 6 月 4 日に講座会議構成教員にアンケートデータを提示し、意見交換をおこなった。その結果、授業運営において、多数の教員がアクティブラーニングを導入し、履修者のリアクションペーパーや質問に対し丁寧に応答するように尽力している様子がうかがえた。授業資料についても、最適な質と量の準備をしていることを確認した。

また履修者からの「教員の伝え方はわかりやすかった」、「この授業を受けて満足した」の項目での高い評価は、安心とともに励みであると記している教員が多い。各担当授業を、引き続きより良いものにしようとする授業の動機付けにつなげているものと考えられる。

1) 所見票に現れた学生の意見（記述による評価）の集約

履修者の授業に対する積極的な肯定の意見としては、やはり、他の履修者や担当教員とのコミュニケーションに関するものが多く見られた。「グループディスカッションで学びが深まった」など積極的な学生参加型授業が好評価であり、また各教員が履修者からの質問に丁寧に応じている様子もうかがえた。

2) 上記 1) に対する担当教員の所見のまとめ

多くの教員が、履修者の高い評価に安堵しながら、配付教材や課題の量など、さらに適切に改善する姿勢を示していた。なお、今回は授業評価アンケート実施 42 科目のうち 6 科目が担当教員による所見が不記入であった。その意図は不明であるし、記入を強制、義務化するわけにはいかないがよりよい授業実施にむけて数行でも記入して欲しかった。また、この点も含めて授業の充実、改善策と同時に、授業評価アンケートの形式、実施方法、所見記入というあり方それ自体も、見直すべき過渡期にあるのかもしれないと感じさせられた。

3-2 「改善に向けた今後の方針」のまとめ

教員所見からは、いずれの教員も、履修者の声に真摯に耳を傾け、その声を前向きに活かしていこうとする様子が伝えられていた。この点に関しては、担当教員が日ごろの授業において、履修者一人ひとりを尊重し、理解しようとしていた姿がうかがえたといえよう。

4. 今後の改善に向けて

例年同様、講座で提供している授業に関しては、概ね履修者の期待や求める内容に、十分応えられているという現状をうかがい知ることができた。今後も授業評価アンケートの量的質的データを FD 会議等で共有し、履修者の高い学習意欲を維持できる授業の模索、新たな発見や着想を得られるような授業開発を検討したい。

なお、2022 年度の学生の回答率や教員の執筆状況については 2023 年 7 月の講座会議において共有を行った。

5. 2023 年度のまとめと今後の展望

大学教育開発・支援センター

TL (Teaching&Learning) 部会長 高林 陽展

1. はじめに

本学の「学生による授業評価アンケート」は、大学教育開発・支援センターが中心となり、教務部・情報企画室（メディアセンター）の協力のもとで実施している。アンケートに回答してくださった学生のみなさんや、所見の執筆にあたった教員各位を始めとして、本件に関わる全てのみなさまに感謝を申し上げたい。

以下では、アンケート結果と各学部等総評を踏まえて、多くの学部等に共通すると思われる事項、および今後の授業改善において重要になるとと思われる事項をまとめたい。

2. 学部等別の回答率

2023 年度の回答率は 40.0%であり、2022 年度の 34.2%から 5.8%増加した。各学部等の数値からしても、全体として微増という結果である。ちなみに、2022 年度は 3 年に一度の「1 教員 1 科目」の原則によってアンケートが実施された年度であり、アンケート実施科目とその履修者数が増加する傾向にある。2023 年度の回答率の増加については、この点も勘案する必要がある。

各学部等の総評からは、①初年次教育科目での回答率が高くなる傾向があること、②周知・アナウンスの方法によって回答率に一定の改善が見られたことがうかがえる。例えば、初年次科目を主たる対象科目とし、学部執行部が事前アナウンスの周知徹底をはかった経済学部の例（回答率 51.0%）、がある。また、コミュニティ福祉学部でも、FD 委員会での情報共有や周知方法の改善などに取り組んだ結果、回答率の大幅な上昇（48.3%）という結果を得た。

他方で、年次が進むのに対応した回答率の低下は各学部共通の問題と認められる。また、学部方針によって毎年度「1 教員 1 科目」のアンケート実施を行っている学部等においては、履修者数の増加などもあってか、回答率が低調に見える。いずれにしても、各学部等においてアンケートを実施する目的を明確にする科目選定方針が依然として重要だということは、十分に踏まえられるべき点であろう。

今後とも、各学部等が科目選定方針と周知方法の検討を重ね、回答率向上のための方策をご検討いただきたい。

なお、大学教育開発・支援センターでは、①実施要領に「学生から多くの回答を得るためのヒント」追加、②実施要領「学生へのアナウンスについて」を当日の流れがわかるような体裁に変更（色紙に変更）、③教務部発行の「教務に関するご案内」にアンケート実施を考慮に入れて授業を実施いただけるよう、具体的な記載の追加（原則として授業 13 回目または 14 回目に実施、所要時間 10～15 分程度）、④教育改革推進会議資料に「原則として実施期間中の授業内で実施する」ことをあらためて明示（2023 年度秋学期より）など、継続的な改善の取り組みを続けている。

3. 担当教員の所見未記入

授業担当教員による所見未記入の問題については、前年度に比べて、各学部等より一定の改善が報告されている（異文化・GLAP・全カリ言語系科目）。授業評価アンケートにおいては、学生による回答と教員による所見の双方が揃い、授業の質の改善に向けた対話となることが重要であり、今後もこの課題には取り組まなければならない。ただし、「回答率が1割に満たない科目であり、所見が書きづらい状況」も報告されており（全カリ総合系科目）、担当教員の問題だけに帰するわけにはいかない。回答率の向上が、今後の授業評価アンケートの運営にとって重要だということが改めて示唆されていると判断されるべきだろう。

そもそも、多くの教員が学生の回答を真摯に受け止め、積極的に所見を記しているという報告は多数の学部等から寄せられており、そのこと自体は肯定的に受け止める必要がある。

4. オンライン授業

新型コロナウイルス感染症の5類指定以後、特に、大学では対面授業への回帰が進み、授業に関する課題も2020年度以前の内容に戻ってきていることが指摘されている。しかし一方で、オンライン授業活用の必要性自体は変わることなくあり続けている。そのため、オンライン授業をどのようにコーディネートし、授業の質の確保に取り組むのかという点について、各学部等から問題提起がなされている。例えば、経済学部は対面・オンラインのハイブリッド型授業の展開に際して、「どの授業形態においても学生の学びに対するモチベーションが低下しない体制の構築を目指すべく、FD研修会を実施するなどの対策を引き続き講じていきたい」としている。また、社会学部からの「対面授業とオンライン授業の併用や活用の仕方については、今後も継続した課題となるだろう」という指摘、経営学部からの「オンライン形態に関しては、オンラインならではの講義運営や講義資料の一層の工夫が求められる」「オンライン講義に関しては講義へのエンゲージメントを高める工夫に加え、対面形態と遜色ない満足度や理解度を得るための工夫について、各教員で継続して検討・改善していくことが有効であるといえる」という今後の取り組みの方針については、今後全学的に検討をしてゆく必要性が認められるだろう。

5. おわりに

繰り返しになるが、全体としては、授業評価アンケートへの学生の回答に対して、多くの教員が真摯に受け止め、改善策を具体的に検討する機会ともなっているという、アンケート本来の意義を達成できていることを強調しておきたい。また、オンライン授業の継続的な展開等、授業の環境にかかわる問題が授業の質を大きく左右することも各学部等から指摘をされており（社会・全カリ総合系科目）、今後の授業評価アンケートのあり方を考えるうえで改めて強調しておきたい。

6. 2023 年度集計データ（資料編）

6-1 回答者数・回答率

延べ回答者数 55,751 名

表1 学部等別履修者数と回答者数、および回答率

科目開設学部等	履修者数	回答者数	回答率
文学部	11,282	3,893	34.5%
経済学部	3,950	2,014	51.0%
理学部	7,167	2,657	37.1%
社会学部	17,170	4,377	25.5%
法学部	1,750	473	27.0%
経営学部	11,904	2,007	16.9%
異文化コミュニケーション学部	2,642	1,567	59.3%
グローバル・リベラルアーツ・プログラム運営センター	333	214	64.3%
観光学部	4,908	1,466	29.9%
コミュニティ福祉学部	2,640	1,275	48.3%
現代心理学部	1,417	460	32.5%
スポーツウエルネス学部	860	548	63.7%
全学共通カリキュラム運営センター・総合系科目	42,223	12,606	29.9%
全学共通カリキュラム運営センター・言語系科目	29,530	21,323	72.2%
学校・社会教育講座	1,622	871	53.7%
合計	139,398	55,751	40.0%

注1) 履修者数・回答者数は、アンケート実施科目の延べ履修者、回答者

注2) 学部等は、アンケート実施科目の開設学部により分類した

表2 学部等別学年別の回答者数

科目開設学部等	1年	2年	3年	4年	その他	合計
文学部	1,561	1,277	698	339	18	3,893
経済学部	1,947	43	16	7	1	2,014
理学部	1,360	738	461	93	5	2,657
社会学部	1,918	1,288	763	390	18	4,377
法学部	166	98	124	77	8	473
経営学部	632	703	354	213	105	2,007
異文化コミュニケーション学部	1,181	265	65	33	23	1,567
グローバル・リベラルアーツ・プログラム運営センター	83	38	25	16	52	214
観光学部	183	541	548	192	2	1,466
コミュニティ福祉学部	612	413	190	60	0	1,275
現代心理学部	195	152	88	25	0	460
スポーツウエルネス学部	515	16	9	5	3	548
全学共通カリキュラム運営センター・総合系科目	6,433	3,211	1,719	968	275	12,606
全学共通カリキュラム運営センター・言語系科目	19,541	1,025	399	248	110	21,323
学校・社会教育講座	314	294	215	37	11	871
合計	36,641	10,102	5,674	2,703	631	55,751

注1) 回答者数は延べ人数

注2) 学年は、当該学部等で実施したアンケートに回答した学生の学年を示す（その他：本学学部生以外）

注3) 学部等により実施科目の選定方針が異なるため、学年の偏りがある

6-2 学部等別設問項目別平均値・回答割合

表3-1 文学部（平均値）

設 問 項 目	回答者数 ^{注1)}	平均値 ^{注2)}	標準偏差
I 学生の学習姿勢			
I1 この授業に積極的に参加した	3,873	4.31	0.75
I2 この授業に関連して、授業以外に学習した時間（平均して、1週間に）*	1,840	1.29	2.31
II 教員の授業改善に向けて			
II1 各回の授業内容は明確だった	3,878	4.36	0.76
II2 教員の伝え方はわかりやすかった	3,869	4.27	0.85
III 学生が授業に期待するもの			
III3 この授業を受けて満足した	3,886	4.36	0.78

注1) 回答者数は延べ人数

注2) 平均値は、各選択肢の評価点を使用して算出

(5:大いにそう思う、4:そう思う、3:どちらともいえない、2:あまりそう思わない、1:そう思わない)

*I2の単位は「時間」

表3-2 文学部（回答割合）

設 問 項 目	回答者数 ^{注1)}	割合 ^{注2)}
全有効回答者数 3,893		
II 教員の授業改善に向けて		
II3 この授業でよいと思った点がありますか【複数選択可】	3,835 ^{*1}	98.5%
①配付資料（授業のレジュメなど）	2,155	55.4%
②板書（電子媒体のものを含む）	678	17.4%
③パワーポイント	1,288	33.1%
④動画等の映像視覚教材（オンライン授業そのものの動画ではありません）	819	21.0%
⑤シラバス	285	7.3%
⑥上記にあてはまるものがない	381	9.8%
II4 II3の選択肢を選んだ理由、あるいはそれ以外でこの授業でよいと思った点があれば記入してください【自由記述】	537 ^{*2}	13.8%
II5 この授業で改善すべきだと思った点がありますか【複数選択可】	3,376 ^{*1}	86.7%
①配付資料（授業のレジュメなど）	523	13.4%
②板書（電子媒体のものを含む）	276	7.1%
③パワーポイント	238	6.1%
④動画等の映像視覚教材（オンライン授業そのものの動画ではありません）	120	3.1%
⑤シラバス	118	3.0%
⑥上記にあてはまるものがない	2,334	60.0%
II6 II5の選択肢を選んだ理由、あるいはそれ以外でこの授業で改善すべき点があれば記入してください【自由記述】	459 ^{*2}	11.8%
III 学生が授業に期待するもの		
III1 この授業から得ることができたものがありますか【複数選択可】	3,872 ^{*1}	99.5%
①自分にとって新しい考え方・発想	2,264	58.2%
②授業で扱った分野に関する基本的な専門知識	2,326	59.7%
③自分で調べ考える姿勢	1,032	26.5%
④学問的興味	1,780	45.7%
⑤上記にあてはまるものがない	76	2.0%
III2 III1以外でこの授業から得ることができたものがあれば記入してください【自由記述】	150 ^{*2}	3.9%

注1) 回答者数

*1:当該設問（複数選択可）の項目に1つでも回答した者の延べ人数

*2:当該設問（自由記述）に回答（記述）した者の延べ人数

上記（*1および*2）以外の項目は当該設問の項目を選択した者の延べ人数

注2) 割合の算出

回答者数を、全有効回答者数で除することによって算出

表4-1 経済学部 (平均値)

設 問 項 目	回答者数 ^{注1)}	平均値 ^{注2)}	標準偏差
I 学生の学習姿勢			
I1 この授業に積極的に参加した	2,004	4.35	0.84
I2 この授業に関連して、授業以外に学習した時間 (平均して、1週間に) *	948	1.79	3.00
II 教員の授業改善に向けて			
II1 各回の授業内容は明確だった	2,013	4.28	0.92
II2 教員の伝え方はわかりやすかった	2,003	4.15	1.03
III 学生が授業に期待するもの			
III3 この授業を受けて満足した	2,002	4.21	0.96
IV 学部等による設問			
IV1 (基礎ゼミナール1) 経済関連の文献を読む力がついた	470	4.04	0.98
IV2 (基礎ゼミナール1) レジюмеやレポート作成の力がついた	471	4.33	0.89
IV3 (情報処理入門1) 表計算ソフト (Excel) の応用力が身についた	394	4.37	0.75
IV4 (情報処理入門1) Power Point でプレゼンテーション資料を作成する力が身についた	392	4.10	0.94
IV5 (情報処理入門1) WEB上から経済資料・統計資料を入手する力が身についた	393	4.32	0.75

注1) 回答者数は延べ人数

注2) 平均値は、各選択肢の評価点を使用して算出

(5:大にそう思う、4:そう思う、3:どちらともいえない、2:あまりそう思わない、1:そう思わない)

*I2の単位は「時間」

表4-2 経済学部 (回答割合)

設 問 項 目	全有効回答者数	2,014
	回答者数 ^{注1)}	割合 ^{注2)}
II 教員の授業改善に向けて		
II3 この授業でよいと思った点がありますか【複数選択可】	1,991 ^{*1}	98.9%
①配付資料 (授業のレジюмеなど)	1,231	61.1%
②板書 (電子媒体のものを含む)	391	19.4%
③パワーポイント	621	30.8%
④動画等の映像視覚教材 (オンライン授業そのものの動画ではありません)	104	5.2%
⑤シラバス	144	7.1%
⑥上記にあてはまるものがない	243	12.1%
II4 II3の選択肢を選んだ理由、あるいはそれ以外でこの授業でよいと思った点があれば記入してください【自由記述】	318 ^{*2}	15.8%
II5 この授業で改善すべきだと思った点がありますか【複数選択可】	1,793 ^{*1}	89.0%
①配付資料 (授業のレジюмеなど)	322	16.0%
②板書 (電子媒体のものを含む)	256	12.7%
③パワーポイント	134	6.7%
④動画等の映像視覚教材 (オンライン授業そのものの動画ではありません)	83	4.1%
⑤シラバス	75	3.7%
⑥上記にあてはまるものがない	1,155	57.3%
II6 II5の選択肢を選んだ理由、あるいはそれ以外でこの授業で改善すべき点があれば記入してください【自由記述】	278 ^{*2}	13.8%
III 学生が授業に期待するもの		
III1 この授業から得ることができたものがありますか【複数選択可】	1,999 ^{*1}	99.3%
①自分にとって新しい考え方・発想	709	35.2%
②授業で扱った分野に関する基本的な専門知識	1,224	60.8%
③自分で調べ考える姿勢	547	27.2%
④学問的興味	558	27.7%
⑤上記にあてはまるものがない	94	4.7%
III2 III1以外でこの授業から得ることができたものがあれば記入してください【自由記述】	111 ^{*2}	5.5%

注1) 回答者数

*1:当該設問 (複数選択可) の項目に1つでも回答した者の延べ人数

*2:当該設問 (自由記述) に回答 (記述) した者の延べ人数

上記 (*1 および*2) 以外の項目は当該設問の項目を選択した者の延べ人数

注2) 割合の算出

回答者数を、全有効回答者数で除することによって算出

表5-1 理学部（平均値）

設 問 項 目	回答者数 ^{注1)}	平均値 ^{注2)}	標準偏差
I 学生の学習姿勢			
I1 この授業に積極的に参加した	2,650	4.29	0.78
I2 この授業に関連して、授業以外に学習した時間（平均して、1週間に）*	1,493	1.85	2.31
II 教員の授業改善に向けて			
II1 各回の授業内容は明確だった	2,647	4.27	0.87
II2 教員の伝え方はわかりやすかった	2,640	4.12	0.97
III 学生が授業に期待するもの			
III3 この授業を受けて満足した	2,639	4.13	0.92
IV 学部等による設問			
IV1 シラバスに沿って授業が行われた	2,646	4.42	0.69
IV2 教員は質問・疑問に対し積極的に答えてくれた	2,646	4.30	0.82
IV3（必修科目のみ）授業で困った際に、練習問題を解き合う等で学生同士が共同して解決策をとった	1,888	4.12	1.04
IV4（1年次必修科目のみ）教員は高校までの授業スタイルとの違いを考慮して授業展開をしてくれた	1,277	3.97	1.00

注1) 回答者数は延べ人数

注2) 平均値は、各選択肢の評価点を使用して算出

(5:大いにそう思う、4:そう思う、3:どちらともいえない、2:あまりそう思わない、1:そう思わない)

*I2の単位は「時間」

表5-2 理学部（回答割合）

設 問 項 目	全有効回答者数	2,657
	回答者数 ^{注1)}	割合 ^{注2)}
II 教員の授業改善に向けて		
II3 この授業でよいと思った点がありますか【複数選択可】	2,620 ^{*1}	98.6%
①配付資料（授業のレジュメなど）	1,461	55.0%
②板書（電子媒体のものを含む）	968	36.4%
③パワーポイント	734	27.6%
④動画等の映像視覚教材（オンライン授業そのものの動画ではありません）	201	7.6%
⑤シラバス	152	5.7%
⑥上記にあてはまるものがない	270	10.2%
II4 II3の選択肢を選んだ理由、あるいはそれ以外でこの授業でよいと思った点があれば記入してください【自由記述】	435 ^{*2}	16.4%
II5 この授業で改善すべき点だと思った点がありますか【複数選択可】	2,360 ^{*1}	88.8%
①配付資料（授業のレジュメなど）	429	16.1%
②板書（電子媒体のものを含む）	282	10.6%
③パワーポイント	173	6.5%
④動画等の映像視覚教材（オンライン授業そのものの動画ではありません）	86	3.2%
⑤シラバス	72	2.7%
⑥上記にあてはまるものがない	1,550	58.3%
II6 II5の選択肢を選んだ理由、あるいはそれ以外でこの授業で改善すべき点があれば記入してください【自由記述】	478 ^{*2}	18.0%
III 学生が授業に期待するもの		
III1 この授業から得ることができたものがありますか【複数選択可】	2,637 ^{*1}	99.2%
①自分にとって新しい考え方・発想	1,039	39.1%
②授業で扱った分野に関する基本的な専門知識	1,945	73.2%
③自分で調べ考える姿勢	674	25.4%
④学問的興味	1,051	39.6%
⑤上記にあてはまるものがない	91	3.4%
III2 III1以外でこの授業から得ることができたものがあれば記入してください【自由記述】	123 ^{*2}	4.6%

注1) 回答者数

*1: 当該設問（複数選択可）の項目に1つでも回答した者の延べ人数

*2: 当該設問（自由記述）に回答（記述）した者の延べ人数

上記（*1および*2）以外の項目は当該設問の項目を選択した者の延べ人数

注2) 割合の算出

回答者数を、全有効回答者数で除することによって算出

表6-1 社会学部 (平均値)

設 問 項 目	回答者数 ^{注1)}	平均値 ^{注2)}	標準偏差
I 学生の学習姿勢			
I1 この授業に積極的に参加した	4,361	4.25	0.79
I2 この授業に関連して、授業以外に学習した時間 (平均して、1週間に) *	2,232	1.18	2.26
II 教員の授業改善に向けて			
II1 各回の授業内容は明確だった	4,365	4.33	0.76
II2 教員の伝え方はわかりやすかった	4,341	4.24	0.85
III 学生が授業に期待するもの			
III3 この授業を受けて満足した	4,366	4.29	0.83

注1) 回答者数は延べ人数

注2) 平均値は、各選択肢の評価点を使用して算出

(5:大いにそう思う、4:そう思う、3:どちらともいえない、2:あまりそう思わない、1:そう思わない)

*I2の単位は「時間」

表6-2 社会学部 (回答割合)

設 問 項 目	全有効回答者数	4,377
	回答者数 ^{注1)}	割合 ^{注2)}
II 教員の授業改善に向けて		
II3 この授業でよいと思った点がありますか【複数選択可】	4,329 ^{*1}	98.9%
①配付資料 (授業のレジュメなど)	2,350	53.7%
②板書 (電子媒体のものを含む)	534	12.2%
③パワーポイント	1,835	41.9%
④動画等の映像視覚教材 (オンライン授業そのものの動画ではありません)	1,406	32.1%
⑤シラバス	201	4.6%
⑥上記にあてはまるものがない	247	5.6%
II4 II3の選択肢を選んだ理由、あるいはそれ以外でこの授業でよいと思った点があれば記入してください【自由記述】	618 ^{*2}	14.1%
II5 この授業で改善すべきだと思った点がありますか【複数選択可】	3,800 ^{*1}	86.8%
①配付資料 (授業のレジュメなど)	617	14.1%
②板書 (電子媒体のものを含む)	238	5.4%
③パワーポイント	294	6.7%
④動画等の映像視覚教材 (オンライン授業そのものの動画ではありません)	193	4.4%
⑤シラバス	84	1.9%
⑥上記にあてはまるものがない	2,610	59.6%
II6 II5の選択肢を選んだ理由、あるいはそれ以外でこの授業で改善すべき点があれば記入してください【自由記述】	535 ^{*2}	12.2%
III 学生が授業に期待するもの		
III1 この授業から得ることができたものがありますか【複数選択可】	4,350 ^{*1}	99.4%
①自分にとって新しい考え方・発想	2,680	61.2%
②授業で扱った分野に関する基本的な専門知識	2,444	55.8%
③自分で調べ考える姿勢	886	20.2%
④学問的興味	1,773	40.5%
⑤上記にあてはまるものがない	80	1.8%
III2 III1以外でこの授業から得ることができたものがあれば記入してください【自由記述】	165 ^{*2}	3.8%

注1) 回答者数

*1:当該設問 (複数選択可) の項目に1つでも回答した者の延べ人数

*2:当該設問 (自由記述) に回答 (記述) した者の延べ人数

上記 (*1 および *2) 以外の項目は当該設問の項目を選択した者の延べ人数

注2) 割合の算出

回答者数を、全有効回答者数で除することによって算出

表7-1 法学部（平均値）

設 問 項 目	回答者数 ^{注1)}	平均値 ^{注2)}	標準偏差
I 学生の学習姿勢			
I1 この授業に積極的に参加した	470	4.29	0.82
I2 この授業に関連して、授業以外に学習した時間（平均して、1週間に）*	228	1.15	1.84
II 教員の授業改善に向けて			
II1 各回の授業内容は明確だった	473	4.46	0.68
II2 教員の伝え方はわかりやすかった	470	4.43	0.76
III 学生が授業に期待するもの			
III3 この授業を受けて満足した	473	4.43	0.76

注1) 回答者数は延べ人数

注2) 平均値は、各選択肢の評価点を使用して算出

(5:大いにそう思う、4:そう思う、3:どちらともいえない、2:あまりそう思わない、1:そう思わない)

*I2の単位は「時間」

表7-2 法学部（回答割合）

設 問 項 目	全有効回答者数	473
	回答者数 ^{注1)}	割合 ^{注2)}
II 教員の授業改善に向けて		
II3 この授業でよいと思った点がありますか【複数選択可】	467 ^{*1}	98.7%
①配付資料（授業のレジュメなど）	186	39.3%
②板書（電子媒体のものを含む）	126	26.6%
③パワーポイント	145	30.7%
④動画等の映像視覚教材（オンライン授業そのものの動画ではありません）	124	26.2%
⑤シラバス	44	9.3%
⑥上記にあてはまるものがない	80	16.9%
II4 II3の選択肢を選んだ理由、あるいはそれ以外でこの授業でよいと思った点があれば記入してください【自由記述】	127 ^{*2}	26.8%
II5 この授業で改善すべきだと思った点がありますか【複数選択可】	427 ^{*1}	90.3%
①配付資料（授業のレジュメなど）	72	15.2%
②板書（電子媒体のものを含む）	92	19.5%
③パワーポイント	27	5.7%
④動画等の映像視覚教材（オンライン授業そのものの動画ではありません）	8	1.7%
⑤シラバス	10	2.1%
⑥上記にあてはまるものがない	242	51.2%
II6 II5の選択肢を選んだ理由、あるいはそれ以外でこの授業で改善すべき点があれば記入してください【自由記述】	110 ^{*2}	23.3%
III 学生が授業に期待するもの		
III1 この授業から得ることができたものがありますか【複数選択可】	471 ^{*1}	99.6%
①自分にとって新しい考え方・発想	254	53.7%
②授業で扱った分野に関する基本的な専門知識	286	60.5%
③自分で調べ考える姿勢	83	17.5%
④学問的興味	215	45.5%
⑤上記にあてはまるものがない	7	1.5%
III2 III1以外でこの授業から得ることができたものがあれば記入してください【自由記述】	37 ^{*2}	7.8%

注1) 回答者数

*1: 当該設問（複数選択可）の項目に1つでも回答した者の延べ人数

*2: 当該設問（自由記述）に回答（記述）した者の延べ人数

上記（*1および*2）以外の項目は当該設問の項目を選択した者の延べ人数

注2) 割合の算出

回答者数を、全有効回答者数で除することによって算出

表 8-1 経営学部 (平均値)

設 問 項 目	回答者数 ^{注1)}	平均値 ^{注2)}	標準偏差
I 学生の学習姿勢			
I 1 この授業に積極的に参加した	1,998	4.28	0.74
I 2 この授業に関連して、授業以外に学習した時間 (平均して、1週間に) *	1,049	1.54	2.31
II 教員の授業改善に向けて			
II 1 各回の授業内容は明確だった	2,002	4.36	0.75
II 2 教員の伝え方はわかりやすかった	1,989	4.26	0.84
III 学生が授業に期待するもの			
III 3 この授業を受けて満足した	2,006	4.34	0.78

注 1) 回答者数は延べ人数

注 2) 平均値は、各選択肢の評価点を使用して算出

(5:大いにそう思う、4:そう思う、3:どちらともいえない、2:あまりそう思わない、1:そう思わない)

*I2の単位は「時間」

表 8-2 経営学部 (回答割合)

設 問 項 目	全有効回答者数	2,007
	回答者数 ^{注1)}	割合 ^{注2)}
II 教員の授業改善に向けて		
II 3 この授業でよいと思った点がありますか【複数選択可】	1,983 ^{*1}	98.8%
①配付資料 (授業のレジュメなど)	1,079	53.8%
②板書 (電子媒体のものを含む)	299	14.9%
③パワーポイント	871	43.4%
④動画等の映像視覚教材 (オンライン授業そのものの動画ではありません)	388	19.3%
⑤シラバス	184	9.2%
⑥上記にあてはまるものがない	172	8.6%
II 4 II3の選択肢を選んだ理由、あるいはそれ以外でこの授業でよいと思った点があれば記入してください【自由記述】	358 ^{*2}	17.8%
II 5 この授業で改善すべきだと思った点がありますか【複数選択可】	1,829 ^{*1}	91.1%
①配付資料 (授業のレジュメなど)	346	17.2%
②板書 (電子媒体のものを含む)	160	8.0%
③パワーポイント	153	7.6%
④動画等の映像視覚教材 (オンライン授業そのものの動画ではありません)	144	7.2%
⑤シラバス	89	4.4%
⑥上記にあてはまるものがない	1,139	56.8%
II 6 II5の選択肢を選んだ理由、あるいはそれ以外でこの授業で改善すべき点があれば記入してください【自由記述】	313 ^{*2}	15.6%
III 学生が授業に期待するもの		
III 1 この授業から得ることができたものがありますか【複数選択可】	2,000 ^{*1}	99.7%
①自分にとって新しい考え方・発想	1,029	51.3%
②授業で扱った分野に関する基本的な専門知識	1,357	67.6%
③自分で調べ考える姿勢	454	22.6%
④学問的興味	667	33.2%
⑤上記にあてはまるものがない	22	1.1%
III 2 III1以外でこの授業から得ることができたものがあれば記入してください【自由記述】	109 ^{*2}	5.4%

注 1) 回答者数

*1: 当該設問 (複数選択可) の項目に1つでも回答した者の延べ人数

*2: 当該設問 (自由記述) に回答 (記述) した者の延べ人数

上記 (*1 および *2) 以外の項目は当該設問の項目を選択した者の延べ人数

注 2) 割合の算出

回答者数を、全有効回答者数で除することによって算出

表9-1 異文化コミュニケーション学部（平均値）

設 問 項 目	回答者数 ^{注1)}	平均値 ^{注2)}	標準偏差
I 学生の学習姿勢			
I1 この授業に積極的に参加した	1,565	4.45	0.71
I2 この授業に関連して、授業以外に学習した時間（平均して、1週間に）*	665	1.85	2.73
II 教員の授業改善に向けて			
II1 各回の授業内容は明確だった	1,564	4.43	0.77
II2 教員の伝え方はわかりやすかった	1,558	4.35	0.84
III 学生が授業に期待するもの			
III3 この授業を受けて満足した	1,562	4.43	0.80

注1) 回答者数は延べ人数

注2) 平均値は、各選択肢の評価点を使用して算出

(5:大いにそう思う、4:そう思う、3:どちらともいえない、2:あまりそう思わない、1:そう思わない)

*I2の単位は「時間」

表9-2 異文化コミュニケーション学部（回答割合）

設 問 項 目	全有効回答者数	1,567
	回答者数 ^{注1)}	割合 ^{注2)}
II 教員の授業改善に向けて		
II3 この授業でよいと思った点がありますか【複数選択可】	1,533 ^{*1}	97.8%
①配付資料（授業のレジュメなど）	648	41.4%
②板書（電子媒体のものを含む）	320	20.4%
③パワーポイント	724	46.2%
④動画等の映像視覚教材（オンライン授業そのものの動画ではありません）	341	21.8%
⑤シラバス	177	11.3%
⑥上記にあてはまるものがない	198	12.6%
II4 II3の選択肢を選んだ理由、あるいはそれ以外でこの授業でよいと思った点があれば記入してください【自由記述】	318 ^{*2}	20.3%
II5 この授業で改善すべきだと思った点がありますか【複数選択可】	1,335 ^{*1}	85.2%
①配付資料（授業のレジュメなど）	190	12.1%
②板書（電子媒体のものを含む）	90	5.7%
③パワーポイント	116	7.4%
④動画等の映像視覚教材（オンライン授業そのものの動画ではありません）	82	5.2%
⑤シラバス	69	4.4%
⑥上記にあてはまるものがない	875	55.8%
II6 II5の選択肢を選んだ理由、あるいはそれ以外でこの授業で改善すべき点があれば記入してください【自由記述】	191 ^{*2}	12.2%
III 学生が授業に期待するもの		
III1 この授業から得ることができたものがありますか【複数選択可】	1,552 ^{*1}	99.0%
①自分にとって新しい考え方・発想	1,026	65.5%
②授業で扱った分野に関する基本的な専門知識	788	50.3%
③自分で調べ考える姿勢	521	33.2%
④学問的興味	651	41.5%
⑤上記にあてはまるものがない	44	2.8%
III2 III1以外でこの授業から得ることができたものがあれば記入してください【自由記述】	125 ^{*2}	8.0%

注1) 回答者数

*1: 当該設問（複数選択可）の項目に1つでも回答した者の延べ人数

*2: 当該設問（自由記述）に回答（記述）した者の延べ人数

上記（*1および*2）以外の項目は当該設問の項目を選択した者の延べ人数

注2) 割合の算出

回答者数を、全有効回答者数で除することによって算出

表10-1 グローバル・リベラルアーツ・プログラム（平均値）

設 問 項 目	回答者数 ^{注1)}	平均値 ^{注2)}	標準偏差
I 学生の学習姿勢			
I1 この授業に積極的に参加した	213	4.27	0.74
I2 この授業に関連して、授業以外に学習した時間（平均して、1週間に）*	137	2.17	1.61
II 教員の授業改善に向けて			
II1 各回の授業内容は明確だった	214	4.36	0.78
II2 教員の伝え方はわかりやすかった	214	4.23	0.89
III 学生が授業に期待するもの			
III3 この授業を受けて満足した	213	4.37	0.80

注1) 回答者数は延べ人数

注2) 平均値は、各選択肢の評価点を使用して算出

(5:大いにそう思う、4:そう思う、3:どちらともいえない、2:あまりそう思わない、1:そう思わない)

*I2の単位は「時間」

表10-2 グローバル・リベラルアーツ・プログラム（回答割合）

設 問 項 目	全有効回答者数	214
	回答者数 ^{注1)}	割合 ^{注2)}
II 教員の授業改善に向けて		
II3 この授業でよいと思った点がありますか【複数選択可】	213 ^{*1}	99.5%
①配付資料（授業のレジュメなど）	99	46.3%
②板書（電子媒体のものを含む）	63	29.4%
③パワーポイント	132	61.7%
④動画等の映像視覚教材（オンライン授業そのものの動画ではありません）	57	26.6%
⑤シラバス	53	24.8%
⑥上記にあてはまるものがない	14	6.5%
II4 II3の選択肢を選んだ理由、あるいはそれ以外でこの授業でよいと思った点があれば記入してください【自由記述】	60 ^{*2}	28.0%
II5 この授業で改善すべき点だと思った点がありますか【複数選択可】	196 ^{*1}	91.6%
①配付資料（授業のレジュメなど）	29	13.6%
②板書（電子媒体のものを含む）	11	5.1%
③パワーポイント	20	9.3%
④動画等の映像視覚教材（オンライン授業そのものの動画ではありません）	20	9.3%
⑤シラバス	16	7.5%
⑥上記にあてはまるものがない	122	57.0%
II6 II5の選択肢を選んだ理由、あるいはそれ以外でこの授業で改善すべき点があれば記入してください【自由記述】	51 ^{*2}	23.8%
III 学生が授業に期待するもの		
III1 この授業から得ることができたものがありますか【複数選択可】	213 ^{*1}	99.5%
①自分にとって新しい考え方・発想	142	66.4%
②授業で扱った分野に関する基本的な専門知識	136	63.6%
③自分で調べ考える姿勢	95	44.4%
④学問的興味	113	52.8%
⑤上記にあてはまるものがない	9	4.2%
III2 III1以外でこの授業から得ることができたものがあれば記入してください【自由記述】	28 ^{*2}	13.1%

注1) 回答者数

*1:当該設問（複数選択可）の項目に1つでも回答した者の延べ人数

*2:当該設問（自由記述）に回答（記述）した者の延べ人数

上記（*1および*2）以外の項目は当該設問の項目を選択した者の延べ人数

注2) 割合の算出

回答者数を、全有効回答者数で除することによって算出

表 1 1 - 1 観光学部 (平均値)

設 問 項 目	回答者数 ^{注1)}	平均値 ^{注2)}	標準偏差
I 学生の学習姿勢			
I 1 この授業に積極的に参加した	1,460	4.25	0.71
I 2 この授業に関連して、授業以外に学習した時間 (平均して、1週間に) *	735	1.29	2.71
II 教員の授業改善に向けて			
II 1 各回の授業内容は明確だった	1,462	4.39	0.70
II 2 教員の伝え方はわかりやすかった	1,460	4.28	0.79
III 学生が授業に期待するもの			
III 3 この授業を受けて満足した	1,462	4.37	0.70

注 1) 回答者数は延べ人数

注 2) 平均値は、各選択肢の評価点を使用して算出

(5:大いにそう思う、4:そう思う、3:どちらともいえない、2:あまりそう思わない、1:そう思わない)

*I2の単位は「時間」

表 1 1 - 2 観光学部 (回答割合)

設 問 項 目	全有効回答者数	1,466
	回答者数 ^{注1)}	割合 ^{注2)}
II 教員の授業改善に向けて		
II 3 この授業でよいと思った点がありますか【複数選択可】	1,452 ^{*1}	99.0%
①配付資料 (授業のレジュメなど)	902	61.5%
②板書 (電子媒体のものを含む)	238	16.2%
③パワーポイント	554	37.8%
④動画等の映像視覚教材 (オンライン授業そのものの動画ではありません)	327	22.3%
⑤シラバス	92	6.3%
⑥上記にあてはまるものがない	85	5.8%
II 4 II3の選択肢を選んだ理由、あるいはそれ以外でこの授業でよいと思った点があれば記入してください【自由記述】	271 ^{*2}	18.5%
II 5 この授業で改善すべきだと思った点がありますか【複数選択可】	1,309 ^{*1}	89.3%
①配付資料 (授業のレジュメなど)	218	14.9%
②板書 (電子媒体のものを含む)	82	5.6%
③パワーポイント	72	4.9%
④動画等の映像視覚教材 (オンライン授業そのものの動画ではありません)	64	4.4%
⑤シラバス	48	3.3%
⑥上記にあてはまるものがない	889	60.6%
II 6 II5の選択肢を選んだ理由、あるいはそれ以外でこの授業で改善すべき点があれば記入してください【自由記述】	206 ^{*2}	14.1%
III 学生が授業に期待するもの		
III 1 この授業から得ることができたものがありますか【複数選択可】	1,457 ^{*1}	99.4%
①自分にとって新しい考え方・発想	791	54.0%
②授業で扱った分野に関する基本的な専門知識	957	65.3%
③自分で調べ考える姿勢	270	18.4%
④学問的興味	603	41.1%
⑤上記にあてはまるものがない	12	0.8%
III 2 III1以外でこの授業から得ることができたものがあれば記入してください【自由記述】	90 ^{*2}	6.1%

注 1) 回答者数

*1: 当該設問 (複数選択可) の項目に1つでも回答した者の延べ人数

*2: 当該設問 (自由記述) に回答 (記述) した者の延べ人数

上記 (*1 および *2) 以外の項目は当該設問の項目を選択した者の延べ人数

注 2) 割合の算出

回答者数を、全有効回答者数で除することによって算出

表12-1 コミュニティ福祉学部 (平均値)

設 問 項 目	回答者数 ^{注1)}	平均値 ^{注2)}	標準偏差
I 学生の学習姿勢			
I1 この授業に積極的に参加した	1,272	4.36	0.69
I2 この授業に関連して、授業以外に学習した時間 (平均して、1週間に) *	553	1.56	3.09
II 教員の授業改善に向けて			
II1 各回の授業内容は明確だった	1,270	4.35	0.74
II2 教員の伝え方はわかりやすかった	1,268	4.26	0.84
III 学生が授業に期待するもの			
III3 この授業を受けて満足した	1,272	4.34	0.76

注1) 回答者数は延べ人数

注2) 平均値は、各選択肢の評価点を使用して算出

(5:大いにそう思う、4:そう思う、3:どちらともいえない、2:あまりそう思わない、1:そう思わない)

*I2の単位は「時間」

表12-2 コミュニティ福祉学部 (回答割合)

設 問 項 目	全有効回答者数	1,275
	回答者数 ^{注1)}	割合 ^{注2)}
II 教員の授業改善に向けて		
II3 この授業でよいと思った点がありますか【複数選択可】	1,259 ^{*1}	98.7%
①配付資料 (授業のレジュメなど)	773	60.6%
②板書 (電子媒体のものを含む)	175	13.7%
③パワーポイント	505	39.6%
④動画等の映像視覚教材 (オンライン授業そのものの動画ではありません)	347	27.2%
⑤シラバス	78	6.1%
⑥上記にあてはまるものがない	83	6.5%
II4 II3の選択肢を選んだ理由、あるいはそれ以外でこの授業でよいと思った点があれば記入してください【自由記述】	285 ^{*2}	22.4%
II5 この授業で改善すべきだと思った点がありますか【複数選択可】	1,103 ^{*1}	86.5%
①配付資料 (授業のレジュメなど)	179	14.0%
②板書 (電子媒体のものを含む)	90	7.1%
③パワーポイント	65	5.1%
④動画等の映像視覚教材 (オンライン授業そのものの動画ではありません)	45	3.5%
⑤シラバス	18	1.4%
⑥上記にあてはまるものがない	774	60.7%
II6 II5の選択肢を選んだ理由、あるいはそれ以外でこの授業で改善すべき点があれば記入してください【自由記述】	199 ^{*2}	15.6%
III 学生が授業に期待するもの		
III1 この授業から得ることができたものがありますか【複数選択可】	1,265 ^{*1}	99.2%
①自分にとって新しい考え方・発想	763	59.8%
②授業で扱った分野に関する基本的な専門知識	821	64.4%
③自分で調べ考える姿勢	216	16.9%
④学問的興味	445	34.9%
⑤上記にあてはまるものがない	29	2.3%
III2 III1以外でこの授業から得ることができたものがあれば記入してください【自由記述】	73 ^{*2}	5.7%

注1) 回答者数

*1:当該設問 (複数選択可) の項目に1つでも回答した者の延べ人数

*2:当該設問 (自由記述) に回答 (記述) した者の延べ人数

上記 (*1 および *2) 以外の項目は当該設問の項目を選択した者の延べ人数

注2) 割合の算出

回答者数を、全有効回答者数で除することによって算出

表13-1 現代心理学部（平均値）

設問項目	回答者数 ^{注1)}	平均値 ^{注2)}	標準偏差
I 学生の学習姿勢			
I1 この授業に積極的に参加した	456	4.10	0.84
I2 この授業に関連して、授業以外に学習した時間（平均して、1週間に）*	198	1.12	1.94
II 教員の授業改善に向けて			
II1 各回の授業内容は明確だった	459	4.22	0.85
II2 教員の伝え方はわかりやすかった	459	3.98	1.00
III 学生が授業に期待するもの			
III3 この授業を受けて満足した	456	4.12	0.86
IV 学部等による設問			
IV1 この授業の受講者数は適切だった	457	4.40	0.61
IV2 この授業の設備・環境に満足している	459	4.37	0.73

注1) 回答者数は延べ人数

注2) 平均値は、各選択肢の評価点を使用して算出

(5:大いにそう思う、4:そう思う、3:どちらともいえない、2:あまりそう思わない、1:そう思わない)

*I2の単位は「時間」

表13-2 現代心理学部（回答割合）

設問項目	全有効回答者数	割合 ^{注2)}
II 教員の授業改善に向けて		
II3 この授業でよいと思った点がありますか【複数選択可】	457 ^{*1}	99.3%
①配付資料（授業のレジюмеなど）	288	62.6%
②板書（電子媒体のものを含む）	105	22.8%
③パワーポイント	139	30.2%
④動画等の映像視覚教材（オンライン授業そのものの動画ではありません）	94	20.4%
⑤シラバス	26	5.7%
⑥上記にあてはまるものがない	23	5.0%
II4 II3の選択肢を選んだ理由、あるいはそれ以外でこの授業でよいと思った点があれば記入してください【自由記述】	48 ^{*2}	10.4%
II5 この授業で改善すべきだと思った点がありますか【複数選択可】	403 ^{*1}	87.6%
①配付資料（授業のレジюмеなど）	74	16.1%
②板書（電子媒体のものを含む）	40	8.7%
③パワーポイント	26	5.7%
④動画等の映像視覚教材（オンライン授業そのものの動画ではありません）	12	2.6%
⑤シラバス	10	2.2%
⑥上記にあてはまるものがない	283	61.5%
II6 II5の選択肢を選んだ理由、あるいはそれ以外でこの授業で改善すべき点があれば記入してください【自由記述】	52 ^{*2}	11.3%
III 学生が授業に期待するもの		
III1 この授業から得ることができたものがありますか【複数選択可】	456 ^{*1}	99.1%
①自分にとって新しい考え方・発想	237	51.5%
②授業で扱った分野に関する基本的な専門知識	309	67.2%
③自分で調べ考える姿勢	42	9.1%
④学問的興味	187	40.7%
⑤上記にあてはまるものがない	11	2.4%
III2 III1以外でこの授業から得ることができたものがあれば記入してください【自由記述】	6 ^{*2}	1.3%

注1) 回答者数

*1: 当該設問（複数選択可）の項目に1つでも回答した者の延べ人数

*2: 当該設問（自由記述）に回答（記述）した者の延べ人数

上記（*1 および*2）以外の項目は当該設問の項目を選択した者の延べ人数

注2) 割合の算出

回答者数を、全有効回答者数で除することによって算出

表 1 4 - 1 スポーツウエルネス学部 (平均値)

設 問 項 目	回答者数 ^{注1)}	平均値 ^{注2)}	標準偏差
I 学生の学習姿勢			
I 1 この授業に積極的に参加した	545	4.48	0.63
I 2 この授業に関連して、授業以外に学習した時間 (平均して、1週間に) *	191	1.33	3.23
II 教員の授業改善に向けて			
II 1 各回の授業内容は明確だった	548	4.59	0.65
II 2 教員の伝え方はわかりやすかった	547	4.54	0.71
III 学生が授業に期待するもの			
III 3 この授業を受けて満足した	545	4.65	0.58

注 1) 回答者数は延べ人数

注 2) 平均値は、各選択肢の評価点を使用して算出

(5:大いにそう思う、4:そう思う、3:どちらともいえない、2:あまりそう思わない、1:そう思わない)

*I2の単位は「時間」

表 1 4 - 2 スポーツウエルネス学部 (回答割合)

設 問 項 目	全有効回答者数	548
	回答者数 ^{注1)}	割合 ^{注2)}
II 教員の授業改善に向けて		
II 3 この授業でよいと思った点がありますか【複数選択可】	545 ^{*1}	99.5%
①配付資料 (授業のレジュメなど)	229	41.8%
②板書 (電子媒体のものを含む)	115	21.0%
③パワーポイント	323	58.9%
④動画等の映像視覚教材 (オンライン授業そのものの動画ではありません)	232	42.3%
⑤シラバス	35	6.4%
⑥上記にあてはまるものがない	17	3.1%
II 4 II3の選択肢を選んだ理由、あるいはそれ以外でこの授業でよいと思った点があれば記入してください【自由記述】	122 ^{*2}	22.3%
II 5 この授業で改善すべきだと思った点がありますか【複数選択可】	478 ^{*1}	87.2%
①配付資料 (授業のレジュメなど)	62	11.3%
②板書 (電子媒体のものを含む)	31	5.7%
③パワーポイント	26	4.7%
④動画等の映像視覚教材 (オンライン授業そのものの動画ではありません)	12	2.2%
⑤シラバス	18	3.3%
⑥上記にあてはまるものがない	361	65.9%
II 6 II5の選択肢を選んだ理由、あるいはそれ以外でこの授業で改善すべき点があれば記入してください【自由記述】	62 ^{*2}	11.3%
III 学生が授業に期待するもの		
III 1 この授業から得ることができたものがありますか【複数選択可】	544 ^{*1}	99.3%
①自分にとって新しい考え方・発想	401	73.2%
②授業で扱った分野に関する基本的な専門知識	264	48.2%
③自分で調べ考える姿勢	135	24.6%
④学問的興味	208	38.0%
⑤上記にあてはまるものがない	4	0.7%
III 2 III 1以外でこの授業から得ることができたものがあれば記入してください【自由記述】	44 ^{*2}	8.0%

注 1) 回答者数

*1: 当該設問 (複数選択可) の項目に1つでも回答した者の延べ人数

*2: 当該設問 (自由記述) に回答 (記述) した者の延べ人数

上記 (*1 および*2) 以外の項目は当該設問の項目を選択した者の延べ人数

注 2) 割合の算出

回答者数を、全有効回答者数で除することによって算出

表 15-1 全学共通カリキュラム運営センター・総合系科目（平均値）

設 問 項 目	回答者数 ^{注1)}	平均値 ^{注2)}	標準偏差
I 学生の学習姿勢			
I1 この授業に積極的に参加した	12,546	4.31	0.76
I2 この授業に関連して、授業以外に学習した時間（平均して、1週間に）*	5,925	1.20	2.49
II 教員の授業改善に向けて			
II1 各回の授業内容は明確だった	12,560	4.37	0.78
II2 教員の伝え方はわかりやすかった	12,530	4.26	0.87
III 学生が授業に期待するもの			
III3 この授業を受けて満足した	12,514	4.30	0.85
IV 学部等による設問			
IV1 この授業の教室の大きさは適切だった	12,507	4.21	0.98
IV2 この授業の受講者数は適切だった	12,505	4.24	0.84
IV3 この授業の行われた教室の環境や設備は十分だった（大きさの観点を除く）	12,521	4.32	0.83
IV4 【学びの精神のみ対象】この授業を通して高校と大学の学びの違いを感じた	4,560	4.38	0.80
IV5 【学びの精神のみ対象】この授業を通して大学の授業を受ける心構えができた	4,557	4.15	0.89
IV6 【F科目のみ対象】この授業を通して英語に対する抵抗感が和らいだ	637	4.02	1.03

注1) 回答者数は延べ人数

注2) 平均値は、各選択肢の評価点を使用して算出

(5:大いにそう思う、4:そう思う、3:どちらともいえない、2:あまりそう思わない、1:そう思わない)

*I2の単位は「時間」

表 15-2 全学共通カリキュラム運営センター・総合系科目（回答割合）

設 問 項 目	全有効回答者数	12,606
	回答者数 ^{注1)}	割合 ^{注2)}
II 教員の授業改善に向けて		
II3 この授業でよいと思った点がありますか【複数選択可】	12,460 ^{*1}	98.8%
①配付資料（授業のレジュメなど）	6,720	53.3%
②板書（電子媒体のものを含む）	1,939	15.4%
③パワーポイント	5,259	41.7%
④動画等の映像視覚教材（オンライン授業そのものの動画ではありません）	4,075	32.3%
⑤シラバス	890	7.1%
⑥上記にあてはまるものがない	873	6.9%
II4 II3の選択肢を選んだ理由、あるいはそれ以外でこの授業でよいと思った点があれば記入してください【自由記述】	2,444 ^{*2}	19.4%
II5 この授業で改善すべきだと思った点がありますか【複数選択可】	11,082 ^{*1}	87.9%
①配付資料（授業のレジュメなど）	1,925	15.3%
②板書（電子媒体のものを含む）	866	6.9%
③パワーポイント	849	6.7%
④動画等の映像視覚教材（オンライン授業そのものの動画ではありません）	429	3.4%
⑤シラバス	436	3.5%
⑥上記にあてはまるものがない	7,398	58.7%
II6 II5の選択肢を選んだ理由、あるいはそれ以外でこの授業で改善すべき点があれば記入してください【自由記述】	1,885 ^{*2}	15.0%
III 学生が授業に期待するもの		
III1 この授業から得ることができたものがありますか【複数選択可】	12,530 ^{*1}	99.4%
①自分にとって新しい考え方・発想	8,080	64.1%
②授業で扱った分野に関する基本的な専門知識	6,328	50.2%
③自分で調べ考える姿勢	2,444	19.4%
④学問的興味	5,428	43.1%
⑤上記にあてはまるものがない	297	2.4%
III2 III1以外でこの授業から得ることができたものがあれば記入してください【自由記述】	783 ^{*2}	6.2%

注1) 回答者数

*1:当該設問（複数選択可）の項目に1つでも回答した者の延べ人数

*2:当該設問（自由記述）に回答（記述）した者の延べ人数

上記（*1および*2）以外の項目は当該設問の項目を選択した者の延べ人数

注2) 割合の算出

回答者数を、全有効回答者数で除することによって算出

表 16-1 全学共通カリキュラム運営センター・言語系科目（平均値）

設 問 項 目	回答者数 ^{注1)}	平均値 ^{注2)}	標準偏差
I 学生の学習姿勢			
I1 この授業に積極的に参加した	21,229	4.53	0.64
I2 この授業に関連して、授業以外に学習した時間（平均して、1週間に）*	8,328	1.88	2.75
II 教員の授業改善に向けて			
II1 各回の授業内容は明確だった	21,275	4.54	0.70
II2 教員の伝え方はわかりやすかった	21,193	4.48	0.78
III 学生が授業に期待するもの			
III3 この授業を受けて満足した	21,183	4.44	0.79
IV 学部等による設問			
IV1 宿題や課題は授業内容の理解を深めるのに役立った	21,222	4.38	0.78
IV2 宿題や課題へのフィードバック、質問に対しての対応が十分になされた	21,218	4.40	0.81
IV3 授業内での既習事項の確認・復習が十分になされた	21,192	4.37	0.80
IV4 その言語の学習を継続したいと思うようになった	21,263	4.26	0.88

注1) 回答者数は延べ人数

注2) 平均値は、各選択肢の評価点を使用して算出

(5:大にそう思う、4:そう思う、3:どちらともいえない、2:あまりそう思わない、1:そう思わない)

*I2の単位は「時間」

表 16-2 全学共通カリキュラム運営センター・言語系科目（回答割合）

設 問 項 目	全有効回答者数 回答者数 ^{注1)}	割合 ^{注2)}
II 教員の授業改善に向けて	21,323	
II3 この授業でよいと思った点はありますか【複数選択可】	21,026 ^{*1}	98.6%
①配付資料（授業のレジュメなど）	8,308	39.0%
②板書（電子媒体のものを含む）	6,144	28.8%
③パワーポイント	8,359	39.2%
④動画等の映像視覚教材（オンライン授業そのものの動画ではありません）	4,232	19.8%
⑤シラバス	2,291	10.7%
⑥上記にあてはまるものがない	2,598	12.2%
II4 II3の選択肢を選んだ理由、あるいはそれ以外でこの授業でよいと思った点があれば記入してください【自由記述】	3,957 ^{*2}	18.6%
II5 この授業で改善すべきだと思った点はありますか【複数選択可】	18,759 ^{*1}	88.0%
①配付資料（授業のレジュメなど）	1,981	9.3%
②板書（電子媒体のものを含む）	1,305	6.1%
③パワーポイント	753	3.5%
④動画等の映像視覚教材（オンライン授業そのものの動画ではありません）	812	3.8%
⑤シラバス	634	3.0%
⑥上記にあてはまるものがない	14,452	67.8%
II6 II5の選択肢を選んだ理由、あるいはそれ以外でこの授業で改善すべき点があれば記入してください【自由記述】	2,178 ^{*2}	10.2%
III 学生が授業に期待するもの		
III1 この授業から得ることができたものがありますか【複数選択可】	21,163 ^{*1}	99.2%
①自分にとって新しい考え方・発想	9,750	45.7%
②授業で扱った分野に関する基本的な専門知識	9,948	46.7%
③自分で調べ考える姿勢	8,442	39.6%
④学問的興味	5,650	26.5%
⑤上記にあてはまるものがない	1,006	4.7%
III2 III1以外でこの授業から得ることができたものがあれば記入してください【自由記述】	1,658 ^{*2}	7.8%
IV 学部等による設問		
IV4 この授業を通して向上した能力はなんですか【複数選択可】	21,146 ^{*1}	99.2%
①読む力	9,786	45.9%
②書く力	9,543	44.8%
③聞く力	8,632	40.5%
④話す力	11,044	51.8%
⑤プレゼンテーションをする力	3,788	17.8%
⑥ディスカッションをする力	5,258	24.7%

注1) 回答者数

*1: 当該設問（複数選択可）の項目に1つでも回答した者の延べ人数

*2: 当該設問（自由記述）に回答（記述）した者の延べ人数

上記（*1および*2）以外の項目は当該設問の項目を選択した者の延べ人数

注2) 割合の算出

回答者数を、全有効回答者数で除することによって算出

表 17-1 学校・社会教育講座（平均値）

設 問 項 目	回答者数 ^{注1)}	平均値 ^{注2)}	標準偏差
I 学生の学習姿勢			
I 1 この授業に積極的に参加した	865	4.45	0.63
I 2 この授業に関連して、授業以外に学習した時間（平均して、1週間に）*	480	0.91	1.50
II 教員の授業改善に向けて			
II 1 各回の授業内容は明確だった	867	4.57	0.60
II 2 教員の伝え方はわかりやすかった	866	4.56	0.67
III 学生が授業に期待するもの			
III 3 この授業を受けて満足した	869	4.55	0.66

注 1) 回答者数は延べ人数

注 2) 平均値は、各選択肢の評価点を使用して算出

(5:大いにそう思う、4:そう思う、3:どちらともいえない、2:あまりそう思わない、1:そう思わない)

*I2の単位は「時間」

表 17-2 学校・社会教育講座（回答割合）

設 問 項 目	全有効回答者数	871
	回答者数 ^{注1)}	割合 ^{注2)}
II 教員の授業改善に向けて		
II 3 この授業でよいと思った点がありますか【複数選択可】	867 ^{*1}	99.5%
①配付資料（授業のレジュメなど）	554	63.6%
②板書（電子媒体のものを含む）	141	16.2%
③パワーポイント	408	46.8%
④動画等の映像視覚教材（オンライン授業そのものの動画ではありません）	254	29.2%
⑤シラバス	42	4.8%
⑥上記にあてはまるものがない	49	5.6%
II 4 II3の選択肢を選んだ理由、あるいはそれ以外でこの授業でよいと思った点があれば記入してください【自由記述】	203 ^{*2}	23.3%
II 5 この授業で改善すべきだと思った点がありますか【複数選択可】	737 ^{*1}	84.6%
①配付資料（授業のレジュメなど）	67	7.7%
②板書（電子媒体のものを含む）	37	4.2%
③パワーポイント	29	3.3%
④動画等の映像視覚教材（オンライン授業そのものの動画ではありません）	28	3.2%
⑤シラバス	19	2.2%
⑥上記にあてはまるものがない	591	67.9%
II 6 II5の選択肢を選んだ理由、あるいはそれ以外でこの授業で改善すべき点があれば記入してください【自由記述】	106 ^{*2}	12.2%
III 学生が授業に期待するもの		
III 1 この授業から得ることができたものがありますか【複数選択可】	870 ^{*1}	99.9%
①自分にとって新しい考え方・発想	559	64.2%
②授業で扱った分野に関する基本的な専門知識	612	70.3%
③自分で調べ考える姿勢	192	22.0%
④学問的興味	301	34.6%
⑤上記にあてはまるものがない	12	1.4%
III 2 III1以外でこの授業から得ることができたものがあれば記入してください【自由記述】	46 ^{*2}	5.3%

注 1) 回答者数

*1:当該設問（複数選択可）の項目に1つでも回答した者の延べ人数

*2:当該設問（自由記述）に回答（記述）した者の延べ人数

上記（*1および*2）以外の項目は当該設問の項目を選択した者の延べ人数

注 2) 割合の算出

回答者数を、全有効回答者数で除することによって算出

2023 年度「学生による授業評価アンケート」報告書

2024 年 9 月発行

編集 立教大学 大学教育開発・支援センター

発行 立教大学 大学教育開発・支援センター

〒171-8501 東京都豊島区西池袋 3-34-1

TEL 03-3985-4624 FAX 03-3985-4615

<https://www.rikkyo.ac.jp/about/activities/fd/cdshe.html>

e-mail cdshe@rikkyo.ac.jp

